

埼玉県本庄市

# 本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ

— 社具路遺跡Ⅱ・三杓山1号～6号墳 —

本庄市教育委員会

# 序

本庄市が所在する埼玉県の北西部の児玉郡は、明治22年まで、児玉郡、賀美郡、那珂郡と三郡に分れており、これらの郡域が定められたのは律令時代にさかのぼるようです。

律令によって定められたということは、既に、それ以前から人口の密集した地域であり、武蔵国全体からみても、狭い範囲に三郡が設置されていたことは、言い換えれば文化の著しく栄えていた土地柄でありました。事実、古墳の密度は埼玉県内でも抜群の高さを示しているようです。

資料館長在職中、発掘現場を時折り訪れ、また「チビッ子発掘教室」を主催し、実際に作業にたずさわり、また埋蔵文化財センターで整理中の遺物を手にして、本庄市の古代文化の水準の高さを直接肌を感じたものであります。

今回刊行する社具路遺跡Ⅱ・三杓山1号～6号墳の報告書は、このような時代の一端を知ることのできる好資料であると確信しております。

発刊するにあたり、いろいろ御指導いただいた、県文化財保護課はじめ、多くの方々、直接作業に当られた埋蔵文化財センターの諸氏に厚く御礼申しあげて、ごあいさついたします。

昭和61年3月15日

本庄市教育委員会

教育長 坂本 敬信

## 例 言

1. 本書は、本庄市教育委員会が調査主体となって実施した本庄遺跡群発掘調査報告を二篇集録している。それぞれに凡例を付してある。
2. 本書に収録した遺跡の発掘調査、整理にあたっては、次の方々からの協力を得た。(順不同)  
三上元一 外尾常人 外山 修 鈴木徳雄 田村 誠 岡本幸男  
長滝歳康 小野英彦 栗原文蔵 塩野 博 早川智明 小川良祐  
菅谷浩之 坂本和俊 坂野和信 金子真士 梅沢太久夫 高田儀三郎  
高橋一彦 福島興敏 水島治平 柴崎起三雄
3. 社具路遺跡Ⅱの第38図20の礎は、坂野和信氏の原因及び観察を使用した。
4. 本書に使用した遺構実測図、写真、出土遺物は、本庄市埋蔵文化財センターに保管している。
5. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行(昭和58年1月30日)の1:50000『高崎』の一部を、各遺跡の位置図は、本庄市役所発行の1:2500都市計画図の一部を複製したものである。

## 目 次

序

例 言

社具路遺跡(Ⅱ)発掘調査報告書

例 言

### I 発掘調査の契機と経過

1. 発掘調査に至る経過…………… 1
2. 発掘調査の経過…………… 1

### II 社具路遺跡

1. 遺構…………… 2
2. 遺物…………… 23
3. 小結…………… 72

## 挿 図 目 次

第 1 図 遺跡の位置

第 2 図 社具路遺跡位置図

- 第 3 図 社具路遺跡全測図
- 第 4 図 社具路遺跡90号住居址・1号土坑
- 第 5 図 社具路遺跡90号住居址カマド
- 第 6 図 社具路遺跡91・92号住居址
- 第 7 図 社具路遺跡91号住居址カマド(1)
- 第 8 図 社具路遺跡91号住居址カマド(2)
- 第 9 図 社具路遺跡93・94号住居址
- 第 10 図 社具路遺跡94号住居址カマド
- 第 11 図 社具路遺跡95号住居址
- 第 12 図 社具路遺跡94・95号住居址出土遺物
- 第 13 図 社具路遺跡96・97・98号住居址
- 第 14 図 社具路遺跡96号住居址カマド
- 第 15 図 社具路遺跡97号住居址カマド
- 第 16 図 社具路遺跡99・105号住居址
- 第 17 図 社具路遺跡99号住居址カマド
- 第 18 図 社具路遺跡100号住居址・100号住居址カマド・4号土坑
- 第 19 図 社具路遺跡101号住居址
- 第 20 図 社具路遺跡101号住居址カマド
- 第 21 図 社具路遺跡102・103・104号住居址
- 第 22 図 社具路遺跡104号住居址・102号住居址カマド
- 第 23 図 社具路遺跡103号住居址カマド
- 第 24 図 社具路遺跡溝・2・3号土坑
- 第 25 図 社具路遺跡90号住居址出土遺物(1)
- 第 26 図 社具路遺跡90号住居址出土遺物(2)
- 第 27 図 社具路遺跡91号住居址出土遺物(1)
- 第 28 図 社具路遺跡91号住居址出土遺物(2)
- 第 29 図 社具路遺跡91・92・93号住居址出土遺物
- 第 30 図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(1)
- 第 31 図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(2)
- 第 32 図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(3)
- 第 33 図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(4)
- 第 34 図 社具路遺跡95号住居址出土遺物(1)
- 第 35 図 社具路遺跡95号住居址出土遺物(2)
- 第 36 図 社具路遺跡96号住居址出土遺物
- 第 37 図 社具路遺跡97号住居址出土遺物(1)
- 第 38 図 社具路遺跡97号住居址出土遺物

- 第 39 図 社具路遺跡98号住居址出土遺物
- 第 40 図 社具路遺跡99号住居址出土遺物
- 第 41 図 社具路遺跡100号住居址出土遺物(1)
- 第 42 図 社具路遺跡100号住居址出土遺物(2)
- 第 43 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(1)
- 第 44 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(2)
- 第 45 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(3)
- 第 46 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(4)
- 第 47 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(5)
- 第 48 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(6)
- 第 49 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(7)
- 第 50 図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(8)
- 第 51 図 社具路遺跡102号住居址出土遺物(1)
- 第 52 図 社具路遺跡102号住居址出土遺物(2)
- 第 53 図 社具路遺跡102号住居址出土遺物(3)
- 第 54 図 社具路遺跡103号住居址出土遺物
- 第 55 図 社具路遺跡104号住居址出土遺物
- 第 56 図 社具路遺跡出土土錘
- 第 57 図 社具路遺跡出土鉄・砥石・勾玉・紡錘車・石鏃

## 写 真 図 版

- 写真図版 1 社具路遺跡90号住居址・90号住居址カマド
- 写真図版 2 社具路遺跡91号 92号住居址
- 写真図版 3 社具路遺跡91号住居址カマド(1)・(2)
- 写真図版 4 社具路遺跡91号住居址遺物出土状況
- 写真図版 5 社具路遺跡93号94号住居址・93号住居址遺物出土状況
- 写真図版 6 社具路遺跡94号住居址遺物出土状況
- 写真図版 7 社具路遺跡94号住居址遺物出土状況
- 写真図版 8 社具路遺跡95号 97号住居址・95号住居址遺物出土状況
- 写真図版 9 社具路遺跡95号住居址遺物出土状況・97号住居址遺物出土状況
- 写真図版 10 社具路遺跡97号住居址遺物出土状況・97号住居址カマド
- 写真図版 11 社具路遺跡97号住居址遺物出土状況・96号98号住居址
- 写真図版 12 社具路遺跡96号住居址カマド・96号住居址遺物出土状況
- 写真図版 13 社具路遺跡99号 105号住居址・99号住居址遺物出土状況
- 写真図版 14 社具路遺跡100号住居址・100号住居址遺物出土状況

写真図版15	社具路遺跡100号住居址遺物出土状況・100号 99号住居址
写真図版16	社具路遺跡101号住居址
写真図版17	社具路遺跡101号住居址カマド・101号住居址遺物出土状況
写真図版18	社具路遺跡101号住居址遺物出土状況
写真図版19	社具路遺跡101号住居址遺物出土状況・102号 103号住居址
写真図版20	社具路遺跡102号 103号住居址・102号住居址カマド
写真図版21	社具路遺跡102号住居址遺物出土状況
写真図版22	社具路遺跡102号住居址遺物出土状況
写真図版23	社具路遺跡103号住居址カマド・104号住居址
写真図版24	社具路遺跡住居址・調査風景

## 三空山1号墳～6号墳発掘調査報告書

### 例言

I 調査の契約と経過	73
II 遺跡の概要	73
III 遺構について	74
1. 1号墳	74
2. 2号墳	74
3. 3号墳	75
4. 4号墳	75
5. 5号墳	80
6. 6号墳	80
IV 出土遺物について	81
1. 1号墳出土遺物	81
2. 2号墳出土遺物	84
3. 4号～6号墳出土遺物	88
4. 遺構外出土遺物	89
V 調査のまとめ	89
1. 遺構について	89
2. 1号墳出土の埴輪	90
3. 2号墳出土の埴輪	90
4. 1号墳・2号墳の編年の位置	91
5. 埼玉県域におけるB種ヨコハケの出現と消滅	91

## 挿 図 目 次

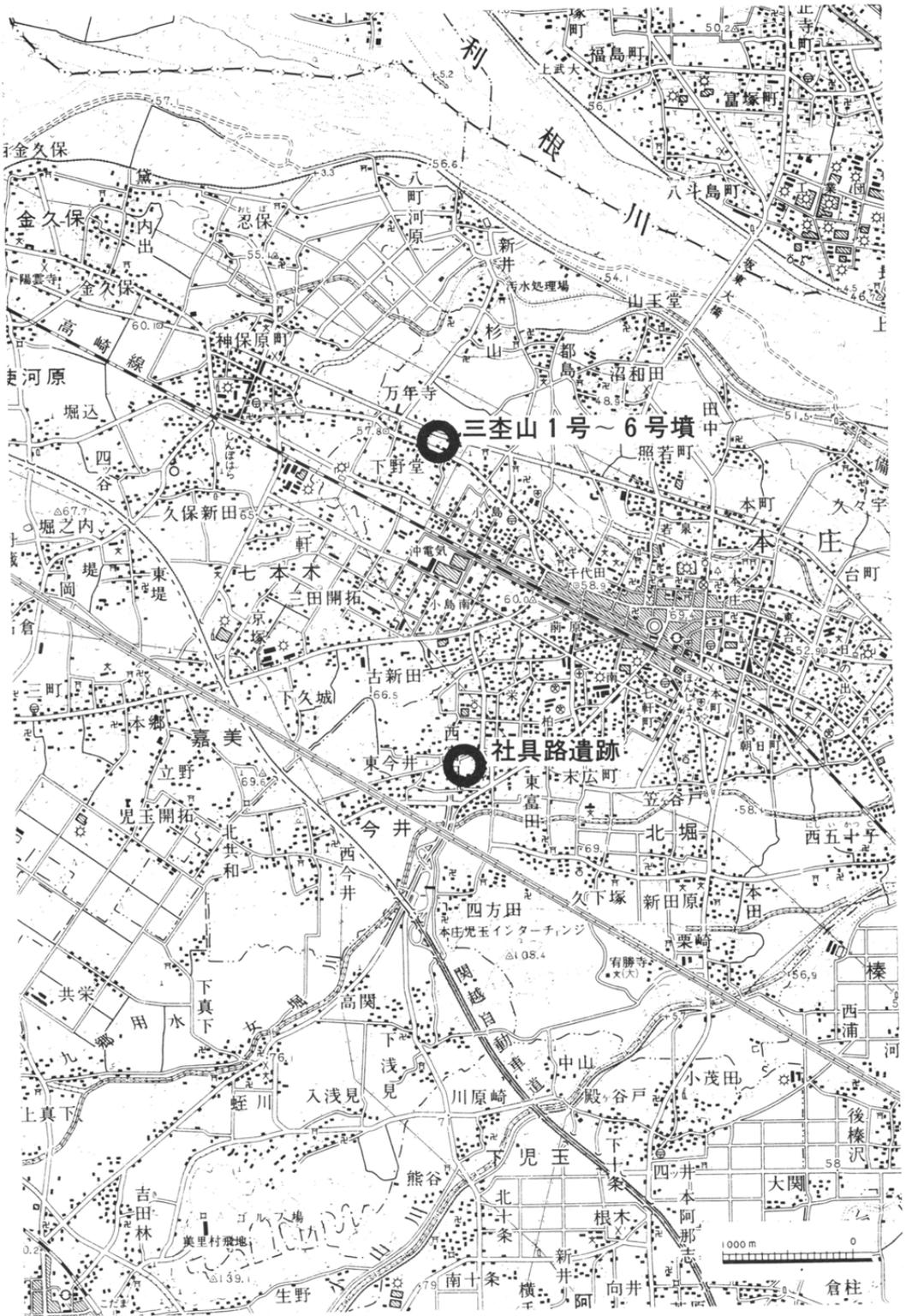
- 第 1 図 三奈山1号～6号墳位置図
- 第 2 図 三奈山1号～6号墳全測図
- 第 3 図 三奈山1号墳
- 第 4 図 三奈山1号墳主体部
- 第 5 図 三奈山2号墳・3号墳
- 第 6 図 三奈山4号墳・5号墳・6号墳
- 第 7 図 三奈山1号墳出土遺物(1)
- 第 8 図 三奈山1号墳出土遺物(2)・遺構外出土遺物
- 第 9 図 三奈山2号墳出土遺物(1)
- 第 10 図 三奈山2号墳出土遺物(2)
- 第 11 図 三奈山6号墳出土遺物

## 写 真 図 版

- 写真図版 1 三奈山1号墳・1号墳主体部
- 写真図版 2 三奈山1号墳主体部・1号墳主体部断面
- 写真図版 3 三奈山1号墳周堀・1号墳土壇 周堀
- 写真図版 4 三奈山2号墳・2号墳周堀
- 写真図版 5 三奈山2号墳堀出土状況
- 写真図版 6 三奈山2号墳埴輪出土状況・1号墳 2号墳
- 写真図版 7 三奈山3～6号墳
- 写真図版 8 三奈山6号墳 溝・6号墳紡錘車出土状況

### 本庄市埋蔵文化財調査報告 既刊一覧

- 第1集 埼玉県本庄市 御手長山古墳発掘調査報告書
- 第2集 埼玉県本庄市 女堀遺跡群発掘調査概報
- 第3集 埼玉県本庄市 本庄住宅団地造成基本計画策定地域内  
埋蔵文化財分布状況調査報告書
- 第4集 埼玉県本庄市 旭・小島古墳群発掘調査報告書
- 第5集1分冊 埼玉県本庄市 二本松遺跡発掘調査報告書  
一 県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う発掘調査報告Ⅰ一
- 2分冊 埼玉県本庄市 夏目遺跡発掘調査報告書  
一 県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う発掘調査報告Ⅱ一
- 第6集 埼玉県本庄市 本庄遺跡群発掘調査報告書  
一 夏目遺跡・三奈山古墳・三奈山7号墳一
- 第7集 埼玉県本庄市 本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ  
一 久下東遺跡・遺構一



第1図 遺跡の位置



社具路遺跡Ⅱ

発掘調査報告書





## 例 言

1. 本報告書は、(株) サンファミリーの依頼を受け、本庄市教育委員会が調査主体となって実施した発掘調査報告書である。発掘調査及び整理に係る費用は(株) サンファミリーが負担し、報告書刊行の費用は本庄市教育委員会が負担した。
2. 発掘調査は昭和57年1月から4月にかけて長谷川勇が担当し、統括したが、石橋桂一、高橋今日子の2名が主として現地作業の指揮にあたった。
3. 住居址番号は既に調査されているものと後日の混乱を避けるため90号から番号を付した。
4. 出土品の整理は担当者及び補助員を中心として本庄市埋蔵文化財センターで実施した。
5. 本書の執筆は担当者及び補助員が分担して行い、それぞれ文末に記したが、文体を整えるために担当者が加除筆と、編集を行なった。
6. 本報告書に使用した遺構実測図は60分の1、カマドは30分の1としたが各図にスケールは付さなかった。遺物は4分の1に統一し、スケールは付してない。遺物の観察は従前通りである。(『埼玉県本庄市 二本松遺跡発掘調査報告書』を参照されたい。)
7. 発掘調査、整理の組織は下記のとおりである。

昭和57年度

調査主体者 本庄市教育委員会

教育長	飯島 彰
社会教育課長	島田徳三
指導主事	矢崎昭夫
課長補佐兼文	
化財保護係長	長谷川道夫
社会教育係長	高田節子
文化財保護係	長谷川勇
〃	反町光弘
〃	増田一裕

調査担当者 長谷川勇

調査補助員 石橋桂一・大東今日子

作業従事 茂木秀敏他

昭和60年度

整理主体者 本庄市教育委員会

教育長	坂本敬信
社会教育課長	戸塚克男
指導主事	矢崎昭夫
課長補佐兼文	
化財保護係長	長谷川道夫
社会教育係長	小林弘子
文化財保護係	長谷川勇
〃	中田啓一
〃	増田一裕

整理担当者 長谷川勇

調査補助員 石橋桂一・高橋今日子

井上富美子

作業従事 関根典子・久保田かづ子

津久井八重子・大谷八重子

渡辺直子

8. 文化庁長官に提出した「埋蔵文化財発掘通知」の概要は下記のとおりである。

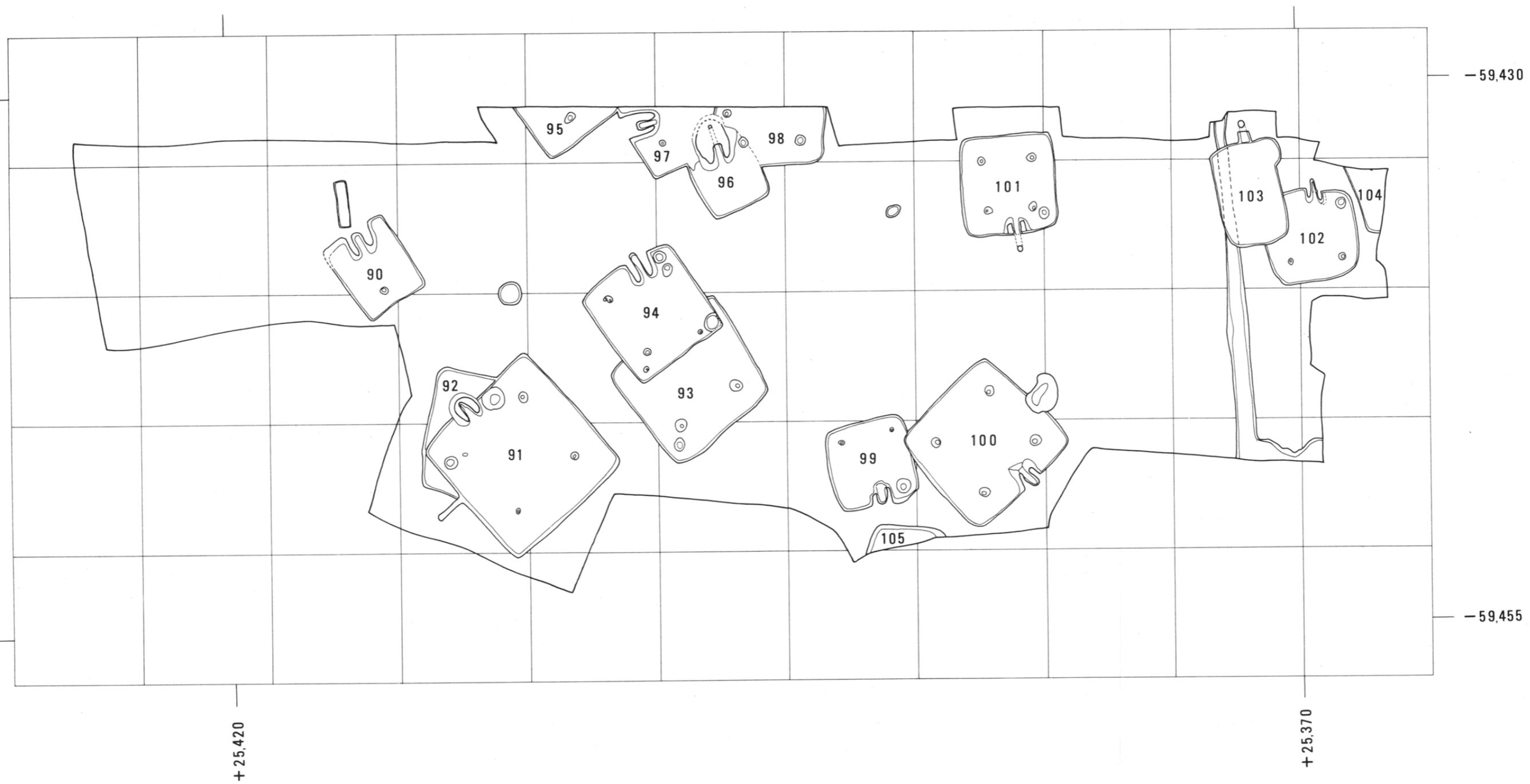
所在地 本庄市大字西富田字金鑽420-1

発掘主体者 本庄市教育委員会

発掘担当者 長谷川勇

文化庁通知57委保記第2-589号 昭和57年4月30

日付



第3図 社具路遺跡全測図



# I . 発掘調査の契機と経過

## 1 . 発掘調査に至る経過

昭和56年11月、本市教育委員会主体による、県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う二本松遺跡の発掘調査中、調査に従事していた西富田435番地、門倉正治氏より、開発に伴う事前の発掘調査についての協議が口頭でもたらされた。

門倉氏の所有地に、土地賃貸契約を結び店舗と駐車場を建設するという計画である。この開発区域は、県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴い発掘調査が実施された社具路遺跡に東接しており、遺跡が所在することが明らかであり、門倉氏自身、これらのことは熟知していたものである。

これを受けて本市教育委員会では、地主である門倉氏及び事業者である(株)サンファミリーとの協議を重ねた結果、発掘調査も止むを得ず、記録保存の処置をとることになり、発掘調査及び整理の費用は全額(株)サンファミリーで負担することになった。

調査区域は店舗の建築部分のみとし、設計変更のある場合は、改めて協議を行うこととして、二本松遺跡の発掘調査の作業縮小化に併せて、順次調査組織の主流を移して実施することになった。

## 2 . 発掘調査の経過

終了真近になっていた二本松遺跡の発掘調査組織を順次移行して実施することになっていた調査は、1月28日から重機を導入して、表土除去から開始された。表土はぎに併行して遺構の確認作業を行い、6日間で調査部分の表土除去を終了し、住居址14軒を確認した。

表土除去の終了とともに、基準杭の設定と、二本松遺跡から水準点の移動、及び遺構の検出作業に着手したが、南北に細長い調査区域であるため、遺構の検出が中途半端であることから、南側と西側にかかっている住居址については拡張し、検出した住居址は完掘することになった。2月16日より拡張作業に入り、91号、92号、93号、99号、100号、102号の各住居址を完掘できることになり、新たに104号住居址、105号住居址の一部を検出した。

更に調査区東側は隣接地境界線まで調査区を拡張して11軒の住居址と5軒の住居址の一部を確認することができた。

強い北風に悩まされながら3月17日までには、発掘、撮影、実測、遺物取りあげなど、大略の調査を終了させ、カマドや床面、柱穴などの細部の調査に入った。

カマドや床面、柱穴は残存状態は比較的良好であったが、調査区域南半では、旧地表やその下のローム層、柱穴や貯蔵穴、また住居址の覆土は非常に強い粘質をもち、特に覆土とカマド構築土とに差異が少なく、検出に苦慮する場合が多かった。

実測図の整備と遺構の撮影写真の整理など、遺構とのつきあわせ再確認を経て、現地調査の全作業を4月3日迄に終了した。残土中に混じった土器片の採集や機材の搬出等の作業を行い、現地から撤収、調査区域は埋め戻された。

## Ⅱ．社具路遺跡Ⅱ

### 1．遺 構

#### 90号住居址（第4図・第5図）

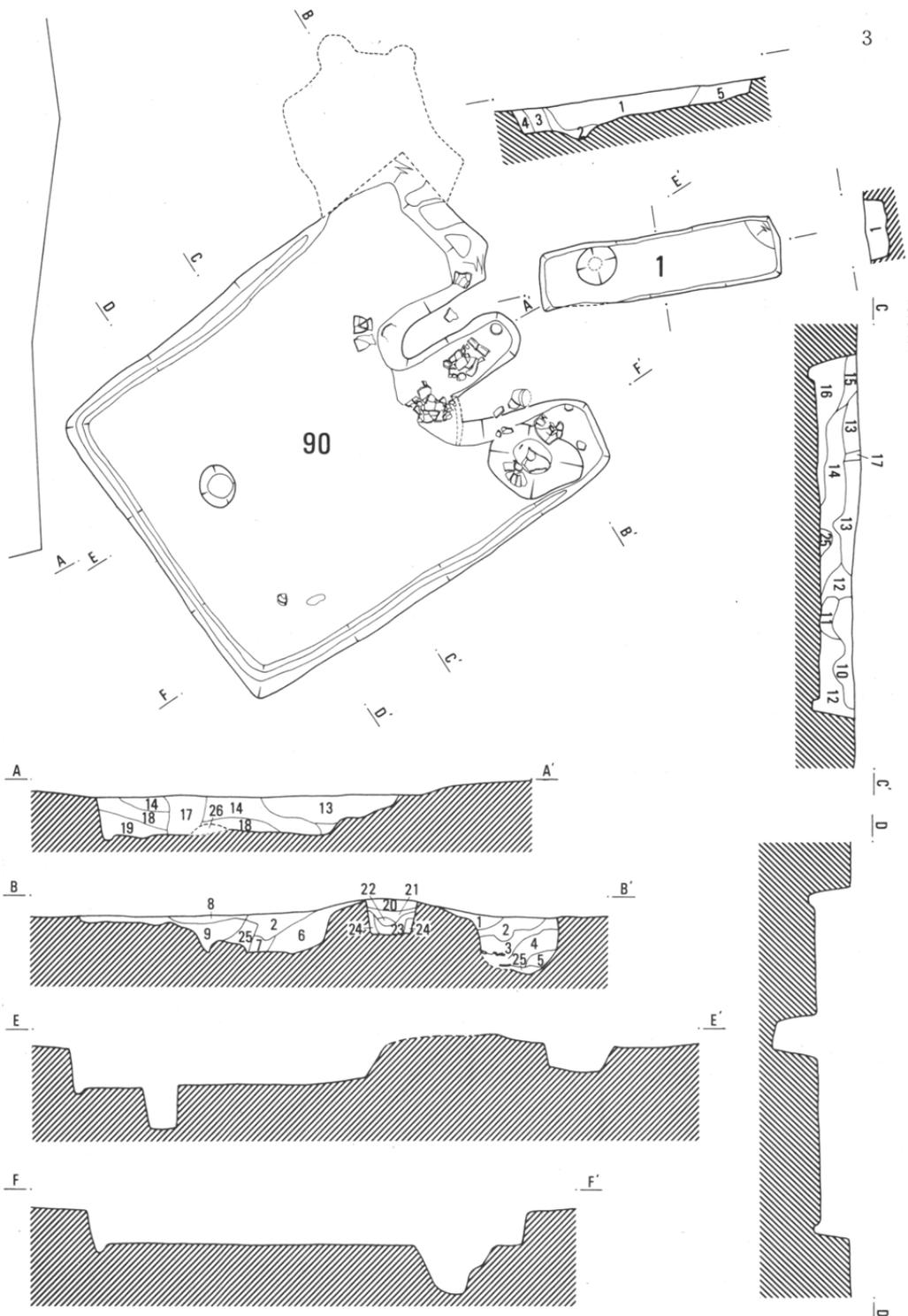
3. 3×3.9mの長方形を呈し、今回調査の他の住居址と比較して小規模で、北壁の一部が攪乱を受けている。壁高は30～40cmで傾斜をもち、床はほぼ平坦、軟弱である。カマドと向かいあった西壁側に柱穴と考えられるピットがあり、ピットに接して、焼成を受けた粘土の塊が検出されている。住居址内には他にピットは存在せず、また、カマド周辺を精査したが検出されなかった。壁溝が東壁部分を除きめぐっている。貯蔵穴はカマドの南側、向かって右側に設置され、覆土上位より甕が出土している。65×85cmの楕円形で、深さは約45cmである。カマドは住居址の東側に位置し、住居址の規模に比較して、大きなカマドで、煙道の壁外への張り出しが認められる。カマドの火床部に、カメが押圧された状態で、また向かって右側の袖口にも、カメが同様な状態で出土している。

遺物は、カマド及び貯蔵穴周辺にのみ出土している。

#### 91号住居址（第6図・第7図・第8図）

6. 8×7.0mの正方形に近い形態を呈し、92号住居址を切って構築されている。比較的規模の大きい住居址である。壁高は25～46cmで、壁はわずかな傾斜をもち、床はロームをそのまま床面とし、ほぼ平坦である。柱穴は4箇所検出され、ほぼ対角線上に位置し、深さは50～55cmであり、壁溝がカマド、貯蔵穴部分を除きめぐらされている。貯蔵穴はカマドの向かって右側に位置し、約80×80cmの方形を呈し、深さ50cm、底面は丸みをもつ。貯蔵穴からは、土器の破片が出土したのみである。カマドは東北壁に設置され、黒褐色土で構築されており、両袖口に甕を倒立させている。焚口部分は広く、煙道部分に至って狭くなっている。煙道は壁外へ伸びると考えられるが、29号住居址の覆土の中に作られているため、明確には断定しがたかった。また、北西壁側に幅30cm、長さ154cmの煙道が検出され、煙道内の両壁は、比較的硬く焼けていた。煙道の方向から見ると、当住居址に付属すると考えられる。しかし、住居址内には、その煙道と関連するカマドは検出されず、焼土等も認められなかった。このようなことから、当住居址が構築された当初は、北西壁にカマドが設けられ、その後カマドが撤去され、残存しているカマドが再び作られたものと理解したい。

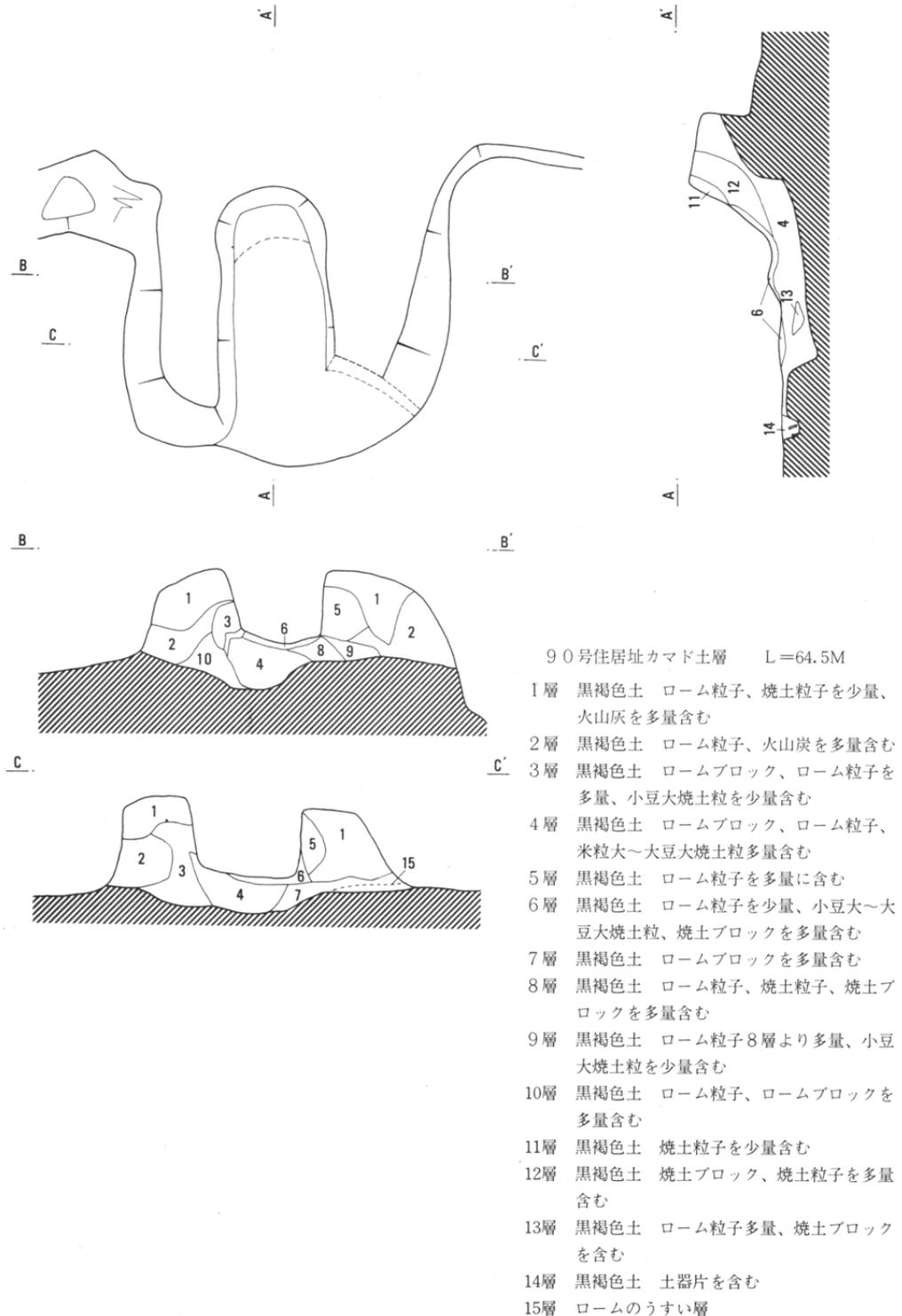
遺物は、カマド周辺にややまとまった状態で出土したほか、住居址全体にわたって出土している。南西部分では、土製勾玉、紡錘車、鉄製刀子破片が検出された。また、土錘の出土数が比較的多いことが、他の住居址に比べ特徴ある点である。東コーナーからは、人頭大の角閃石安山岩が検出されている。



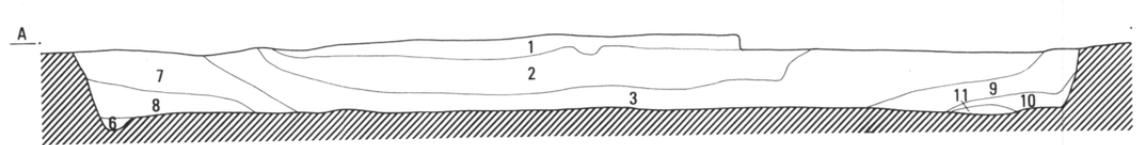
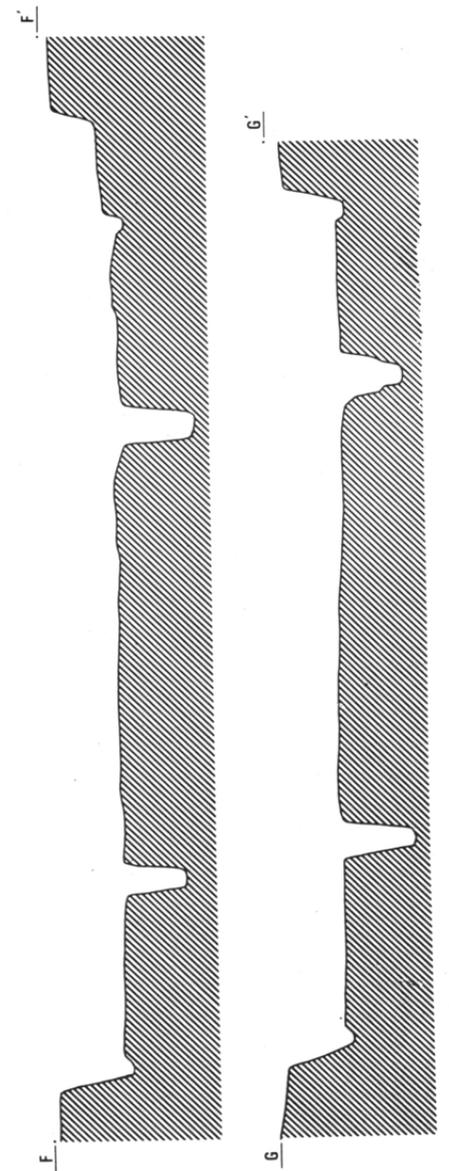
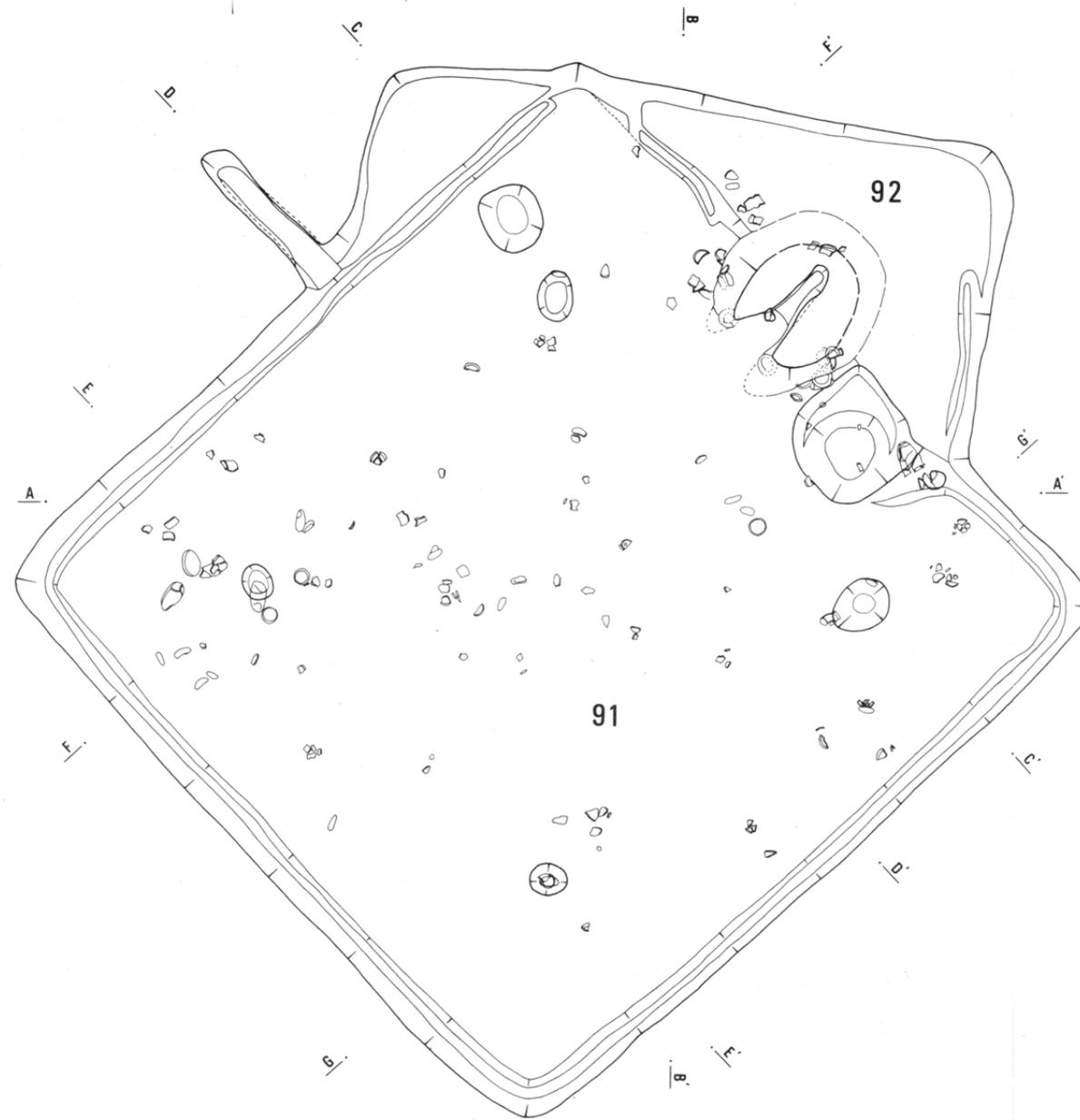
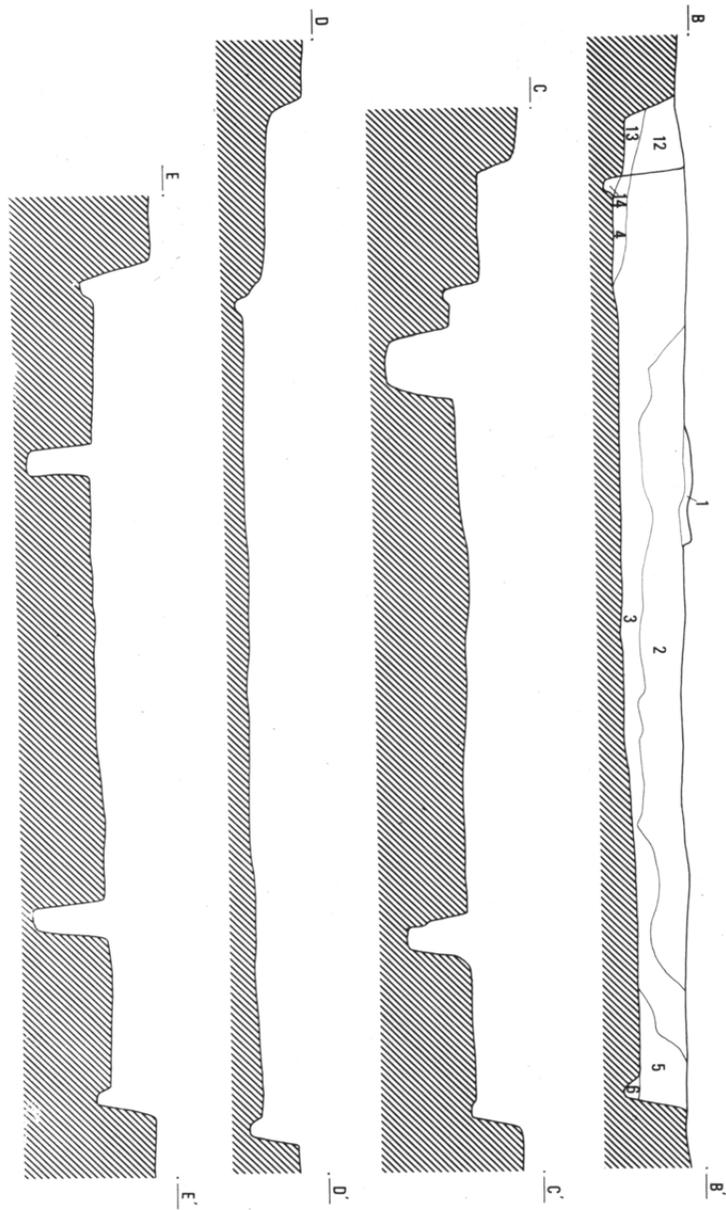
1号土坑 土層 L=64.5M

- 1層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量含む
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 3層 黒褐色土 ローム粒子を1層より少量含む
- 4層 黒褐色土 ロームブロックを2層より少量含む
- 5層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を1層より多量含む

第4図 社具路遺跡90号住居址・1号土坑



第5図 社具路遺跡90号住居址カマド



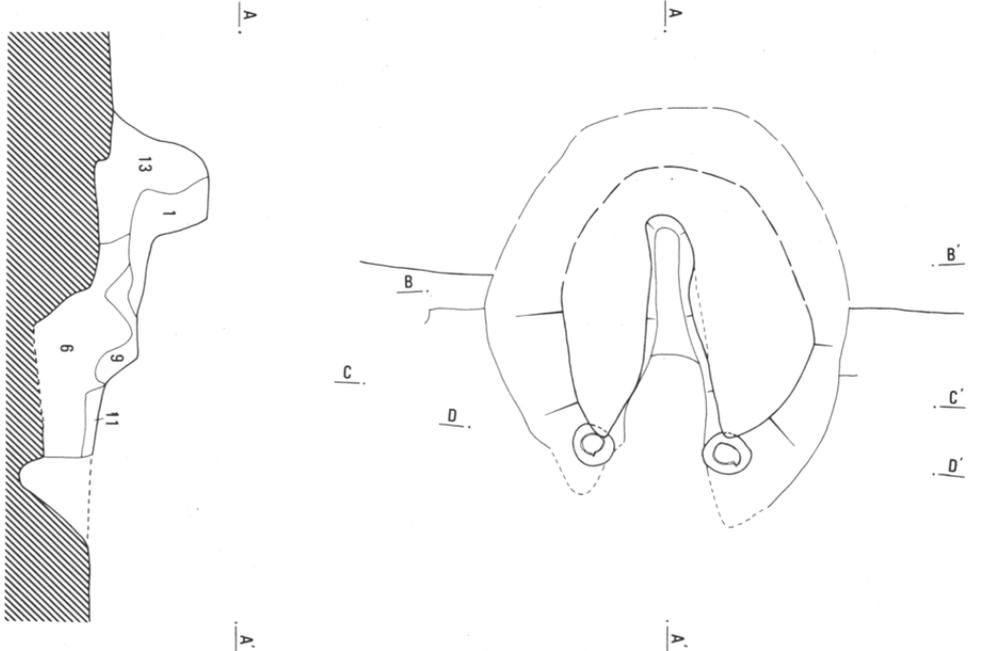
91・92号住居址土層 L=64.5M

- 1層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 2層 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- 3層 黒褐色土 ロームブロック、粒子、焼土粒子、指頭大礫を多量に含む
- 4層 黒褐色土 ロームブロックと黒色土を含む
- 5層 黒褐色土 ローム粒子を2層より少量含む 2層より黒色強い
- 6層 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- 7層 黒褐色土 ローム粒子を含む 2層より黒色強い
- 8層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む

- 9層 黒褐色土 ローム粒子、焼土を少量含む
- 10層 黒褐色土 9層より黒色強い
- 11層 固くしまったローム
- 12層 暗褐色土 ローム粒子を多量含む 2層より明るい
- 13層 黒色土 焼土、ロームブロック含む
- 14層 黒色土 ロームブロックを多量含む

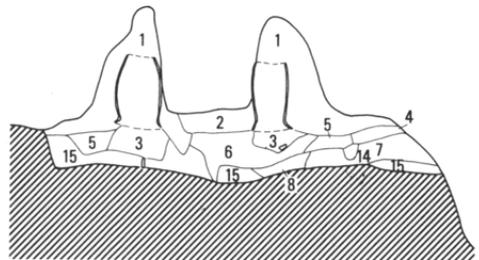
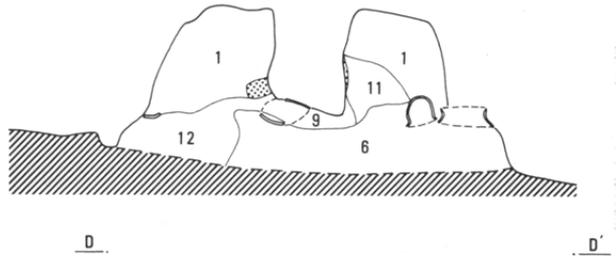
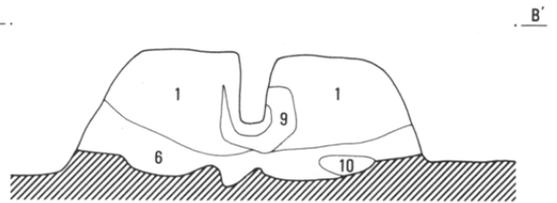
第6図 社具路遺跡91号・92号住居址



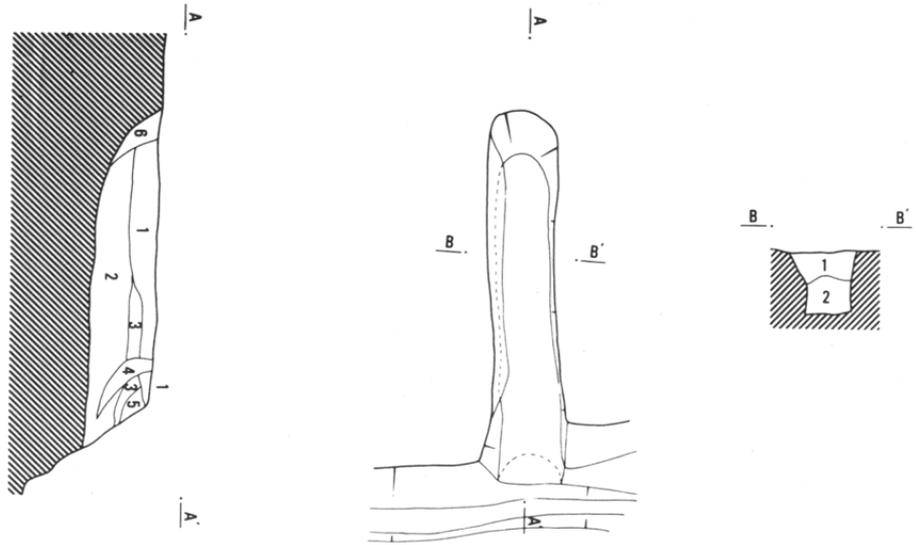


91号住居址カマド土層 L=64.5M

- 1層 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- 2層 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多量含む c
- 3層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む
- 4層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
- 5層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む
- 6層 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒子を多量含む
- 7層 黒褐色土 ロームブロックを3層より多量含む
- 8層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量含む
- 9層 黒褐色土 ローム粒子を少量、焼土ブロックを多量含む
- 10層 黒褐色土 指頭大のロームブロックを多量含む
- 11層 黒褐色土 ローム粒子を少量、大豆大焼土粒を含む
- 12層 黒褐色土 ロームブロックを少量、ローム粒子、大豆大焼土粒を多量含む
- 13層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
- 14層 ロームブロック
- 15層 ローム



第7図 社具路遺跡91号住居址カマド(1)



91号住居址（カマド） L=64.4

- 1層 黒褐色土
- 2層 黒褐色土 焼土を含む
- 3層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む
- 4層 黒色土
- 5層 暗茶褐色土 焼土を多量含む
- 6層 黒褐色土 焼土、ローム粒子を多量含む

第8図 社具路遺跡91号住居址カマド（2）

## 92号住居址（第6図）

北壁の長さが5.6mと計測できるほかは住居址の大部分が、91号住居址に切られているため、全体の規模、形態は不明である。残存している部分の床は、ローム面がそのまま床となり、壁高は25～35cmで、わずかな傾斜をもって立ち上がる。壁溝は一部で確認されたのみで、遺物の出土も少ない。

## 93号住居址（第9図）

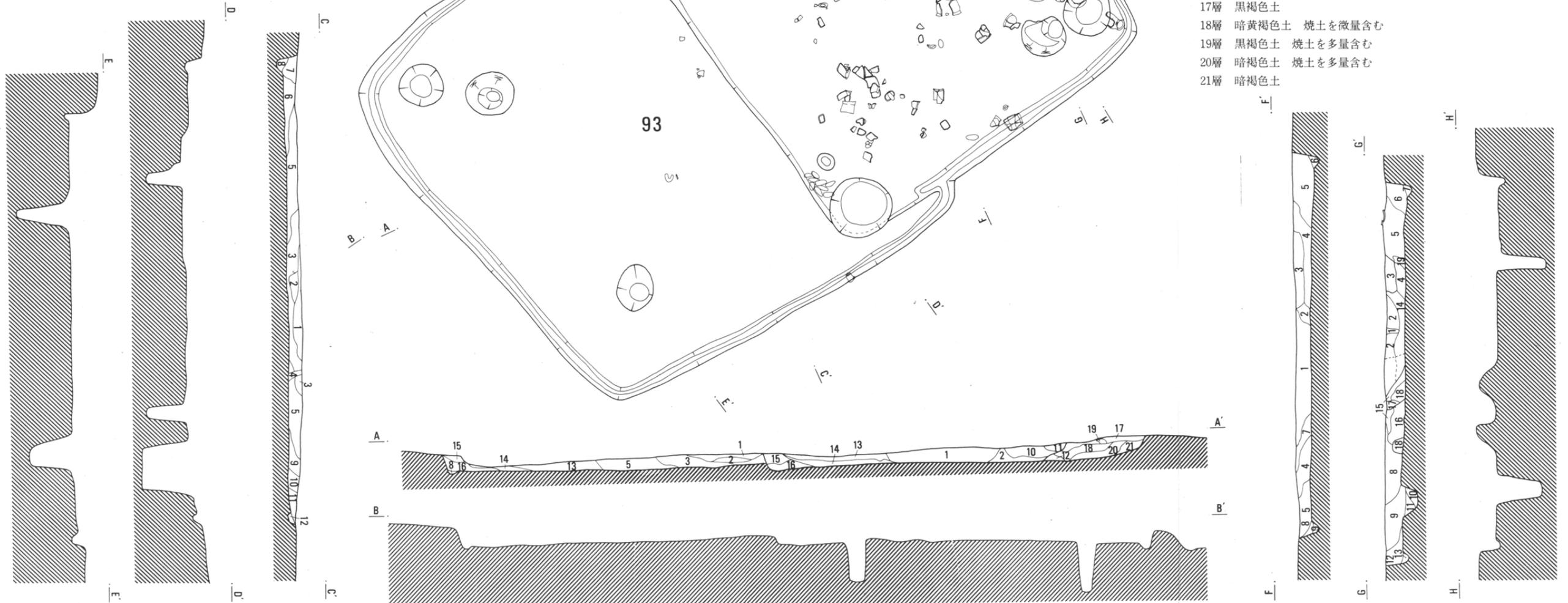
5.9×5.6mの不整の長方形を呈し、東側部分を94号住居址によって切られている。壁高は20～35cmであるが、遺構検出時の耕作土除去の際、不手際で一部壁を除去しすぎている。そのため部分的に壁の存在しない箇所がある。床はローム面を、そのまま床面とし、平坦である。柱穴は、当住居址内で2箇所を検出され、さらに94号住居址内に2箇所が検出されている。当住居址内の柱穴の深さは55～65cmであり、その底面の絶対高は94号住居址の2箇所と、ほぼ同レベルであり、ほぼ対角線上に位置している。柱穴のほかに西側コーナーにピットがみられる。壁溝は、94号住居址に切られた部分以外で認められ、カマドは94号住居址構築によって認められないが、94号住居址南コーナーのピットが当住居址に伴う貯蔵穴であると考えられる。遺物は僅少で、U字形の鍬先が床面近くのレベルで検出された他は、南壁にかかるような状態で高環脚部が出土したのみである。

93号住居址土層 L=64.6M

- 1層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
- 2層 黒褐色土 黒色土を多量、ローム粒子を含む
- 3層 黒褐色土 黒色土、ロームブロック、ローム粒子を多量含む
- 4層 黒灰色土 やや褐色を帯びる
- 5層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む 3層より明るい
- 6層 暗茶褐色土 ローム粒子を多量含む
- 7層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
- 8層 ロームブロックと黒褐色土
- 9層 暗茶褐色土
- 10層 黒褐色土 ロームブロックを含む
- 11層 黒褐色土 ロームを少量含む 10層より黒色強い
- 12層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む
- 13層 黒色土 こぶし大のロームブロックを含む
- 14層 暗褐色土 黒色土を含む
- 15層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 16層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む

94号住居址土層(2) L=64.6M

- 1層 黒褐色土 ロームブロックを少量、ローム粒子を多量含む
- 2層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む
- 3層 黒色土 ロームブロック、指頭大礫を少量含む
- 4層 黒褐色土 ローム粒子を多量、黒色土を少量含む
- 5層 黒褐色土 ローム粒子を含む 4層より黒色強い
- 6層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む 5層より黒色強い
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を含む
- 8層 黒褐色土 ロームブロックを含む 5層より黒色強い
- 9層 ロームブロックと黒褐色土
- 10層 黒色土 ローム粒子を含む やや褐色を帯びる
- 11層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
- 12層 ロームブロックと黒褐色土
- 13層 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- 14層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む
- 15層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
- 16層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む 15層より黒色強い
- 17層 黒褐色土
- 18層 暗黄褐色土 焼土を微量含む
- 19層 黒褐色土 焼土を多量含む
- 20層 暗褐色土 焼土を多量含む
- 21層 暗褐色土



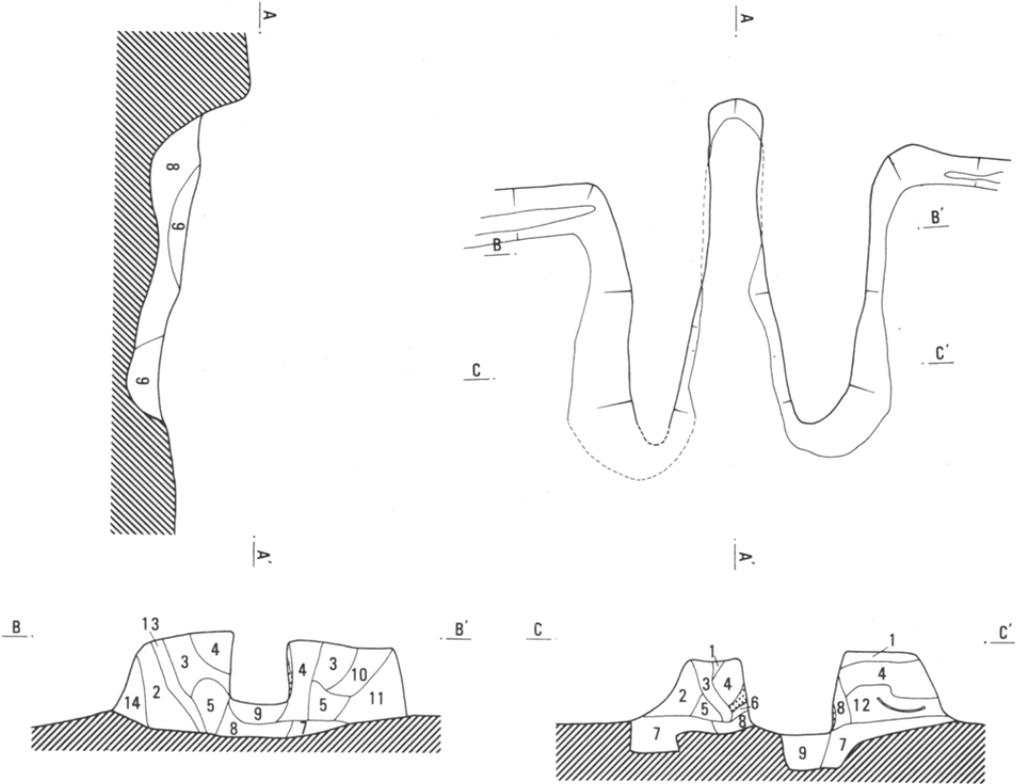
94号住居址土層(1) L=64.6MG-G'

- 1層 黒色土 ローム粒子を含む
- 2層 暗茶褐色土 ローム粒子を多量含む
- 3層 黒褐色土 ローム粒子を含む
- 4層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む 3層より黒色強い
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を多量、黒色土を少量含む
- 6層 暗茶褐色土 黒色土を多量含む
- 7層 茶褐色土 ロームを含む

- 8層 暗褐色土 ロームを多量含む
- 9層 暗褐色土 8層より明るい
- 10層 暗褐色土 黒色土を含む
- 11層 黒色土とロームブロック
- 12層 黒茶褐色土 ローム粒子を多量含む
- 13層 黒茶褐色土 黒色土を少量含む
- 14層 黒褐色土 ローム粒子を含む 3層より暗い
- 15層 黒褐色土

- 16層 暗黄褐色土 焼土を微量含む
- 17層 黒色土 ローム粒子を多量含む
- 18層 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 19層 ローム





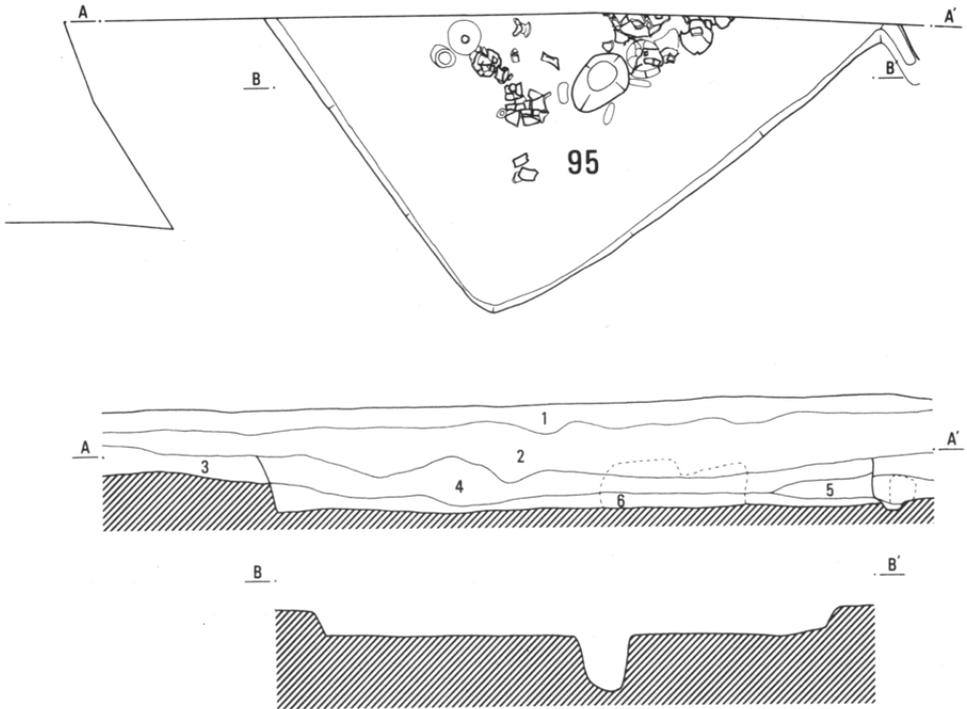
94号住居址カマド土層 L=64.4M

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1層 黒色土                    | 8層 褐色土 7層よりロームブロックを多量含む     |
| 2層 黒褐色土                   | 9層 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多量に含む    |
| 3層 黒褐色土 小指頭大焼土粒を多量含む      | 10層 黒褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量含む   |
| 4層 黒褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量含む  | 11層 黒褐色土 ローム粒子、指頭大礫を多量含む    |
| 5層 黒褐色土 指頭大礫を含む 粘性あり固くしまる | 12層 黒褐色土 4層より焼土粒子を多量含む      |
| 6層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む        | 13層 黒褐色土 焼土粒子を少量含む          |
| 7層 褐色土 ロームブロックを多量、焼土を少量含む | 14層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量含む |

第10図 社具路遺跡94号住居址カマド

### 94号住居址 (第9図・第10図)

5.0×4.9mの正方形に近い形態の住居址で、東壁の北部分が攪乱を受けている。壁高は20～30cmで、壁は垂直に近く立ちあがる。床は、ローム面をそのまま床面とし、やや凹凸が目立っている。柱穴は3箇所を確認されて、南側コーナー部分では検出できなかった。深さは55～65cmである。壁溝は西側を除き、めぐっている。貯蔵穴は、カマドの向って右側に位置し、60×65cmの不整円形である。カマドは東壁に構築され、床面が少々掘り下げられ、煙道が住居址外へ、わずかにのび、カマド内で甕と鉢が重なった状態で出土している。南西コーナーの土抔は、底面が礫層に達しているが、内部から遺物は検出されず、93号住居址の貯蔵穴でないかと考えられる。遺物は、住居址全域に散在するような状態で出土し、また当住居址出土の甕の破片と、95号住居址出土の甕の破片が接合し、一個体となる。南西コーナーから、所謂編物石が9個まとめて出土している。



95号住居址土層 L=64.6M

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1層 耕作土                     | 4層 黒色土 火山灰を少量含む 1、2層より黒色強い   |
| 2層 黒色土 火山灰を多量含む やや灰色を呈す    | 5層 黒色土 火山灰を4層より少量含む 4層より黒色強い |
| 3層 黒色土 2層と類似するが火山灰2層より少量含む | 6層 黒色土 ロームブロック、ローム粒子を含む      |

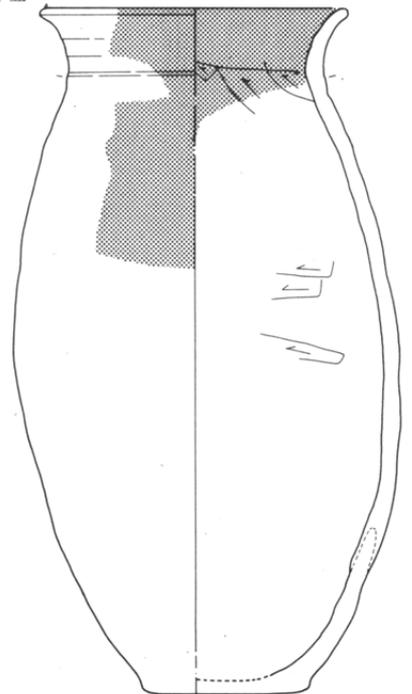
第11図 社具路遺跡95号住居址

### 95号住居址 (第11図)

住居址の東側部分が調査区域外であるため、全体の形態、規模は不明である。

土層観察により、南側に接する97号住居址より古いことが判明した。壁高は15~20cmとやや浅い。床面はローム面をそのまま床面とし、比較的硬くしまっている。柱穴は西側のコーナーに1箇所検出され、深さは45cmである。壁溝は存在しない。

遺物は柱穴より東側でまとまって検出され、床面に倒立させて据えられた状態で出土している甕もある。



第12図 社具路遺跡94号・95号住居址出土遺物

### 96号住居址 (第13図・第14図)

3. 1×2.9mの規模で、今回調査した範囲内では最も小さな住居址である。97号住居址及び98号住居址を切って構築されている。また、98号住居址の床面のレベルと当住居址の床面のレベルはほぼ同一である。西壁南側には、床面が階段状に掘り残してある。壁高は、32～44cmで壁溝は存在しない。柱穴もなく、住居址周辺を精査したが、ピットは検出されなかった。カマドは住居址東側に位置し、茶褐色土、黒色土で構築されているが、大部分が97、98号住居址の覆土中に築かれているため、全体的な形態は不明な点が多い。煙道部分は、住居址外へ伸び、カマドの右袖の外周にわずかな掘り込みが認められ、遺物の出土はきわめて少なかった。

### 97号住居址 (第13図・第15図)

住居址の東側は調査区域外であり、南側を96、98号住居址に切られているため、全体の規模形態は不明である。壁高は20cmと浅い。壁溝は検出された部分ではすべてめぐらされている。床はローム面をそのまま床面とし、平坦で比較的硬くしまっている。柱穴は1箇所確認され、深さ50cmを測り、98号住居址北側に位置するピットは、当住居址の柱穴と考えられる。カマドは北壁に位置し、床面に黒褐色土を以って築かれている。煙道はもたない。カマド内からは、甕が2個並んだ状態で出土し、下より、坏、甕の破片が検出された。また、カマド北隅から、甕と坏が重なった状態で出土した。貯蔵穴は不明である。

遺物は、カマド内及び周辺からの出土が最も多く、カマド右袖に接して須恵器の甎が出土している。また、柱穴の周囲からは大甕が出土している。

### 98号住居址 (第13図)

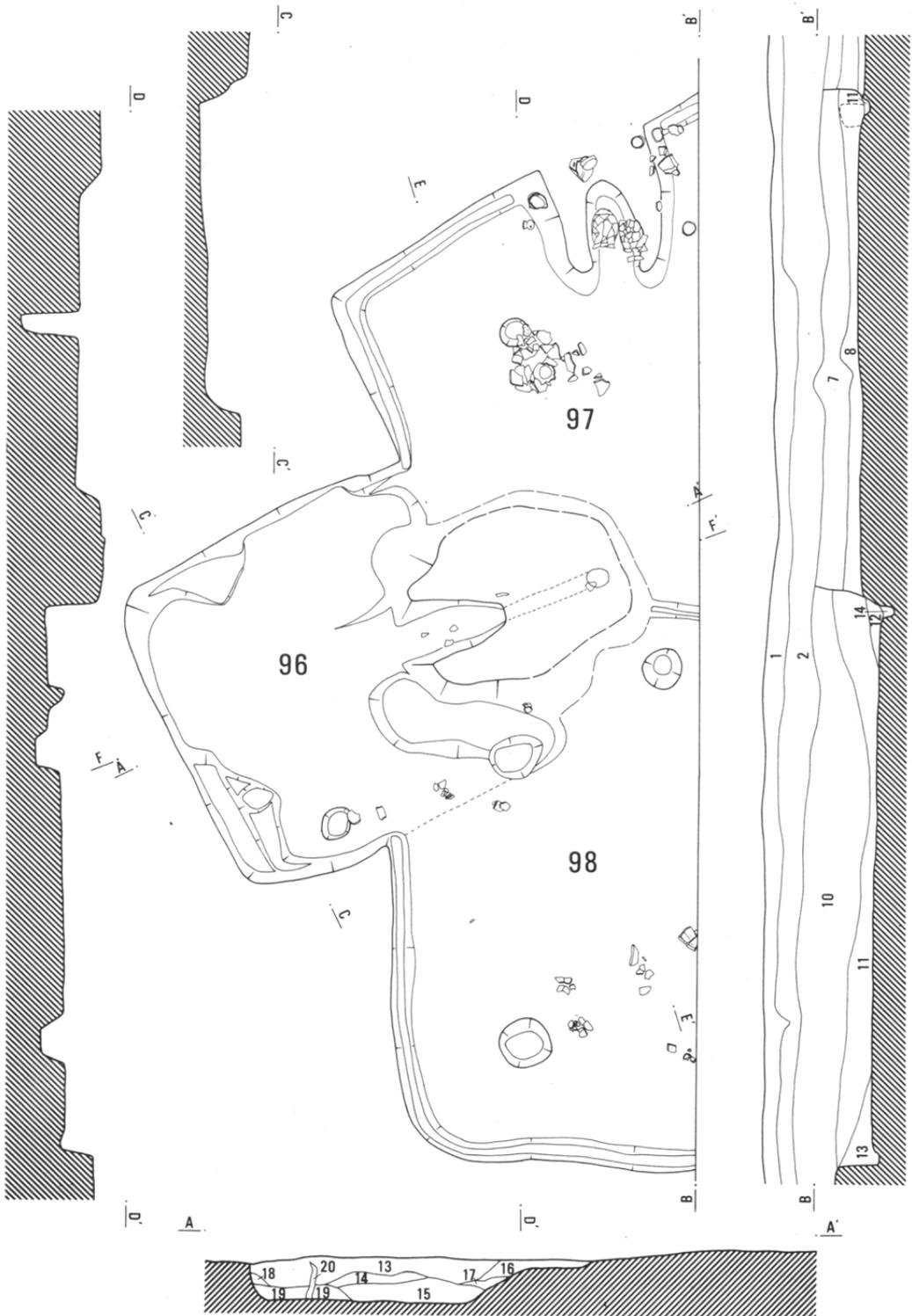
南北方向の長さは5.1mを計測できたが、東側部分は調査区域外であり、北側部分は96号住居址によって切られているため、全体の規模、形態は不明である。壁高は約30cmで、壁溝は96号住居址によって切られた部分を除きめぐっている。床はローム面を床面とし、平坦で、しまりが良い。柱穴は2箇所検出されたが、深さは20cm前後と非常に浅い。また、北側に位置するピットは、これと97号住居址のピットを結ぶ線と、97号住居址の西壁の線は平行するため、97号住居址が構築されたときに掘られた柱穴であると考えられる。カマド、貯蔵穴は不明である。

遺物は非常に少なく、南側に散在した状態で出土した。

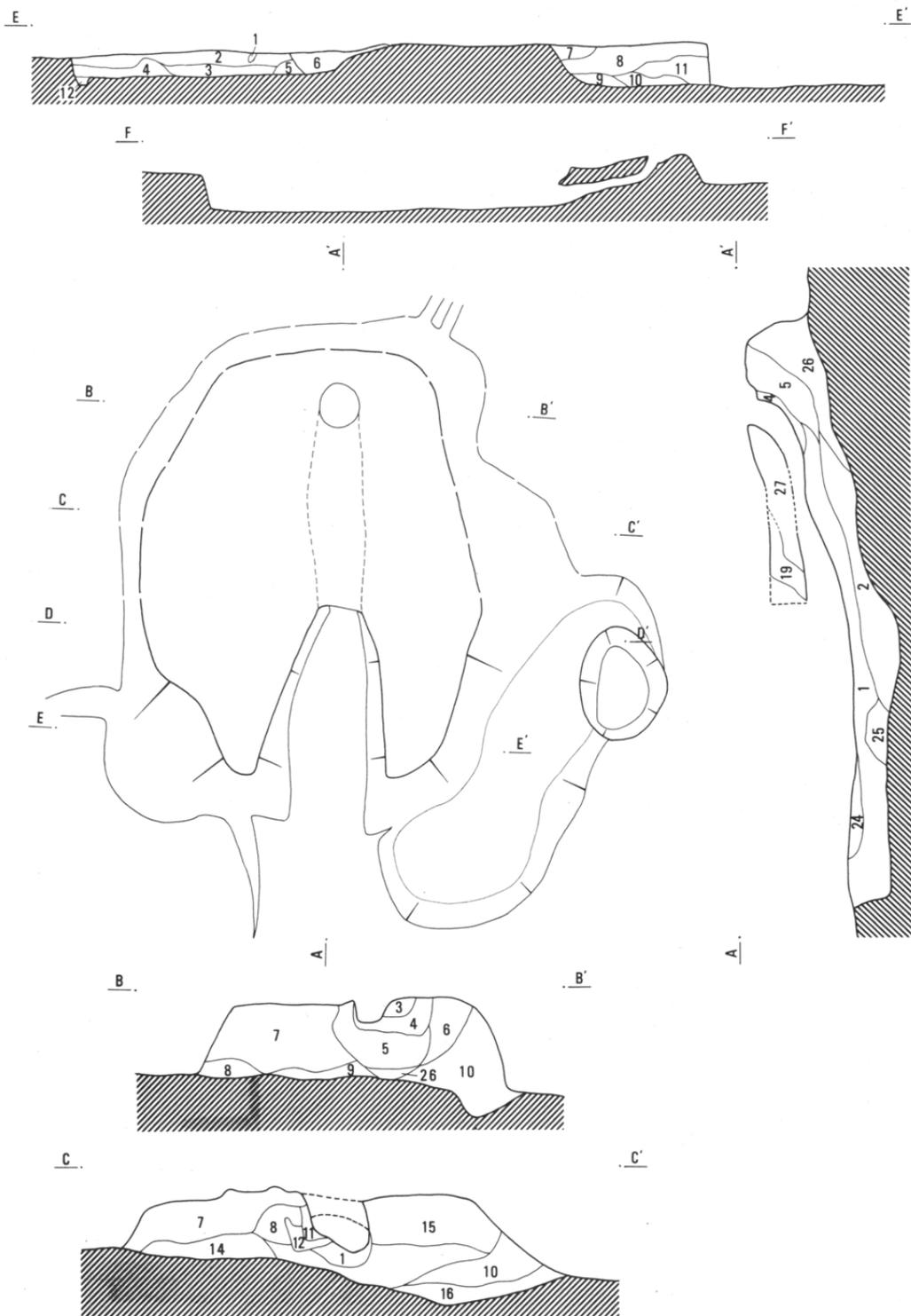
尚、95、96、97、98号住居址の新旧関係は、95号住居址が最も古く、次いで97号住居址、98号住居址で、96号住居址が最も新しい。

### 99号住居址 (第16図・第17図)

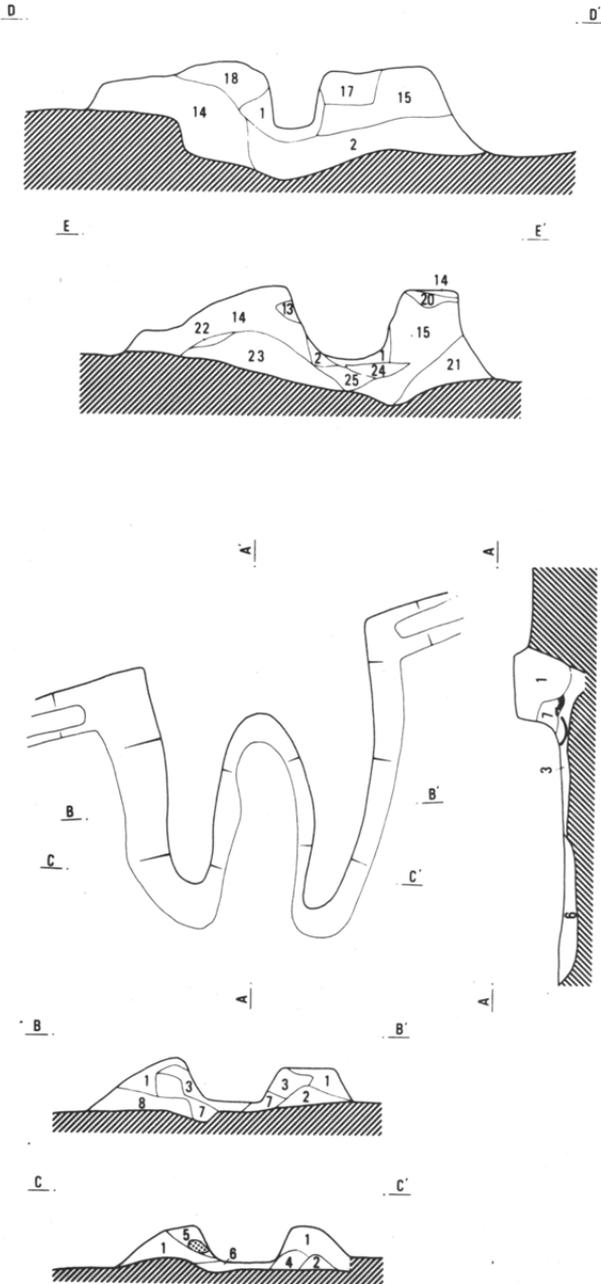
3.9×3.9mのやや隅丸方形の形態をもつ住居址である。南側部分をわずかに100号住居址によって切られている。壁高は20～30cmで、壁はわずかに傾斜をもつ。床は、ローム面を床面としている。壁溝は、カマド部分を除き全周する。柱穴は、東側部分で2箇所検出されたのみで、深さ



第13図 社具路遺跡96号・97号・98号住居址



第14図 社具路遺跡96号住居址カマド



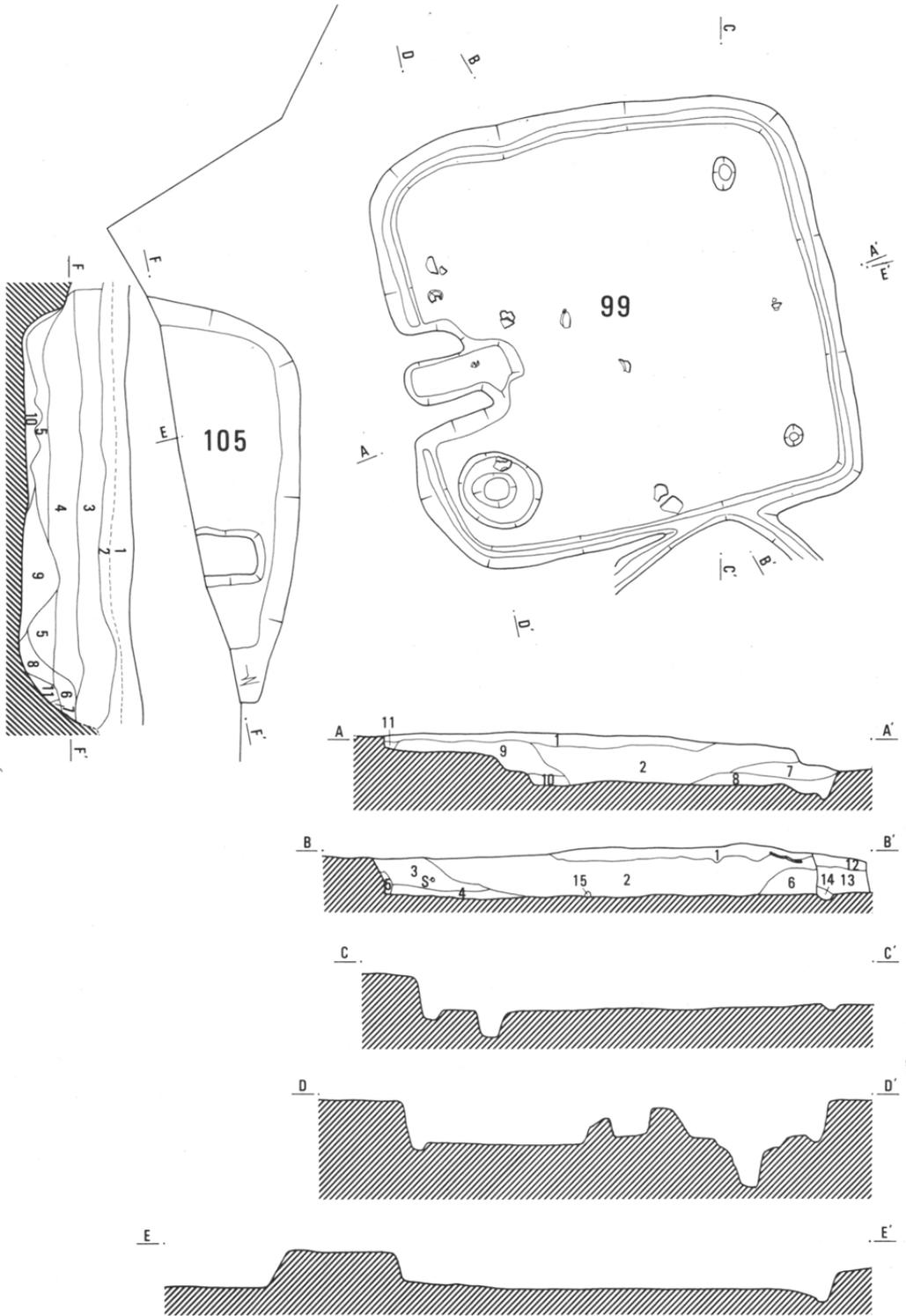
96号住居址カマド土層 L=64.5M

- 1層 黒色土 焼土ブロックを多量含む
- 2層 黒色土 焼土ブロック、焼土粒子を少量含む
- 3層 黒色土 焼土を微量含む
- 4層 焼土
- 5層 黒色土 焼土ブロック、焼土粒子を少量含む  
2層に類似
- 6層 黒色土 火山灰を少量含む
- 7層 黒色土 火山灰を多量含む
- 8層 茶褐色土 焼土ブロックを含む
- 9層 黒色土 ロームブロックを多量含む
- 10層 黒色土 ローム粒子を多量含む
- 11層 黒色土 火山灰を多量含む
- 12層 茶褐色土 焼土を多量含む
- 13層 茶褐色土
- 14層 茶褐色土 焼土を少量、ローム粒子多量含む
- 15層 黒色土 ローム粒子、焼土粒子少量含む
- 16層 黒色土 ロームブロックを多量含む
- 17層 黒褐色土 焼土粒子を含む
- 18層 茶褐色土 焼土粒子を含む
- 19層 黒色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- 20層 茶褐色土 焼土粒子を含む 18層と類似
- 21層 黒色土 15層より焼土を多量含む
- 22層 黒色土 ロームブロックを多量含む
- 23層 黒色土 焼土粒子を少量含む
- 24層 茶褐色土 焼土粒子を含む
- 25層 黒褐色土 焼土を少量含む
- 26層 黒色土 焼土粒子を多量含む
- 27層 黒褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む

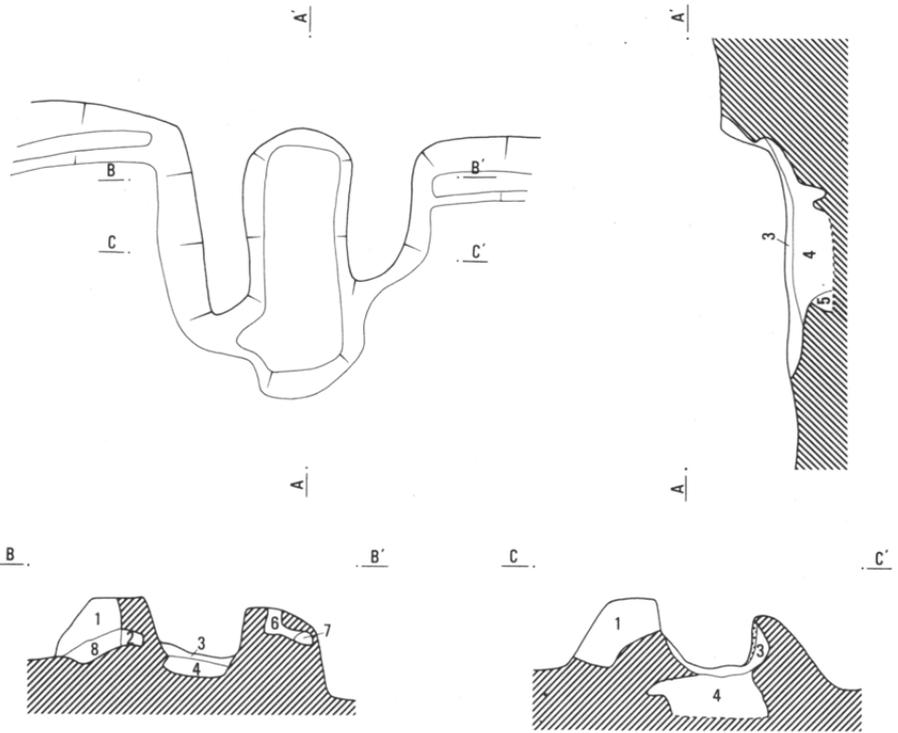
97号住居址カマド土層 L=64.5M

- 1層 黒褐色土 ローム粒子、米粒大焼土粒、火山灰、炭化物を少量含む
- 2層 黒褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む
- 3層 黒褐色土 焼土ブロック、大豆大焼土粒を多量含む
- 4層 黒褐色土 ローム粒子を多量、米粒大焼土粒を少量含む
- 5層 黒褐色土 ローム粒子、米粒大焼土粒少量含む
- 6層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む
- 7層 黒褐色土 ローム粒子、米粒大～小豆大焼土粒を多量含む
- 8層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子含む

第15図 社具路遺跡96号住居址カマド・97住居址カマド



第16図 社具路遺跡99号・105号住居址



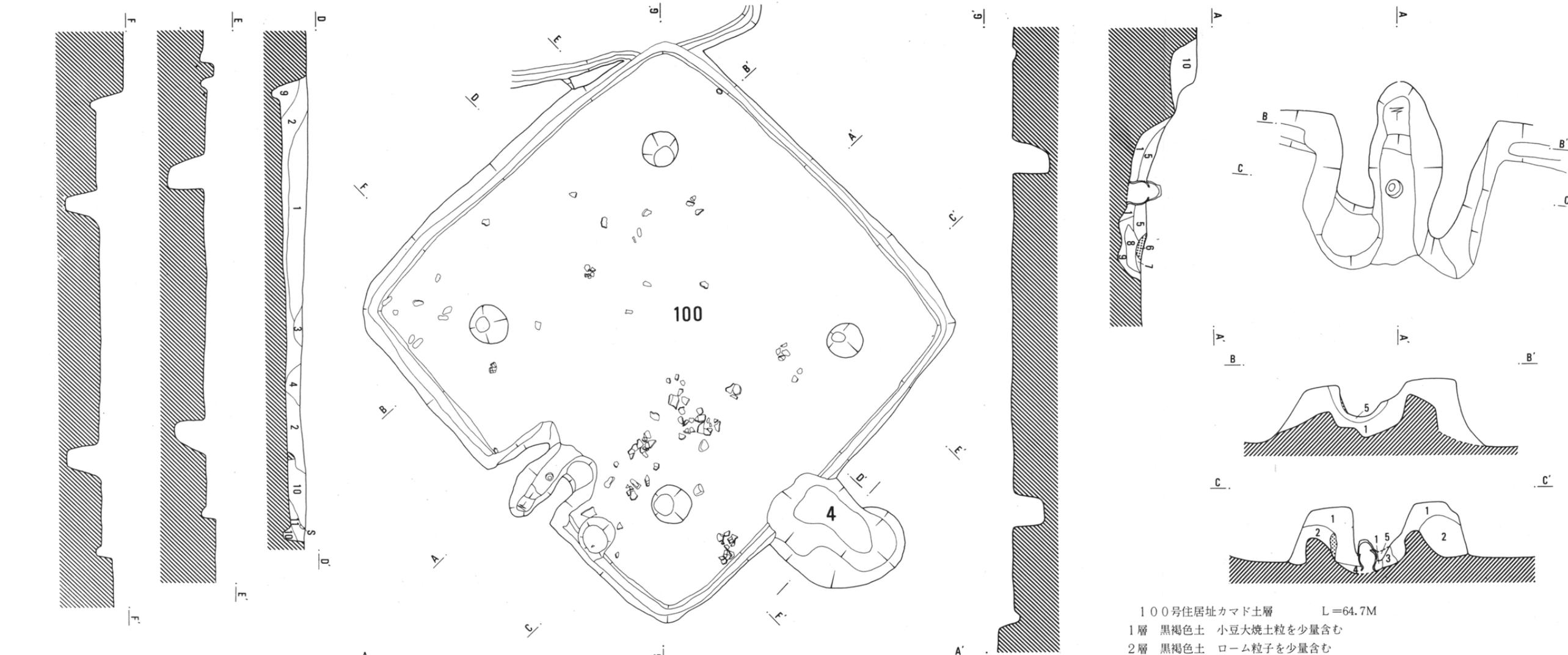
99号住居址カマド土層 L=64.6M

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む          | 5層 黒褐色土 ローム粒子を4層より多量含む |
| 2層 茶褐色土 焼土粒を少量含む            | 6層 黒褐色土 3cm大の礫を含む      |
| 3層 黒褐色土 ローム粒子、大豆大焼土粒を含む     | 7層 黒褐色土                |
| 4層 黒褐色土 ローム粒子、米粒大~大豆大礫を多量含む | 8層 黒褐色土 ローム粒子を1層より多量含む |

第17図 社具路遺跡99号住居址カマド

90号住居址土層 L=64.5M

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 1層 黒色土 ローム粒子を多量含む 1層よりしまり良い     | 14層 暗茶褐色土 ローム粒子を多量、焼土を少量含む 13層より暗く軟らかい |
| 2層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む              | 15層 暗褐色土 ロームブロック、黒色土を含む                |
| 3層 黄褐色土 ローム粒子を多量含む              | 16層 暗茶褐色土 ローム粒子を多量含む 14層より明るい          |
| 4層 黄褐色土 黒色土を含む 1、2、3層より固くしまる    | 17層 黒色土 やや褐色を帯びる                       |
| 5層 ローム(黄褐色) 黒色土を含む 4層より固くしまる    | 18層 黒茶褐色土 ロームブロックを多量含む                 |
| 6層 暗茶褐色土 2層より明るい                | 19層 黒褐色土 非常に黒色強い 18層より軟らかい             |
| 7層 暗茶褐色土 黒色土を少量含む               | 20層 黒褐色土 火山灰、焼土を少量含む                   |
| 8層 黒褐色土 ローム含まず 2層より黒色強い         | 21層 黒褐色土 ローム粒を少量含む                     |
| 9層 黒褐色土とローム交じり                  | 22層 黒褐色土 ローム粒子を多量に含む                   |
| 10層 黒褐色土 2層より明るい                | 23層 焼土と黒褐色土交じり ローム粒子を少量含む              |
| 11層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む 10層より明るい    | 24層 暗茶褐色土 焼土粒を微量含む                     |
| 12層 茶褐色土 黒色土、ロームブロック、ローム粒子を多量含む | 25層 ローム                                |
| 13層 暗茶褐色土 ローム粒子多量、焼土ブロックを含む     | 26層 焼成粘土                               |



- 100号住居址土層 L=64.6M
- 1層 黒色土 ローム粒子、小礫を少量含み、やや灰色を帯びる
  - 2層 黒色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含み、上層よりやや明るい
  - 3層 暗茶褐色土 ローム粒子、火山灰を含む
  - 4層 黒色土 ローム粒子、火山灰を少量含む
  - 5層 黒色土 小礫、焼土を少量含む
  - 6層 黒色土 ローム粒子を少量含む
  - 7層 黒色土 ローム粒子を多量含む
  - 8層 ロームブロックと黒褐色土の混和
  - 9層 黒色土 ローム粒子を多量、小礫を少量含む
  - 10層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
  - 11層 黒褐色土 ローム粒子を含み、10層より黒色強い

- 100号住居址カマド土層 L=64.7M
- 1層 黒褐色土 小豆大焼土粒を少量含む
  - 2層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
  - 3層 黒褐色土 小豆大焼土粒を多量含む
  - 4層 黒褐色粘質土 ロームブロック多量、焼土粒子を少量含む
  - 5層 黒褐色土 焼土ブロックを多量含む
  - 6層 焼土
  - 7層 黒茶褐色土 焼土粒子を微量含む
  - 8層 黒茶褐色土 焼土粒子を多量含む
  - 9層 黄茶褐色土 焼土粒子を微量含む
  - 10層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む

- 4号土坑 土層 L=64.4M
- 1層 黒色土 ローム粒子、火山灰を多量含む
  - 2層 黒色土 ローム粒子微量含む
  - 3層 黒色土 ロームブロックを含む
  - 4層 黒色土 ローム粒子を含む
  - 5層 黒色土 ローム粒子を多量含む
  - 6層 黒色土
  - 7層 ローム

第18図 社具路遺跡100号住居址・カマド・4号土坑



## 96・97・98号住居址土層 L=64.6M

- 1層 耕作土
- 2層 黒色土 ローム粒子、焼土粒下を少量含む
- 7層 黒色土 焼土粒と火山灰を含む 8層より明るい
- 8層 黒色土 火山灰を多量含む
- 10層 黒色土 ローム粒子を少量、焼土粒を微量含む
- 11層 黒色土 火山灰を少量含む
- 12層 ロームブロック
- 13層 黒色土 火山灰を微量含む
- 14層 黒色土 ローム粒子を少量含む 1層より固くしまる
- 15層 黒色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 16層 黒色土 火山灰を多量含む
- 17層 黒色土とロームブロック ローム粒子を多量含む
- 18層 黒色土 ロームを微量含む
- 19層 黒色土 ロームブロックを多量含む
- 20層 ローム 黒色土を少量含む

## 99号住居址土層 L=64.6M

- 1層 黒褐色土 火山灰、ローム粒子を少量含む
- 2層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量含む
- 3層 黒色土
- 4層 黒褐色土 ローム粒子を3層より多量含む
- 5層 黒色土
- 6層 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒を少量含む
- 7層 黒褐色土 ローム粒子、黒色土を多量含む

- 8層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子、指頭大礫を含む
- 9層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を2層より多量含む
- 10層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
- 11層 ローム
- 12層 黒褐色土 ロームを少量含む 1、2層よりやや黒い
- 13層 黒褐色土 ロームを少量含む 6層よりやや黒い
- 14層 黒褐色土 ロームブロックを含む
- 15層 炭化材

## 105号住居址土層 L=64.6M

- 1層 盛土
- 2層 耕作土
- 3層 黒褐色土 火山灰を多量、3cm大礫、土器片を少量含む
- 4層 黒褐色土 火山灰、ローム粒子、1~2cmの礫を少量、焼土粒子を微量含む
- 5層 黒褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む
- 6層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
- 7層 黒褐色土 ロームブロックを含む
- 8層 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 9層 黒褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子、土器片を少量含む
- 10層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む
- 11層 ローム

2.5cmと浅く、規模も小さい。カマドは西壁に位置し、ロームを袖の芯とし、黒色土を用いて構築され、煙道はもたず、内部から土器の破片が2点検出されたにすぎない。貯蔵穴は、カマドの向かって右側に位置し、66×75cmの楕円形で、中位に段をもち、底面は傾斜している。貯蔵穴内からの遺物の出土は、土器の破片のみである。遺物の出土は少ない。

## 100号住居址 (第18図)

5.6×6.0mの正方形に近い住居址であり、住居址のコーナーが、それぞれ東西南北を向いている。北側のコーナー部分は、99号住居址をわずかに切っている。壁高は15~40cmで、壁は少し傾斜をもって立ち上がる。壁溝は、カマド部分を除き全周する。床はローム面をそのまま床面とし、平坦である。柱穴は4箇所確認され、ほぼ対角線上に位置する。柱穴の深さは40~50cmで、貯蔵穴は認められなかった。カマドは南西壁側に位置し、煙道部が住居址外へわずかに張り出している。

袖は、ロームを芯として黒褐色土で築かれている。カマド中心部には、小甕を倒立させた上に塊をかぶせて支脚とし、また、カマドの向かって左側には、生粘土の塊が部分的に壁溝上にある状態で検出された。南東壁を土壇が切っているが、土壇の時代は不明である。

遺物の出土は多くなく、カマドから南の柱穴周辺にややまとまった状態で出土している。

#### 101号住居址（第19図・第20図）

4. 6×4.4mの正方形に近い形態の住居址である。覆土は黒色土のみで、非常に粘質が強い。壁高は35～40cm、壁溝がカマド部分を除き全周する。柱穴は4箇所確認され、深さは50～55cmであり、ほぼ対角線上に位置する。南西コーナー部分に径60cm、深さ80cmのピットが検出されたが、柱穴は4箇所確認され、柱穴の深さと比較すると30cm程深いため、正規の柱穴とは考えられない。床はローム面を直接床面とし、硬くしまっており平坦である。カマドは西壁に位置するが、袖部分に使用された土と覆土が質的に大差なく、覆土よりやや多く焼土粒を含む程度であった。煙道は壁外へ約60cm張り出す。煙道内の壁は焼土化している部分が多かった。カマド内及び周辺の遺物出土状態は、破片のみであったが、住居址全体での遺物の出土数は非常に多く、今回調査された住居址中最多である。遺物は住居址全体にわたって認められている。出土レベルは、住居址中央部は低く、周辺部は高くなっており、特に、中央部分における遺物数は多く、雑然とした状態であった。

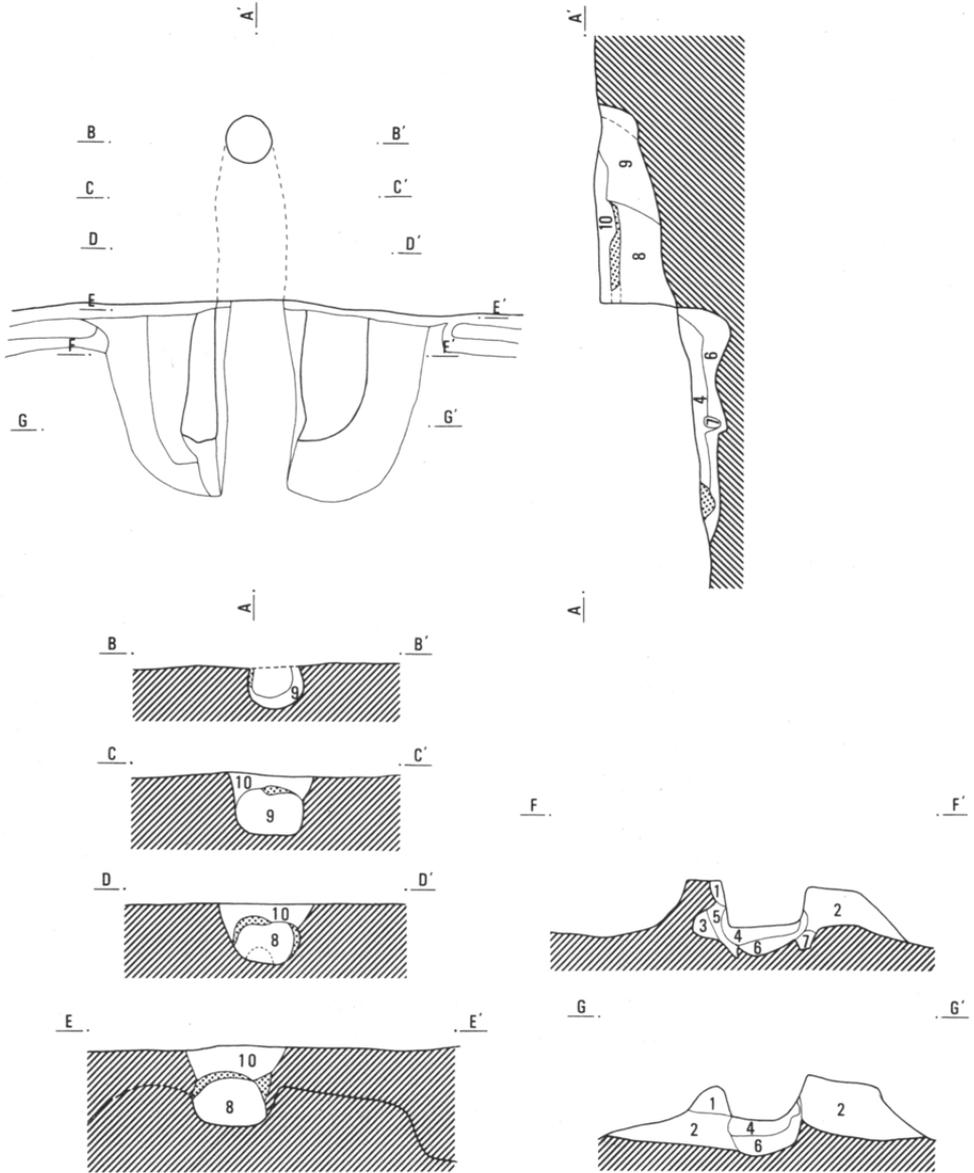
#### 102号住居址（第21図・第22図）

4. 3×4.4mの正方形に近い隅丸の形態をもつ住居址である。北東部分を103号住居址によって切られている。壁高は30～40cmで、垂直に近い角度で立ち上がる。壁溝はカマド部分を除き全周する。床面はロームをそのまま床面とし、平坦で硬くしまり、柱穴は3箇所確認されたが、北東部分は104号住居址によって切られているため検出できなかった。柱穴は、ほぼ対角線上に位置すると考えられ、柱穴の深さは、約40cm前後で、3箇所とも同レベルである。カマドは東壁側に設けられ、煙道が住居址外へ伸びる形態である。カマドは、ロームを掘り残して袖とし、一部分に黒褐色土が用いられている。カマドの燃焼部には、支脚として小型の甕を伏せ、その上に坏が乗った状態で検出されている。カマド内からは、甕が2個並んだ様な状態で出土し、また、左袖にかかる状態で高坏が出土している。貯蔵穴は存在しない。

遺物はカマド内及びカマド南側、住居址中央部よりまとまって出土している。また、住居址中央部に小礫が馬蹄形状に配されている。尚、この住居址の覆土は、強い粘質をもち、焼土粒を多量に含んでいた。



第19図 社具路遺跡101号住居址



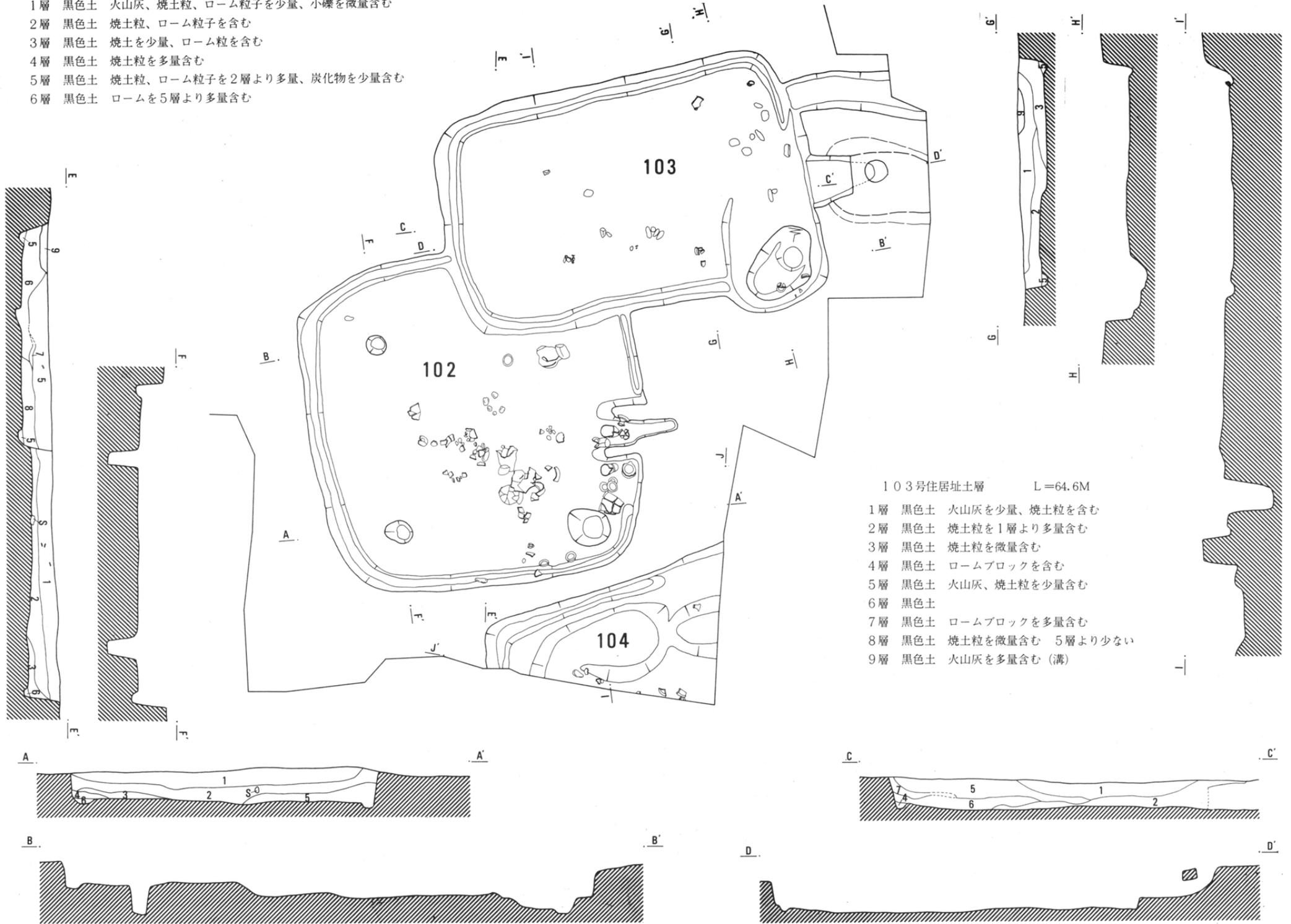
101号住居址カマド土層 L=64.5M

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1層 黒褐色土 火山灰を多量含む            | 6層 黒褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子少量含む |
| 2層 黒褐色土 火山灰少量、ローム粒子、焼土粒子を含む | 7層 黒褐色土 ローム粒子、米粒大焼土粒を少量含む  |
| 3層 黒褐色土 ローム粒子、米粒大焼土粒を多量含む   | 8層 黒色土 焼土ブロック、粒子を多量含む      |
| 4層 黒褐色土 焼土ブロックを多量含む         | 9層 黒色土 焼土粒子を少量含む           |
| 5層 黒褐色土 ローム粒子、小豆大焼土粒を多量含む   | 10層 黒褐色土                   |

第20図 社具路遺跡101号住居址カマド

102号住居址土層 L=64.6M

- 1層 黒色土 火山灰、焼土粒、ローム粒子を少量、小礫を微量含む
- 2層 黒色土 焼土粒、ローム粒子を含む
- 3層 黒色土 焼土を少量、ローム粒を含む
- 4層 黒色土 焼土粒を多量含む
- 5層 黒色土 焼土粒、ローム粒子を2層より多量、炭化物を少量含む
- 6層 黒色土 ロームを5層より多量含む

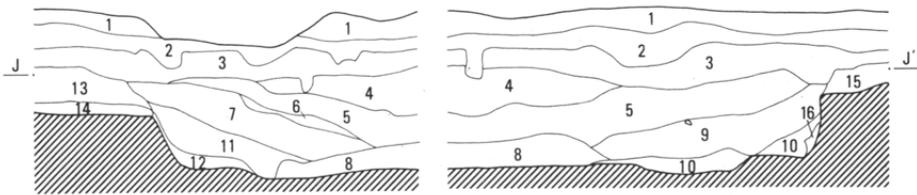


103号住居址土層 L=64.6M

- 1層 黒色土 火山灰を少量、焼土粒を含む
- 2層 黒色土 焼土粒を1層より多量含む
- 3層 黒色土 焼土粒を微量含む
- 4層 黒色土 ロームブロックを含む
- 5層 黒色土 火山灰、焼土粒を少量含む
- 6層 黒色土
- 7層 黒色土 ロームブロックを多量含む
- 8層 黒色土 焼土粒を微量含む 5層より少ない
- 9層 黒色土 火山灰を多量含む (溝)

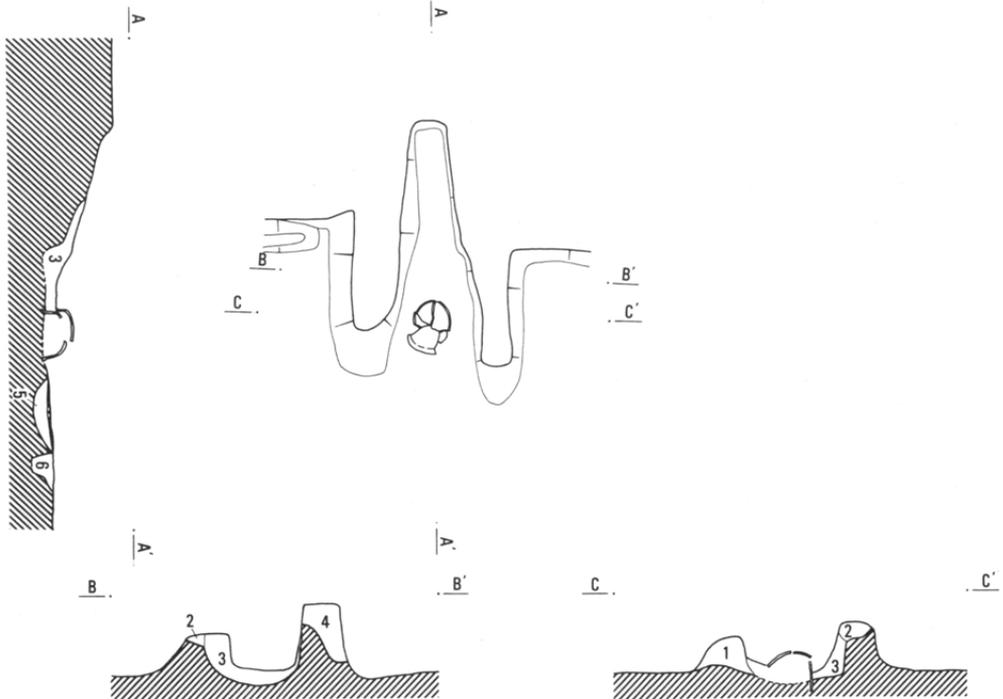
第21図 社具路遺跡102号・103号・104号住居址





104号住居址土層 L=64.7M

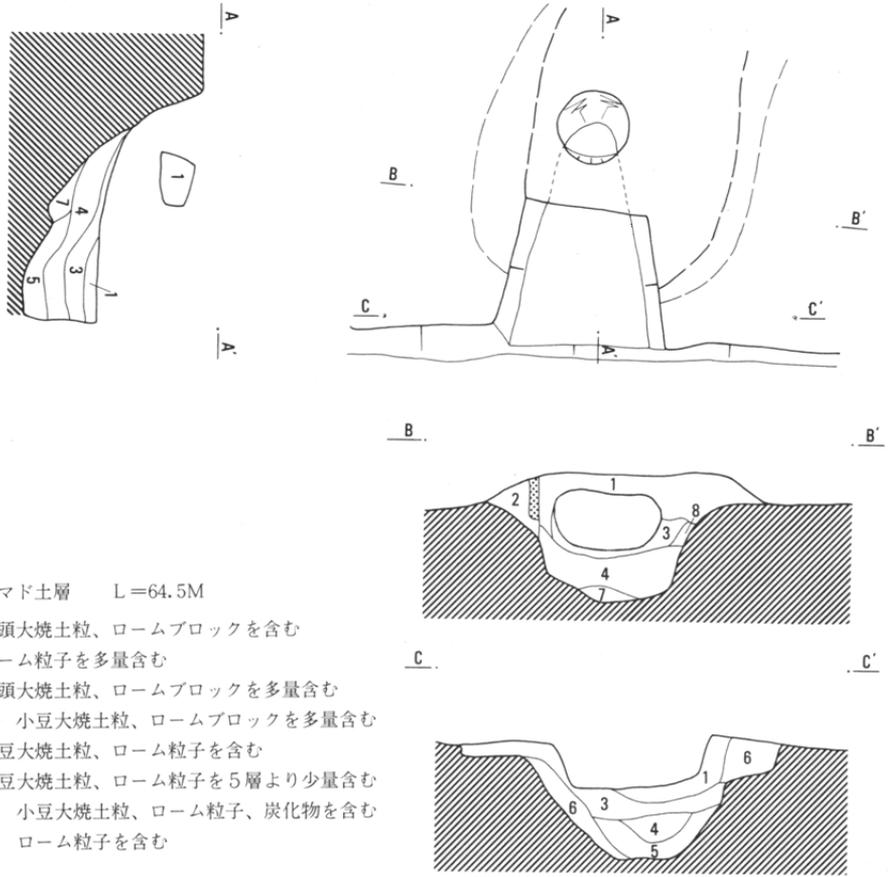
- |                                      |                                     |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1層 盛土                                | 9層 黒色土 ローム粒子を微量含む 7層と類似             |
| 2層 耕土                                | 10層 黒色土 ロームブロック、ローム粒子を多量含む          |
| 3層 黒色土 焼土粒、火山灰を少量含む                  | 11層 黒色土 火山灰を多量含み、焼土を5層より少量、7層より多量含む |
| 4層 黒色土 炭化物を少量含み、焼土粒子を3層より多量、火山灰を少量含む | 12層 黒色土 ロームブロック、ローム粒子を多量含む 10層と類似   |
| 5層 黒色土 ローム粒子、焼土粒子を極多量含む、3、4層より多い     | 13層 黒色土 火山灰を多量含む                    |
| 6層 黒色土 ローム粒子、焼土粒子を5層より多量含む           | 14層 黒色土 火山灰を多量含む 13層よりやや明るい黒色       |
| 7層 黒色土 焼土粒子を微量含み、ローム粒子を5層より少量含む      | 15層 黒色土 火山灰、ローム粒子を少量含む              |
| 8層 黒色土 焼土粒子を5層より少量、7層より多量含む          | 16層 ローム                             |
- ※焼土混有率 6>5>4>8>3>11>7 (9)



102号住居址カマド土層 L=64.4M

- |                         |
|-------------------------|
| 1層 黒褐色土 焼土粒子、ローム粒子を少量含む |
| 2層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む      |
| 3層 黒褐色土 焼土ブロックを多量含む     |
| 4層 黒褐色土 焼土粒子、ロームブロックを含む |
| 5層 焼土                   |
| 6層 黒褐色土 小豆大焼土粒を多量含む     |

第22図 社具路遺跡104号住居址・102号住居址カマド



103号住居址カマド土層 L=64.5M

- 1層 黒褐色土 指頭大焼土粒、ロームブロックを含む
- 2層 黒褐色土 ローム粒子を多量含む
- 3層 黒褐色土 指頭大焼土粒、ロームブロックを多量含む
- 4層 黒褐色粘質土 小豆大焼土粒、ロームブロックを多量含む
- 5層 黒褐色土 小豆大焼土粒、ローム粒子を含む
- 6層 黒褐色土 小豆大焼土粒、ローム粒子を5層より少量含む
- 7層 黒褐色粘質土 小豆大焼土粒、ローム粒子、炭化物を含む
- 8層 黒褐色粘質土 ローム粒子を含む

第23図 社具路遺跡103号住居址カマド

### 103号住居址 (第21図・第23図)

4. 6×3.0mの東西方向に長辺をもつ長方形の住居址である。南東コーナー部分に張り出しをもつ。102号住居址を切つて構築されている。覆土は非常に粘性が強い黒色土で、焼土粒と土器細片を多量に含んでいる。また、住居址の北部分を溝が切っている。

壁高は30cm前後で、壁は垂直に立ち上がる部分と傾斜をもつ部分とがある。壁溝は、カマド前面

と、張り出し部分を除き全周するが、深さは15cmと非常に浅い。床面はロームをそのまま床面とし、柱穴はなく、住居址周辺を精査したがピットは検出されなかった。カマドは東壁側に位置し、壁を掘り込んで作られており、袖は検出できなかった。焚口部及び燃烧部は広く、煙道部分に近づくにつれ、徐々に狭くなる。カマド内からは、土器の破片が少量出土したのみである。

東南の壁が外へ張り出し、その部分は床面よりも掘り窪められている。他の部分から貯蔵穴が検出されていないため、この部分が貯蔵穴の役割を果たしていたとも考えられる。

遺物は、覆土中に土器の細片が多く見られた以外は少なく、完形の土器はなかった。他の住居址に比べ、礫の出土が多い。

#### 104号住居址 (第21図・第22図)

調査区南端に位置するが、大部分が調査区域外であるため、全体の規模、形態は不明である。壁高は45cmで、壁は傾斜をもって立ち上がる。部分的に壁溝が存在する。床面の凸凹は、貼床部分を除去してしまったためにできたものであり、部分的に貼床を行っていたことがわかる。また、覆土は非常に粘質が強く、焼土粒を多量に含んでいた。遺物は出土数が少ない。

#### 105号住居址 (第16図)

99号住居址の西側に位置するが、大部分が調査区域外であるため、規模、形態は不明である。壁は、緩やかな傾斜をもつ部分が多く、くずれた様な状態を呈しており、残存状況は良くない。床面は、ローム面をそのまま使用している。南側の床面には、長方形に盛り上がった部分があったが、いかなる設備か不明である。遺物の出土はなかった。

#### 溝 (第24図)

調査区域南西部に位置し、ほぼ東西方向に約16mが検出されている。両端は調査区域境界にかかり、幅は0.4~1.0m、深さ約20cmを測る。

#### 1号土坑 (第24図)

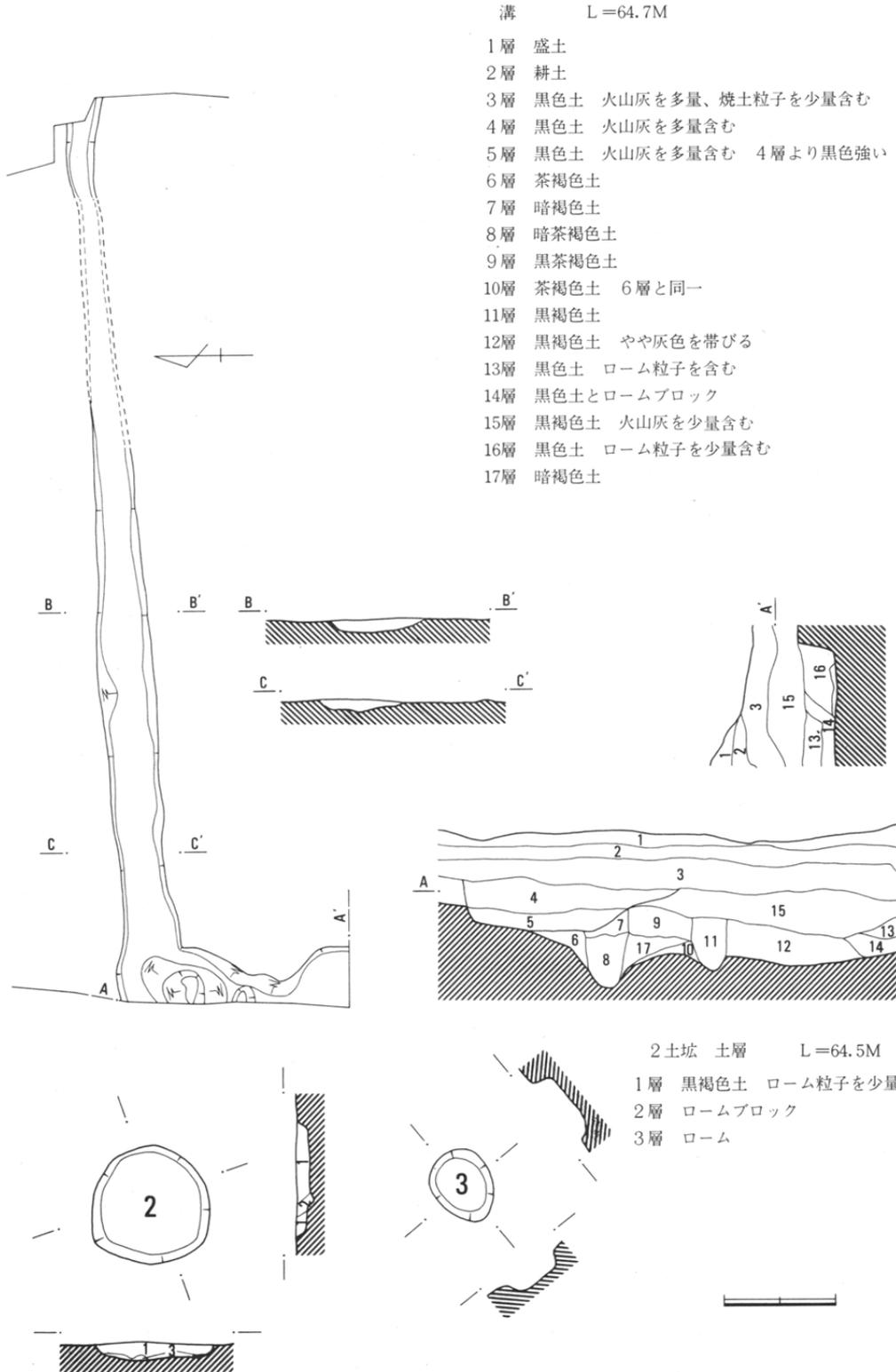
90号住居址西側から検出され、1.2×0.6m、深さ約20cmの東西に長い長方形ピットで、西寄りに径35cm、深さ10cmの円形ピットをもつ。

#### 2号土坑 (第24図)

径1.1m、深さ15cmの円形ピットで、91号住居址東側から検出されている。

#### 3号土坑 (第24図)

径65×55cm、深さ20cmの卵形ピットで、101号住居址北側から検出されている。



第24図 社具路遺跡溝・2号・3号土壇 (縮尺 $\frac{1}{120}$ )

## 2 出土遺物

社具路90号住居址出土遺物 (第25・26図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 15.7 器高 30.9	胎・砂粒少 白色微石少 成・底部と胴部 胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 整・外面焼土付着不明 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・胴部外面焼土付着 接・竈裾 竈袖 貯蔵穴内 残・胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部
甕	2	口径 15.8 器高 32.1	胎・砂粒 褐鉄粒多 成・底部と胴部 胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 口縁部粘土帯3段積上げ 整・外面 胴部下半焼土付着不明 上半↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ (ヘラ) 焼・普 色・橙褐色 使・胴部下半焼土付着 残・胴部 (一部欠損) 口縁部 $\frac{3}{4}$
甕	3 3'	口径 17.5 器高 33.9	胎・砂粒 白色微石多 成・底部粘土紐貼付か? 胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部下半↓ヘラケズリ後ナデ 上半↑ヘラケズリ 焼・普 色・黄褐色 使・胴部外面焼土付着 残・ほぼ完形 備・底部中心より外れる 3'は90°回転方向から実測図
甕	4		胎・砂粒少 石英 褐鉄粒多 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 整・外面 胴部↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{4}$
甕	5		胎・砂粒多 成・底部と胴部 胴部下半と上半接合 成・外面↓ヘラケズリ 内面ナデ 焼・普 色・橙褐色 残・底部 胴部一部
甕	6	口径 10.9 器高 9.3	胎・砂粒 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部下半↓ヘラケズリ 上半ナデ 口縁部→ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部←ヨコナデ 焼・悪 色・橙褐色 (黒ずむ) 使・外面炭素付着 残・胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 (一部欠損)
鉢	7	口径 10.5 器高 7.2	胎・砂粒少 石英 成・手捏ね風 底部粘土紐貼付後ヘラケズリ 外面粘土接合痕明瞭に残すが規則性なし 胴部内面弧状ヘラ成形痕 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部一部←ナデ 内面ナデ 口縁部←ヘラナデ 焼・普 色・橙褐色 残・完形
甗	8	口径 23.4 器高 28.3	胎・砂粒 白色粒子 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ (接合痕一部明瞭) 孔部ヘラケズリ 整・外面 胴部下半ヘラケズリ後ナデ 上半↓ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部↑ナデ (やや光沢有) 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面炭素付着 摩滅 残・完形

甌	9	口径 16.3 器高 13.4	胎・砂粒少 白色粒子 成・胴部下半と上半接合? 胴部と口縁部接合 孔は穿った後ナデ 整・外面 胴部下半⇄ヘラケズリ 胴部↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面炭素付着 色・赤褐色 使・孔部周辺摩滅著しい 残・完形
高坏	10		胎・精 白色粒子多 成・裾部と脚部(接合部分で分離) 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部と坏底部ナデ 口縁部ヨコナデ 内 面風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・口縁部摩滅 外面炭素付着 残 ・脚部上半 坏底部 $\frac{1}{2}$ 坏縁部 $\frac{1}{2}$
坏	11	口径 12.0 器高 5.4	胎・砂粒少 白色粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズ リ後ナデ 口縁部2回のヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部2回のヨコナ デ 焼・普 色・橙褐色 使・外面化粧土剝離 残・完形
碗	12	口径 11.0 器高 5.1	胎・砂粒 石英 白色微石 褐鉄粒 成・底部内面弧状ヘラ成形痕 底部 下半と上半接合? 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・外面底部摩滅 残 ・完形 備・底部内面切藁痕

社具路91号住居址出土遺物(第27・28・29図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 16.8 器高 29.7	胎・砂粒多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 口 縁部粘土紐2段積(接合痕部分的に明瞭) 整・外面 胴部下半⇄ヘラケ ズリ 上半↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面胴部ナデ 口縁部ヨコナ デ 焼・良 外面胴部一部炭素付着 色・黄褐色 残・ほぼ完形(口縁部 及胴部一部欠損)
甕	2	口径 16.2	胎・粗砂粒多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上 げ 整・外面 胴部↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面ヘラナデ 焼・ 良 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面胴部下半焼土付着 内 面胴部炭素付着 残・胴部上半 口縁部 備・竈の袖材として使用
甕	3		胎・粗砂粒多 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部風化不明 口縁部 ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 外面一部黒ずむ 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	4	口径 18.6	胎・粗砂粒多 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部⇄ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヘラケズリ後ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 残・胴部一部 口縁部
甕	5	口径 16.4	胎・砂粒極多 石英 角閃石 0.3~0.5小石 成・胴部下半と上半 胴 部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 口縁部2段積上げ(接合痕一部明瞭 ) 整・外面 胴部↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ

甕	7		口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面胴部下半焼土付着 上半一部炭素付着 残・胴部上半 口縁部
甕	9		胎・砂粒多 角閃石 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 整・外面胴部ヘラナデ 口縁部ミズビキ 内面 胴部ナデ 口縁部ミズビキ 焼・普 外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{4}$
甕	8		胎・粗砂粒少 成・胴部下半と上半接合(接合部分で分離) 整・外面ヘラケズリ後ナデ(やや光沢有) 内面ナデ後ヘラミガキ 焼・悪 内外面炭素付着 色・外 橙褐色 一部黒褐色内 黒褐色 残・胴部下半 底部
鉢	10		胎・粗砂粒極多 成・底部と胴部接合 粘土帯積上げ 整・外面 $\downarrow$ ヘラケズリ 内面ナデ 焼・悪 使・外面風化 焼土付着 接・竈内 竈裾 残・底部 胴部下半
甌	6	口径 15.4	胎・砂粒極多 成・手捏ね風 底部と胴部接合 胴部粘土帯3段積上げ 整・外面ナデ 内面ヘラケズリ後ナデ 焼・良 色・黄褐色 残・ $\frac{1}{4}$
高坏	11		胎・砂粒 石英 白色粒子多 成・胴部と口縁部接合? 整・外面 胴部 $\downarrow$ ヘラケズリ 口縁部 $\rightarrow$ ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 胴部上半と口縁部 $\leftarrow$ ヨコナデ 焼・悪 胴部上半から口縁部の内外面炭素付着 色・橙褐色 使・2次的熱 外面焼土付着 残・胴部 口縁部
高坏	12		胎・砂粒少 褐鉄粒子多 成・粘土紐積上げ 脚部下半と上半接合(接合部分ヘラオサエ) 脚部と坏底部接合 整・外面 裾部ヨコナデ 脚部 $\downarrow$ ヘラケズリ 内面 脚部下半ヘラケズリ 後ヨコナデ 上半ヘラケズリ後ナデ 焼・良 色・橙褐色 出・床直 残・裾部一部 脚部 坏底部一部
高坏	13		胎・精 白色粒子 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接合 脚部内面天井部粘土貼付 整・外面裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナデ 坏底部ヘラケズリ 内面 裾部ヨコナデ 脚部 $\leftarrow$ ヘラケズリ 焼・良 色・橙褐色 残・裾部一部 脚部(下半一部欠損) 坏底部一部
高坏	14		胎・粗砂粒多 石英 角閃石 成・脚部と坏底部接合 整・外面 脚部ヘラケズリ 内面 脚部 $\rightarrow$ ヨコナデ 坏底部ナデ 焼・良 色・橙褐色 使・脚部外面一部炭素付着 残・脚部 $\frac{1}{2}$ 坏底部 $\frac{1}{2}$
埴	15	口径 11.6 器高 8.8	胎・精 石英 角閃石 白色粒子 成・裾部と脚部接合 整・外面脚部 $\downarrow$ ヘラミガキ 内面 脚部 $\leftarrow$ ヘラケズリ 焼・良 色・橙褐色 残・脚部
坏	16	口径 12.3 器高 4.2	胎・砂粒 石英 白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 底部ヘラ成形痕 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ミズビキ 焼・良 内面及外面一部炭素付着 色・外 橙褐色 内 黒褐色 残・底部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
			胎・精砂粒 石英 白色粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部 $\rightarrow$ ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部 $\leftarrow$ ヨコ

坏	17	口径 器高	13.9 3.6	ナデ 焼・良 内面炭素付着 色・黒褐色 残・底部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 胎・白色粒子 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケ ズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部剝離不明瞭 口縁部摩滅不明 焼・2 次の熱不明 内外面炭素付着 色・橙褐色 使・底部内面剝離 口縁部内 面摩滅 残・底部 口縁部 $\frac{1}{4}$
坏	18	口径 器高	12.6 4.8	胎・精砂粒多 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケ ズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部剝離不明瞭 口縁部ヨコナデ 焼・2 次の熱不明 外面炭素一部付着 色・橙褐色 使・内面剝離 残・底部 (一 部欠損) 口縁部 $\frac{1}{4}$
坏	19	口径 器高	12.9 4.0	胎・精砂粒 白色粒子 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底 部ヘラケズリ 口縁部→ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ後暗文 (上半 剝離不明瞭) 口縁部ヨコナデ 焼・良 炭素付着 色・黒褐色 使・底 部内面剝離 口唇部摩滅 残・完形
坏	20			胎・精 白色粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後 ナデ 口縁部→2回のヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナ デ 焼・普 内面一部炭素付着 色・橙褐色 内面一部黒ずむ 残・底部 一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	21	口径 器高	13.1 4.2	胎・砂粒多 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 底部内面ヘラ成形痕 整・ 外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁 部ミズビキ 焼・普 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損)
坏	22			胎・精 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 器面柔軟 色・橙褐色 残・底部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	23	口径 器高	13.1 4.7	胎・精 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 底部内面ヘラ成形 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ミズ ビキ 焼・普 器面柔軟 色・橙褐色 残・完形
坏	24	口径 器高	13.6 4.8	胎・精 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部ナデ 口縁部ミズビキ 焼・良 器面柔軟 出・床直 残・底部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	25	口径 器高	13.6 4.7	胎・精 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部ナデ 口縁部ミズビキ 焼・良 器面柔軟 色・橙褐色 残・完形
坏	26			胎・精砂粒 石英 角閃石 白色粒子 褐鉄粒少 成・底部と口縁部接合 底部内面ヘラ成形 整・外面 底部ヘラケズリ後ミガキ? 下半光沢有 口縁部ミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ミズビキ 焼・良 色 ・橙褐色 残・底部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{4}$

坏	27	口径 11.8 器高 4.2	胎・精 褐鉄粒子多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ミズビキ 焼・良 器 面柔軟 色・橙褐色 残・完形
坏	28	口径 13.0 器高 4.7	胎・精 褐鉄粒子多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ? 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ミズビキ? 焼・良 器面柔軟 色・橙褐色 残・完形
坏	29		胎・精 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 底部内面弧状ヘラ成形 整・ 外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁 部ミズビキ 焼・良 器面柔軟 残・底部 $\frac{1}{3}$ 口縁部 $\frac{1}{3}$
坏	30		胎・精 褐鉄粒子多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ミズビキ 焼・良 器 面柔軟 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 (一部欠損) 口縁部 一部
坏	31	口径 13.6 器高 4.6	胎・精 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 器面柔軟 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損)
坏	32	口径 13.4	胎・精 石英 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケ ズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・ 橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損)
	33	口径 12.9 器高 4.2	胎・精 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 器面柔軟 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損)

## 社具路9 2号住居址出土遺物 (第29図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	34	口径 16.2	胎・粗砂粒多 褐鉄粒子 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部 粘土帯積上げ 口縁部粘土帯2段積 (接合痕一部明瞭) 整・外面 胴部 下半焼土付着不明瞭 上半↑ヘラケズリ口縁部ヨコナデ 内面 胴部下半 ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ヘラナデ 上部←ヘラケズリ口縁部ヨコナ デ 焼・普 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面剥離 焼土付着 残・胴部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$

## 社具路9 3号住居址出土遺物 (第29図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
高坏	35		胎・精 白色粒子 褐鉄粒子 成・裾部と脚部接合 整・外面 裾部及び 脚部下半ヨコナデ 脚部上半ナデ 脚部上部ヨコナデ 内面 裾部ヨコナ

			テ 脚部↙ヘラケズリ 焼・良 色・赤褐色 残・裾部 (一部欠損) 脚部
--	--	--	-------------------------------------

## 社具路94号住居址出土遺物 (第30~33図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.0 器高 24.5	胎・粗砂粒 成・胴部粘土帯積上げ (内外面接合痕明瞭) 整・外面 胴部下半ナデ 上半↓ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部下半ナデ 上半ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面一部煤付着 残・完形
甕	2	口径 17.2 器高 26.4	胎・精 石英 白色粒子 褐鉄粒多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部 接合 整・外面 胴部↑↓ヘラケズリ 口縁部→ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部←ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (底部½欠損)
甕	3	口径 17.9 器高 29.4	胎・粗砂粒 褐鉄粒 成・底部木葉痕 底部と胴部 胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部下半風化 焼土付着不明瞭 上半ヘラケズリ 口縁部ヘラケズリ後ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 内面黒ずむ 使・外面胴部下半焼土付着 残・底部 胴部¾ 口縁部 備・復原不良
甕	4	口径 16.8	胎・粗砂粒 小石 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ (内面接合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部
甕	5		胎・精 白色粒子 褐鉄粒 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・¼
甕	6		胎・砂粒 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ (内面接合痕一部明瞭) 整・外面 胴部↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面風化剝離 出・床直 残・¼
甕	7		胎・精砂粒 褐鉄粒 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・胴部上半一部 口縁部¾
甕	8		胎・砂粒多 角閃石 白色粒子多 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ (接合痕一部明瞭) 整・外面 胴部↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・胴部上半一部 口縁部一部

甗	9		胎・砂粒 角閃石 石英 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ(接合痕一部明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部一部
甗	10		胎・粗砂粒 褐鉄粒子 成・胴部下半と上半接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部下半↑ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部下半←ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 焼・普 胴部下半内外面炭素付着 色・橙褐色 胴部下半内外面黒ずむ 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$
甗	11	口径 13.5 器高 14.7	胎・粗砂粒極多 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ(接合痕部分的明瞭) 整・外面胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・悪 内面炭素付着 色・橙褐色 内面黒ずむ 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部
手捏	12	口径 5.8 器高 3.3	胎・砂粒 石英多 白色粒子 成・手捏 整・外面ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ 焼・悪 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損)
鉢	13	口径 19.5 器高 11.2	胎・粗砂粒 小石 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 形・胴部及び口縁部扁平 焼・2次的熱不明 内外面炭素付着 色・橙褐色 胴部内外面黒ずむ 使・2次的熱風化 残・底部 胴部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
鉢	14		胎・砂粒 白色粒子 褐鉄粒 成・底部と胴部接合 粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ(やや光沢有) 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・底部及び胴部内面一部摩滅 残・底部 $\frac{1}{4}$ 胴部 $\frac{1}{4}$
甗	16	口径 21.9 器高 29.9	胎・粗砂粒 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 孔部ヘラ切り 整・外面 胴部下部ヘラケズリ後ナデ 上半ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面胴部下半炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甗	15	口径 24.1	胎・砂粒 白色粒子 褐鉄粒子 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ(外面接合痕部分的明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ(一部光沢有) 口縁部ヨコナデ 内面 胴部←ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部
甗	17	口径 17.0 器高 9.9	胎・精砂粒多 小石 褐鉄粒子 成・粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・完形
甗	18	口径 18.8	胎・砂粒多 石英 角閃石 白色粒子 褐鉄粒多 成・胴部と口縁部接合

高坏	19	器高 8.0	孔部ヘラ切り 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ヘラナ デ (やや光沢有) 口縁部→ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ (やや光沢有) 焼・普 内外面炭素付着 色・橙褐色 出・竈袖 残・ ほぼ完形 (口縁部一部欠損)
高坏	20		胎・砂粒多 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接合 坏部内面弧状ヘラ成形 整・外面 裾部ヨコナデ 脚部及び坏部風化不明瞭 内面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナデ 坏部ナデ 焼・普 色・橙褐色 残・裾部 (一部 欠損) 脚部 坏部一部
坏	21	口径 12.8 器高 4.5	胎・粗砂粒 成・底部と口縁部接合 底部内面 弧状ヘラ成形 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部2回のミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁 部2回のミズビキ 焼・良 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損 )
坏	22	口径 12.0 器高 4.6	胎・精砂粒少 白色粒子 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 底部内面弧 状ヘラ成形 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部2回のミズビキ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部2回のミズビキ 焼・良 色・橙褐色 残・完 形
坏	23	口径 10.1 器高 3.6	胎・砂粒 成・手捏風 底部木葉痕 整・外面 底部ナデ 口縁部ヨコナ デ 内面ナデ 焼・普 色・橙褐色 残・ $\frac{3}{4}$
坏	24	口径 12.8 器高 4.8	胎・精 成・底部と口縁部接合 底部内面弧状ヘラ成形 整・外面 底部 ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損)

社具路95号住居址出土遺物 (第34・35図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 21.6 器高 29.3	胎・砂粒多 石英 角閃石 白色粒子 成・底部粘土紐貼付か? 胴部下 半と上半 胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・悪 色・橙褐色 使・内面底部と胴部下半一部剝離 外面 底部摩滅 残・底 部 胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 (一部欠損)
甕	2	口径 24.1	胎・砂粒 石英 角閃石 褐鉄粒子多 成・底部粘土紐貼付か? 胴部下 半と上半 胴部と口縁部接合 胴部上半8本の粘土帯積上げ (接合痕明瞭 ) 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラ

甕	3	口径 21.8 器高 29.2	ケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 内外面炭素付着 色・外 橙褐色 内 黄褐色 残・底部 胴部 (上半一部欠損) 口縁部一部 胎・精砂粒多 小石 褐鉄粒子 成・底部 (木葉痕) 胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 口縁部粘土帯2段積 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼 ・普 胴部外面炭素付着 色・外 橙褐色 内 灰褐色 使・内面胴部上 半剥離 出・床直 残・完形
甕	4	口径 18.7	胎・砂粒多 石英多 角閃石 白色粒子 褐鉄粒子多 成・胴部下半と上 半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 口縁部粘土帯3段積 整・外 面 胴部ヘラケズリ 口縁部→ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部←ヨコナデ 焼・普 外面炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・ 胴部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	5	口径 25.3 器高 57.2	胎・砂粒少 白色粒子 成・胴部粘土帯積上げ 口縁部粘土帯2段積 整 ・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部風化剥離不明瞭 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・外 橙褐色 内 灰褐色 使・内外面風化 剥離 (内面顕著) 残・底部 胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{3}{4}$
甕	6	口径 18.4	胎・砂粒多 角閃石 白色粒子多 褐鉄粒子 成・粘土帯積上げ 整・外 面風化不明瞭 内面 ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・悪 外面 炭素付着 残・胴部上半 口縁部
甕	7		胎・精 小石 褐鉄粒子 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部 粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ 焼・普 外 面炭素付着 色・橙褐色 使・内面胴部 下半剥離 残・胴部 口縁部一 部
甕	8		胎・精 白色粒子多 成・胴部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 焼 ・良 色・橙褐色 残・口縁部 $\frac{3}{4}$
甕	9		胎・粗砂粒多 角閃石多 褐鉄粒 成・胴部と口縁部接合 整・外面風化 不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外 面風化 残・胴部一部 口縁部一部
甕	10		胎・粗砂粒多 白色粒子 成・胴部下半と上半 (接合痕明瞭) 胴部と口 縁部接合 焼・良 色・外 橙褐色 内 黄褐色 使・外面風化 残・胴 部一部 口縁部一部
高坏	11		胎・砂粒 石英 角閃石 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接合 整・外面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナデ 坏底部ヘラケズリ後ナデ 内面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナデ 坏底部ナデ 焼・良 色・橙褐色 出・床直 残・裾部 脚部 坏底部 $\frac{1}{2}$

## 社具路96号住居址出土遺物 (第36図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 20.6	胎・精 黒色粒子多 成・胴部と口縁部接合? 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{3}{4}$
甕	2		胎・精 成・不明 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・口縁部一部
甕	3		胎・精 黒色粒子多 成・胴部と口縁部接合 口縁部2段積 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	4		胎・精 成・不明 整・外面ヘラケズリ 内面ナデ 焼・良 色・灰褐色 使・外面炭素附着 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部下半
高坏	5		胎・精 白色粒子 成・脚部と坏底部接合 坏底部内面弧状ヘラ成形 整・外面 裾部及び脚部ヨコナデ 坏底部ヘラケズリ 内面 裾部及び脚部ヨコナデ 坏底部ナデ 焼・良 色・橙褐色 使・坏底部外面炭素附着 残・脚部 (一部欠損) 坏底部一部
高坏	6		胎・精 角閃石多 成・脚部と坏底部接合 整・外面 脚部→ヨコナデ 坏部ヘラケズリ 内面 脚部←ヨコナデ 坏底部ナデ 焼・良 色・橙褐色 使・坏底部外面炭素附着 残・脚部 (一部欠損) 坏底部一部
高坏	7		胎・精 白色粒子 褐鉄粒 成・不明 整・外面 坏底部ヘラケズリ 坏縁部ヨコナデ 内面風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・内面風化剝離 残・坏底部一部 坏縁部 $\frac{1}{3}$
坏	8	口径 12.2 器高 4.0	胎・精 白色粒子 成・不明 整・外面 底部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・内面炭素附着 残・ほぼ完形
坏	9	口径 13.5 器高 2.8	胎・精 角閃石 褐鉄粒 成・不明 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 坏底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損)
坏	10	口径 11.9 器高 4.1	胎・精 白色粒子 成・不明 整・外面 底部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・外面風化 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	11		胎・精 成・不明 整・外面 底部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・底部一部 口縁部一部
坏	12		胎・精 成・不明 整・外面 坏底部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後

須恵 坏	13	ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 坏底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼 ・良 色・橙褐色 残・坏底部一部 口縁部一部 胎・やや粗 黒色粒子 成・底部回転糸切りのまま ロクロ成形 整・内 外面ロクロナデ 焼・悪 色・淡灰色 残・底部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
---------	----	--

## 社具路97号住居址出土遺物 (第37・38図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 18.5 器高 30.0	胎・砂粒 小石 白色粒子 褐鉄粒子 成・底部 (上がり底?) 胴部下 半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケ ズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 胴部外面炭素付着 色・橙褐色 内面黒ずむ 使・底部摩滅 残・ほぼ完 形 (口縁部及び胴部各一部欠損) 備・復原不良
甕	2	口径 18.8 器高 31.2	胎・砂粒多 角閃石 褐鉄粒子 成・底部と胴部 胴部下半と上半 胴部 と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口 縁部ヨコナデ 内面 胴部下半ヘラケズリ後ヘラナデ 上半ヘラナデ 口 縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 内面黒ずむ 残・ほぼ完形 (口縁部 及び胴部各一部欠損)
甕	3	口径 21.6	胎・精砂粒少 白色粒子 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げか? 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口 縁部ヨコナデ 焼・良 外面胴部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口 縁部 $\frac{3}{4}$
甕	4		胎・精 白色粒子 成・底部上がり底? 胴部と口縁部接合 (内面接合痕 明瞭) 整・内外面風化不明瞭 焼・普 色・橙褐色 使・2次的熱風化 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	5	口径 11.0 器高 9.9	胎・砂粒多 石英多 白色粒子多 成・胴部と口縁部接合 肩部粘土帯積 上げ (内面 $\frac{3}{4}$ ↔接合痕 $\frac{1}{4}$ ↖ 5本の接合痕明瞭) 底部上がり底? 整・ 外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部風化不明瞭 口縁部 ヨコナデ 焼・普 外面底部炭素付着 色・橙褐色 使・2次的熱風化 残・完形
甕	6	口径 11.3 器高 9.6	胎・砂粒 石英多 白色粒子 褐鉄粒少 成・肩部粘土帯積上げ (内面接 合痕明瞭) 胴部と口縁部接合 (内面接合痕明瞭) 整・外面 胴部風化 不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・2次的熱不明 色・赤褐色 使・2次的熱風化 残・完形
甕	7	口径 15.1 器高 15.6	胎・粗砂粒多 褐鉄粒 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯 積上げ 口縁部粘土帯2段積 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部 ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 底部

甕	8		炭素付着 色・橙褐色 使・口唇部摩滅 残・底部 胴部 口縁部 $\frac{1}{2}$ 胎・砂粒 小石少 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部一部
甕	9		胎・精 褐鉄粒子 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後 ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・ 橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	10		胎・粗砂粒 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部 ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・外面一部剥離 残・胴部 $\frac{2}{3}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 備・復 原不良
甕	11		胎・精 白色粒子 褐鉄粒 成・肩部接合部分で分離 内面弧状ヘラ成形 整・外面ヘラケズリ 内面ナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面風化 残 ・底部 胴部下半
甕	12		胎・砂粒 白色粒子 褐鉄粒 成・底部上がり底? 内面ヘラ成形痕 整 ・内外面風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・2次的熱風化 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部下半一部
甕	13	口径 17.3 器高 15.0	胎・砂粒 石英 成・孔部周囲粘土紐貼付か? 胴部下半と上半接合 胴 部粘土帯積上げ 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴 部下半 $\leftrightarrow$ ナデ 上半ヘラナデ? 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面一部炭 素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損)
甕	14	口径 24.4 器高 14.7	胎・砂粒多 石英 白色粒子 褐鉄粒 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上 半 胴部と口縁部接合 整・外面風化不明瞭 内面 胴部ヘラケズリ 口 縁部ヨコナデ 焼・2次的熱不明 色・橙褐色 使・2次的熱風化 残・ ほぼ完形(口縁部一部欠損)
坏	15		胎・精 白色粒子多 成・底部と口縁部接合 口唇部ヘラ切り? 整・外 面 底部下半ヘラケズリ 上半ナデ 口縁部2回のヨコナデ 内面 底部 同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・底部一部 口 縁部一部
坏	16	口径 12.0 器高 5.3	胎・精砂粒 石英多 白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外 面 底部下半ヘラケズリ後ナデ 上半ヘラケズリ 口縁部2回のヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部2回のヨコナデ 口唇部直下一部凹状 焼・良 底部外面炭素付着 色・橙褐色 使・底部外面及び口唇部摩滅 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損)
坏	17		胎・精砂粒 白色粒子 褐鉄粒 成・胴部と口縁部接合(接合部分で分離 ) 焼・普 色・橙褐色 使・内面風化ザラつく 残・底部 $\frac{2}{3}$

坏	18	口径 14.6	胎・精砂粒 小石少 成・底部と口縁部接合 口唇部ヘラ切りか? 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部2回のヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部2回のヨコナデ 焼・良 外面炭素付着 色・橙褐色 残・完形
坏	19	口径 12.8 器高 5.5	胎・精砂粒 白色粒子 成・底部と口縁部接合 口唇部ヘラ切りか? 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 口縁部2回のミズビキ? 内面 底部同心円状ナデ 口縁部2回のミズビキ? 焼・普 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損)
罍	20	口径 9.4 器高 9.5	胎・精 成・巻き上げミズビキロクロ成形 胴部と口縁部接合 (内面接合 痕一部明瞭) 孔は外面より穿つ (内面孔部周囲粘土盛上がり有) 整・外面 底部手持ち不正方向ヘラケズリ後ナデ 胴部回転ヘラケズリ後ロクロナデ 口縁部ロクロナデ 楯描波状文 胴部6本 口縁部下段12本 上段6本 内面ロクロナデ 焼・良 色・淡灰青色 残・ほぼ完形

## 社具路98号住居址出土遺物 (第39図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甗	1	口径 14.6	胎・砂粒 石英多 角閃石多 成・胴部下半と上半接合 胴部粘土帯積上げ 口縁部粘土帯2段積 整・外面 胴部下半ヘラケズリ後ナデ 上半ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面炭素付着 色・黄褐色 外面下半橙褐色 使・2次的熱? 残・胴部 (孔部周囲欠損) 口縁部
甗	2	口径 10.5 器高 9.0	胎・砂粒多 小石少 成・胴部下半と上半接合 胴部と口縁部接合 整・外面ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・底部摩滅 残・胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
高坏	3		胎・砂粒 白色粒子多 褐鉄粒子 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接合 整・外面 裾部ヘラケズリ後ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナデ 脚部と坏底部接合部分指頭圧痕 内面 裾部ヨコナデ 脚部←ヘラケズリ 焼・普 色・赤褐色 残・裾部一部 脚部 坏底部一部
坏	4		胎・精砂粒少 成・底部と坏縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 口縁部内外面黒ずむ 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部

## 社具路99号住居址出土遺物 (第40図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
坏	1		胎・砂粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部→ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部←ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・底部 (一部欠損) 口縁部 $\frac{3}{4}$

坏	2		胎・精 褐鉄粒少 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 内外面やや光沢有 形・底部器厚0.1~0.2で薄い 焼・良 内面炭素付着 色・外 橙褐色 口縁部黒ずむ 内 黒褐色 残・底部一部 口縁部一部
坏	3		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ミガキ (光沢有) 口縁部2回のヨコナデ 内面 底部ナデ後暗文状ヘラミガキ 口縁部ヨコナデ 焼・良 内面炭素付着 色・外 橙褐色 黒ずむ 内 黒褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	4	口径 13.7 器高 3.6	胎・砂粒少 白色粒子多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・底部 (一部欠損) 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	5		胎・精砂粒少 褐鉄粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 内面炭素付着 色・外 橙褐色 内 黒褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$

## 社具路100号住居址出土遺物 (第41・42図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 18.1 器高 28.6	胎・砂粒多 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・灰褐色 使・底部摩滅 胴部下半2次的熱 残・底部 胴部 (一部欠損) 口縁部 (一部欠損)
甕	2	口径 18.6	胎・砂粒多 石英 角閃石 褐鉄粒 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部2回のヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・赤褐色 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	3	口径 13.7	胎・粗砂粒 (口縁部一部及肩部に帯状を成す) 成・不明 整・外面 胴部 $\downarrow$ ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面一部及内面炭素付着 色・黄褐色 残・胴部上半 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	4	口径 11.7	胎・砂粒少 成・胴部と口縁部接合 口縁部2段積 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・2次的熱不明 色・黄褐色 使・外面 焼土付着 剝離 内面炭素付着 残・胴部 (一部欠損) 口縁部
甕	5	口径 18.8	胎・砂粒多 成・粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面風化不明瞭 焼・悪 外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部 $\frac{1}{2}$
鉢	6		胎・砂粒少 成・底部と胴部接合 胴部と口縁部接合か? 整・外面 胴

甕	鉢	7			部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 外面炭素付着 色・橙褐色 使・底部摩滅 口縁部内面剥離 残・底部 胴部一部 口縁部一部
					胎・精 成・不明 整・外面風化不明瞭 内面ナデ 焼・普 外面底部炭素付着 色・橙褐色 使・底部風化摩滅 残・底部 胴部下半一部
手捏	高坏	10	口径	13.2	胎・粗砂粒多 成・底部と胴部接合 内面弧状ヘラ成形? 整・外面 胴部指頭押さえ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・外 黄褐色 内 橙褐色 使・2次的熱 外面一部焼土付着 残・完形
			器高	8.2	胎・精 成・手捏ね風 整・外面 底部ヘラスズリ ナデ 上部指頭押さえ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・黄褐色 口縁部外面及び内面黒褐色 使・口縁部一部摩滅 残・ほぼ完形(底部及び口縁部一部欠損)
环	环	11			胎・精 成・坏底部と坏縁部接合 整・外面 坏底部ヘラケズリ 坏縁部ヨコナデ 内面 坏底部同心円状ナデ 坏縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・坏底部一部 坏縁部一部
					胎・精 褐鉄粒子多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$

社具路101号住居址出土遺物 (第43~50図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1		胎・砂粒少 白色粒子多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ(接合痕部分的に明瞭) 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面風化 出・床直 接・北西柱穴付近 中央竈寄 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	1'		胎・砂粒少 白色粒子多 成・底部と胴部接合 整・外面風化不明瞭 内面ヘラケズリ後ナデ 焼・普 外面底部炭素付着 色・橙褐色 使・外面風化 出・床直 接・北西柱穴付近 竈裾住居址中央 残・底部 胴部一部 備・1と同一個体と思われるが接合不可
甕	2	口径 18.7 器高 33.8	胎・粗砂粒 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面胴部下半一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面摩滅 内面胴部及び口縁部の一部剥離 残・底部 胴部(一部欠損) 口縁部 $\frac{1}{2}$

甕	3	口径 18.4 器高 30.7	胎・精砂粒 褐鉄粒 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土 帯積上げ 口縁部粘土帯3段積 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコ ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面 及び底部内面炭素付着 残・ほぼ完形(胴部及び口縁部一部欠損)
甕	4	口径 13.7 器高 28.3	胎・粗砂粒多 成・底部一部粘土紐貼付? 胴部下半と上半接合 胴部粘 土帯積上げ 口縁部粘土帯2段積 形・胴部上半及び口縁部扁平 整・外 面 胴部下半ヘラケズリ後ナデ 上半ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面胴部一部炭素付着 色・黄 褐色 使・底部摩滅 底部内面黒ずむ 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損) 備・上半復原不良
甕	5	口径 16.9 器高 31.6	胎・粗砂粒多 石英多 褐鉄粒子多 成・底部上がり底か? 底部と胴部 胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・内外面風化 不明瞭 焼・善 色・橙褐色 使・内外面風化 外面焼土付着 出・床直 残・ほぼ完形(胴部一部欠損)
甕	6	口径 17.8 器高 18.8	胎・砂粒多 褐鉄粒子多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部 粘土帯積上げ 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部 ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 外面一部黒ず む 使・外面風化摩滅 残・胴部(一部欠損) 口縁部
甕	7	口径 14.2	胎・砂粒 褐鉄粒 成・底部粘土紐貼付? 胴部下半と上半 胴部と口縁 部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面風化不明瞭 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・外 黄褐色 内 橙褐色 使・外面風化 胴部下半から底部剝離 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部(一部欠損)
甕	8	口径 16.8	胎・粗砂粒多 成・胴部粘土帯積上げ(内面接合痕部分的明瞭) 整・外 面 胴部摩滅不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコ ナデ 焼・悪 外面一部炭素付着 色・橙褐色 外面部分的に黒ずむ 使 ・外面摩滅 残・胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{3}{4}$
甕	9	口径 16.6	胎・砂粒多 白色粒子多 成・胴部粘土帯積上げ 胴部下半と上半接合( 接合部分で分離) 整・外面風化不明 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコ ナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・黄褐色 内外面部分的に黒ずむ 使・外面摩滅 接・竈裾 貯蔵穴上 残・胴部上半 $\frac{3}{4}$ 口縁部一部欠損
甕	10		胎・粗砂粒多 成・粘土帯積上げ 整・外面 胴部 $\uparrow$ ヘラケズリ 口縁部 ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・黄褐色 外面一部黒ずむ 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	11		胎・粗砂粒多 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴 部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 焼・善 色・橙褐 色 内外面やや黒ずむ 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$

甕	1 2	口径 16.4	胎・砂粒多 成・粘土帯積上げ 整・内外面風化不明瞭 焼・悪 色・橙褐色 使・外面焼土付着 出・床直 接・竈内 貯蔵穴周辺 北西柱穴及び南西柱穴周辺 東壁付近 残・胴部上半 $\frac{1}{3}$ 口縁部（一部欠損）
甕	1 3		胎・砂粒多 成・粘土帯積上げ 整・内外面風化不明瞭 焼・普 色・橙褐色 使・内外面風化 残・胴部上半 $\frac{1}{3}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	1 4		胎・砂粒 白色粒子多 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ（内面接合痕部分的明瞭） 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面一部炭素付着 色・赤褐色 口縁部内面橙褐色 残・胴部上半 $\frac{2}{3}$ 口縁部 $\frac{1}{3}$
甕	1 5		胎・砂粒 石英多 褐鉄粒子多 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・内外面風化不明瞭 焼・普 外面一部炭素付着 使・内外面風化内面剥離 残・胴部上半一部 口縁部 $\frac{1}{2}$ 色・橙褐色
甕	1 6		胎・粗砂粒多 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部2回のヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部2回のヨコナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・外 黄褐色 内 橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{4}$
甕	1 7		胎・精砂粒少 褐鉄粒子 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・橙褐色 内外面黒ずむ 使・外面風化剥離 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{3}$
甕	1 8	口径 20.5	胎・粗砂粒多 石英 角閃石 白色粒子多 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・胴部内外面風化不明瞭 口縁部内外面ミズビキ 焼・普 色・橙褐色 胴部内面灰色帯びる 使・内外面風化不明瞭 出・床直 残・胴部上半（一部欠損） 口縁部
甕	1 9		胎・砂粒 角閃石多 成・粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 内面炭素付着 色・黄褐色 残・胴部一部 口縁部一部
甕	2 0		胎・砂粒多 小石多 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 整・外面風化不明瞭 内面ナデ 焼・普 色・外 橙褐色 一部黒ずむ 内 灰褐色 使・外面風化 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{3}$
甕	2 1	口径 11.0 器高 11.8	胎・精 白色粒子 褐鉄粒子多 成・胴部と口縁部接合 底部粘土紐貼付 ? 整・外面胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部下 $\frac{1}{2}$ ナデ 口縁部上半ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・内外面一部炭素付着 外面風化 残・完形
甕	2 2	口径 11.1 器高 13.4	胎・砂粒多 成・胴部下 $\frac{1}{2}$ と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面風化不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 内外面

			一部炭素付着 色・橙褐色 内面黒ずむ 使・2次的熱風化 残・底部 胴部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕 (壺)	2 3	口径 10.9 器高 13.9	胎・砂粒 白色粒子多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 整・内 外面風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・内外面一部剝離 残・ほぼ完 形(胴部及び口縁部一部欠損)
甕	2 4		胎・粗砂粒多 成・粘土帯積上げ 整・外面風化不明瞭 内面ナデ 焼・ 悪 色・橙褐色 使・外面風化摩滅 残・胴部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	2 5		胎・砂粒 白色粒子多 褐鉄粒子多 成・底部粘土紐貼付? 整・内外面 風化不明瞭 焼・悪 外面一部炭素付着 色・橙褐色 内面黒ずむ 残・ 底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	2 6		胎・精 白色粒子 褐鉄粒子多 成・底部上がり底か? 整・外面ヘラケ ズリ 内面ナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・外 橙褐色 内 黄褐 色 使・底部摩滅 残・底部 胴部一部
甕	2 7		胎・精 白色粒子多 褐鉄粒子多 成・底部粘土紐貼付か? 整・外面ヘ ラケズリ後ナデ 内面ナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・外 黄褐色 内 橙褐色 残・底部 胴部一部
甕	2 8		胎・砂粒多 成・底部と胴部 胴部下半と上半接合 粘土帯積上げ 整・ 外面ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・黄褐 色 使・内外面剝離 残・底部 胴部下半
甕	2 9		胎・粗砂粒 成・底部上がり底か? 胴部下半と上半接合 粘土帯積上げ 整・外面ヘラケズリ 内面ナデ 焼・良 外面底部炭素付着 色・黄褐色 残・底部 胴部下半 $\frac{1}{2}$
甕	3 0		胎・砂粒多 成・底部粘土紐貼付? 成・内外面風化不明瞭 焼・善 外 面一部炭素付着 色・外 黄褐色 内 灰褐色 使・内外面風化 出・床 直 接・南西柱穴内 南壁及び東壁付近 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部一部
甕	3 1		胎・砂粒多 成・底部上がり底か? 整・外面↑ヘラケズリ 内面ヘラケ ズリ後ナデ 焼・善 内外面炭素付着 色・底部外面黄褐色 胴部内外面 灰褐色 残・底部 胴部下半 $\frac{1}{2}$
甕	3 2		胎・砂粒極多 石英多 褐鉄粒子 成・底部粘土紐貼付か? 胴部下半と 上半接合 粘土帯積上げ 整・外面風化不明瞭 内面ヘラナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部 $\frac{1}{4}$
甕	3 3		胎・砂粒 角閃石多 白色粒子多 成・底部上がり底か? 胴部下半と上 半接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面焼土付着不明瞭 内面ナデ 焼・悪 色・橙褐色 使・外面焼土付着 出・床直 残・底部 胴部下半
甕	3 4		胎・粗砂粒 褐鉄粒子 成・不明 整・外面風化不明瞭 内面ヘラナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面風化 接・貯蔵穴上 竈内 残・底部 $\frac{1}{2}$

甕	3 5		胴部一部 胎・粗砂粒極多 褐鉄粒 成・不明 整・外面→ヘラケズリ 内面ナデ 焼・善 色・黄褐色 外面黒ずむ 使・外面炭素付着 残・底部 胴部下 半一部
甕	3 6		胎・精 成・底部粘土紐貼付? 整・外面ヘラケズリ後ナデ 内面ヘラケ ズリ後ナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・黄褐色 残・底部 胴部下 半一部
甕	3 7		胎・粗砂粒多 角閃石多 石英多 成・胴部下半と上半接合 胴部粘土帯 積上げ 整・外面↓ヘラケズリ 内面ナデ 焼・善 色・黄褐色 内外面 黒ずむ 使・外面炭素付着 残・底部 胴部下半
甕	3 8		胎・粗砂粒多 成・底部粘土紐貼付? 整・外面ヘラケズリ 内面ヘラケ ズリ 焼・悪 内面外面一部炭素付着 色・外 黄褐色 一部灰褐色 内 灰褐色 使・底部摩滅 外面剝離 残・底部 胴部下半
甕	3 9		胎・砂粒少 白色粒子多 成・胴部下半と上半接合(内面接合痕明瞭) 整・外面ヘラケズリ後ナデ(やや光沢有) 内面ナデ(上半↑ナデ) 焼 ・善 内面 外面の一部炭素付着 色・外 橙褐色 内 暗灰褐色 残・ 底部 胴部下半
甕	4 0	口径 22.8 器高 31.0	胎・砂粒少 褐鉄粒子 成・胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 孔部 ヘラ切り 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部% 口縁部%
甕	4 1	口径 21.5 器高 33.7	胎・砂粒多 小石 褐鉄粒多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 孔部ヘラ切り 整・外面 胴部下半ヘラケズリ後ナデ 上 半↑ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼 ・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・口縁部内外面一部剝離 出・ 床直 住居址北東半分に散在 残・胴部% 口縁部一部欠損
甕	4 2		胎・砂粒多 褐鉄粒子多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部 粘土帯積上げ 孔部ヘラ切り 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナ デ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・ 外 黄褐色 内 橙褐色 出・床直 残・胴部% 口縁部%
甕	4 3	口径 23.3	胎・砂粒多 角閃石多 褐鉄粒多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接 合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内 面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部%
甕	4 4	口径 21.7 器高 26.6	胎・粗砂粒多 角閃石多 石英多 褐鉄粒子 成・孔部ヘラ切り 胴部下 半と上半接合 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部へ

				ラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・ 善 外面一部炭素付着 色・外 黄褐色 内 橙褐色 残・胴部（孔部一 部欠損） 口縁部 $\frac{1}{2}$
甌	4 5	口径 器高	19.7 16.4	胎・粗砂粒少 成・孔は外側より穿つ 孔部周囲粘土紐貼付か？ 胴部と 口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面ナデ 焼 ・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部（一部欠損） 口縁部 $\frac{1}{2}$
甌	4 6	口径 器高	15.2 12.7	胎・砂粒多 角閃石多 褐鉄粒子多 成・孔部ヘラ切り 胴部と口縁部接 合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内 面 胴部下半↑ヘラケズリ 上半↔ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面 $\frac{1}{2}$ 炭素付着 色・黄褐色 出・床直 残・ほぼ完形（口縁部一部欠損 ）
高坏	4 7	口径 器高	13.5 9.2	胎・精 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・内外 面風化不明瞭 焼・善 色・橙褐色 使・内外面風化 残・部底 $\frac{3}{4}$ 脚部 坏底部 $\frac{3}{4}$ 坏縁部 $\frac{3}{4}$
高坏	4 8	口径 器高	13.7 9.5	胎・精 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 裾部ヨコナデ 脚部及び坏底部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 裾部 ヨコナデ 脚部風化不明瞭 坏底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・ 善 色・橙褐色 使・外面風化 出・床直 残・裾部 脚部 坏底部 坏 縁部 $\frac{3}{4}$
高坏	4 9			胎・砂粒多 石英多 白色粒子多 成・裾部と脚部接合 整・内外面風化 不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・内外面風化 出・床直 残・裾部一部 脚部 坏底部一部
高坏	5 0			胎・砂粒多 白色粒子多 成・裾部と脚部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・内外面風化 残・裾部一部 脚部 坏底部一部
坏	5 1	口径 器高	13.0 3.8	胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 上半風化不 明瞭 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面 風化 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	5 2	口径 器高	13.2 4.9	胎・砂粒多 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 底部外面一 部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	5 3	口径	13.3	胎・精 褐鉄粒子多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	5 4	口径 器高	14.0 3.9	胎・精 褐鉄粒 粘土練込 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラ ケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色 ・橙褐色 残・ほぼ完形（口縁部一部欠損）

坏	5 5	口径 12.6 器高 4.2	胎・精 成・底部と口縁部接合 成・外面 底部風化不明瞭 口縁部ヨコ ナデ 内面剥離風化不明瞭 焼・普 色・橙褐色 使・外面風化 内面剥 離風化 残・ほぼ完形
坏	5 6		胎・精砂粒 石英 褐鉄粒多 成・底部と口縁部接合 (接合部分で分離) 整・外面 底部摩滅不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨ コナデ 焼・良 底部外面一部炭素附着 色・黄褐色 残・底部 口縁部 1/2 備・底部内面亀裂有 焼成時か?
坏	5 7		胎・石英多 褐鉄粒多 粘土練込 成・底部と口縁部接合 整・外面 底 部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・ 良 色・橙褐色 残・底部1/4 口縁部1/2
坏	5 8	口径 12.8 器高 4.7	胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部摩滅風化不明瞭 口縁部 ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐 色 使・底部摩滅風化 内外面一部剥離 残・ほぼ完形 (底部及び口縁部 一部欠損)
坏	5 9		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・普 色・黄 褐色 残・底部一部 口縁部一部
坏	6 0	口径 13.3 器高 5.3	胎・精砂粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部 ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐 色 残・底部 口縁部1/2
坏	6 1		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコ ナデ 内面風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 残・底部一部 口縁部1/2
坏	6 2		胎・粗砂粒少 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・口縁部ヨコナデ 焼・普 外面一部炭素附着 色・橙褐色 残・底部一部 口縁部1/2
柑	6 3	口径 10.3 器高 13.9	胎・精砂粒 石英多 成・胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部←ヘラケズリ 口縁部下半↑ヘラケズリ 口縁部上半ヨコナデ 内面 ナデ 焼・良 底部外面一部炭素附着 色・橙褐色 使・底部摩滅 残・ ほぼ完形 (口唇部大半欠損)
柑	6 4	口径 9.3	胎・石英少 白色粒子 褐鉄粒子 成・胴部と口縁部接合 粘土帯積上げ 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ミズビキ 内面 胴部ナデ 口縁部ミ ズビキ 焼・良 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部 (一部欠損)
柑	6 5	口径 9.4	胎・粗砂粒多 成・粘土帯積上げ (接合痕明瞭) 整・外面 胴部風化不 明瞭 口唇部ヨコナデ 内面ナデ 焼・良 外面一部炭素附着 色・黄褐 色 使・外面風化 残・口縁部

## 社具路102号住居址出土遺物(第51~53図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 15.3 器高 30.2	胎・砂粒少 白色粒子多 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 胴部粘土 帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラ ケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 外面胴部下半炭素付着 色・橙 褐色 使・底部摩滅 残・完形
甕	2	口径 14.2 器高 21.4	胎・砂粒 白色粒子多 成・底部上がり底か? 底部と胴部 胴部下半と 上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・悪 色・橙褐色 外面黒ずむ 使・底部摩滅 残・ほぼ完形(口縁部及び胴部上半各一部欠 損)
甕	3	口径 14.6	胎・精 白色粒子 成・粘土帯積上げ(接合部分で分離) 整・外面 胴 部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨ コナデ 焼・良 色・橙褐色 使・口縁部一部摩滅欠損 出・床直 残・ 胴部上半 口縁部 備・器台として使用か?
甕	4 4'	口径 20.0 器高 26.0	胎・砂粒少 白色粒子 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯 積上げ 整・外面 胴部風化摩滅不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘ ラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・悪 使・外面風化 内外面一部剝 離 残・胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{4}$ 備・底部は中心より外れる 4'は90°回転 方向からの実測図 色・灰褐色
甕	5	口径 21.2	胎・粗砂粒多 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部↑ヘラケズリ 口 縁部ヨコナデ 内面ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・悪 色・橙褐色 残・胴 部上半一部 口縁部 $\frac{3}{4}$
甕	6		胎・精 成・底部上がり底? 粘土帯積上げ 整・外面ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ後ナデ 焼・善 色・橙褐色 残・底部 胴部下半
甕	7	口径 11.8 器高 13.6	胎・砂粒多 成・胴部下半と上半(接合痕明瞭) 胴部と口縁部接合 整 ・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 胴部下半ナデ 上半ヘ ラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 外面胴部下半 内面炭素付着 色・橙 褐色 使・底部摩滅 外面風化 残・完形
鉢	8	口径 9.6 器高 7.8	胎・砂粒多 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケ ズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・胴部(一部欠損) 口縁部 $\frac{3}{4}$
甕	9	口径 14.0 器高 13.2	胎・精 白色粒子 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 口 縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 内面一部 黒ずむ 色・橙褐色 使・外面風化 残・完形

甌	1 0			胎・精砂粒 白色粒子 成・孔部ヘラ切り後ナデ? 胴部下半と上半 胴部と口縁部接合 胴部粘土帯積上げ (内面接合痕部分的明瞭) 整・外面 胴部下半ヘラケズリ後ナデ 上半ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 内外面黒ずむ 使・外面 風化 出・床直 残・ほぼ完形 (胴部及び口縁部一部欠損)
甌	1 1	口径 15.2 器高 12.1		胎・砂粒多 成・孔は外面より割り貫く 粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・橙褐色 内外面黒ずむ 使・外面 底部及び胴部下半摩滅 残・胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{4}$
甌	1 2	口径 27.2 器高 29.7		胎・精 白色粒子 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部剥離不明瞭 焼・普 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部 口縁部 $\frac{1}{4}$
甌	1 3	口径 20.8 器高 18.1		胎・粗砂粒多 成・胴部下半と上半接合 粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部 $\frac{3}{4}$ 口縁部 $\frac{1}{4}$
甌	1 4			胎・砂粒 石英 角閃石 褐鉄粒 成・粘土帯積上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面風化不明瞭 焼・普 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部一部
高坏	1 5	口径 16.6 器高 9.8		胎・精 白色粒子 成・脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・内外面 2次の熱風化不明瞭 焼・2次の熱不明 色・橙褐色 使・2次の熱 残・完形
高坏	1 6			胎・精 成・坏底部と坏縁部接合 整・風化不明瞭 焼・2次の熱不明 色・橙褐色 使・2次の熱 残・坏底部一部 坏縁部 $\frac{1}{4}$
坏	1 7	口径 12.2 器高 4.3		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部←2回のヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部→2回のヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・口縁部から底部にかけて亀裂 残・完形
坏	1 8	口径 13.4 器高 5.3		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部→ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部←ヨコナデ 焼・良 内外面一部炭素付着 色・黄褐色 使・底部摩滅 出・床直 残・完形
坏	1 9	口径 12.4 器高 4.3		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部→ヨコナデ 内面 底部ナデ ヘラオサエ 口縁部←ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・ほぼ完形 (口縁部一部欠損)
坏	2 0	口径 12.6 器高 4.4		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・普 色・橙褐色 残・底部 $\frac{1}{4}$ 口縁部 $\frac{3}{4}$
坏	2 1	口径 11.4 器高 4.8		胎・砂粒多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ ヘラオサエ有 焼・普 色・橙褐色 接・甕

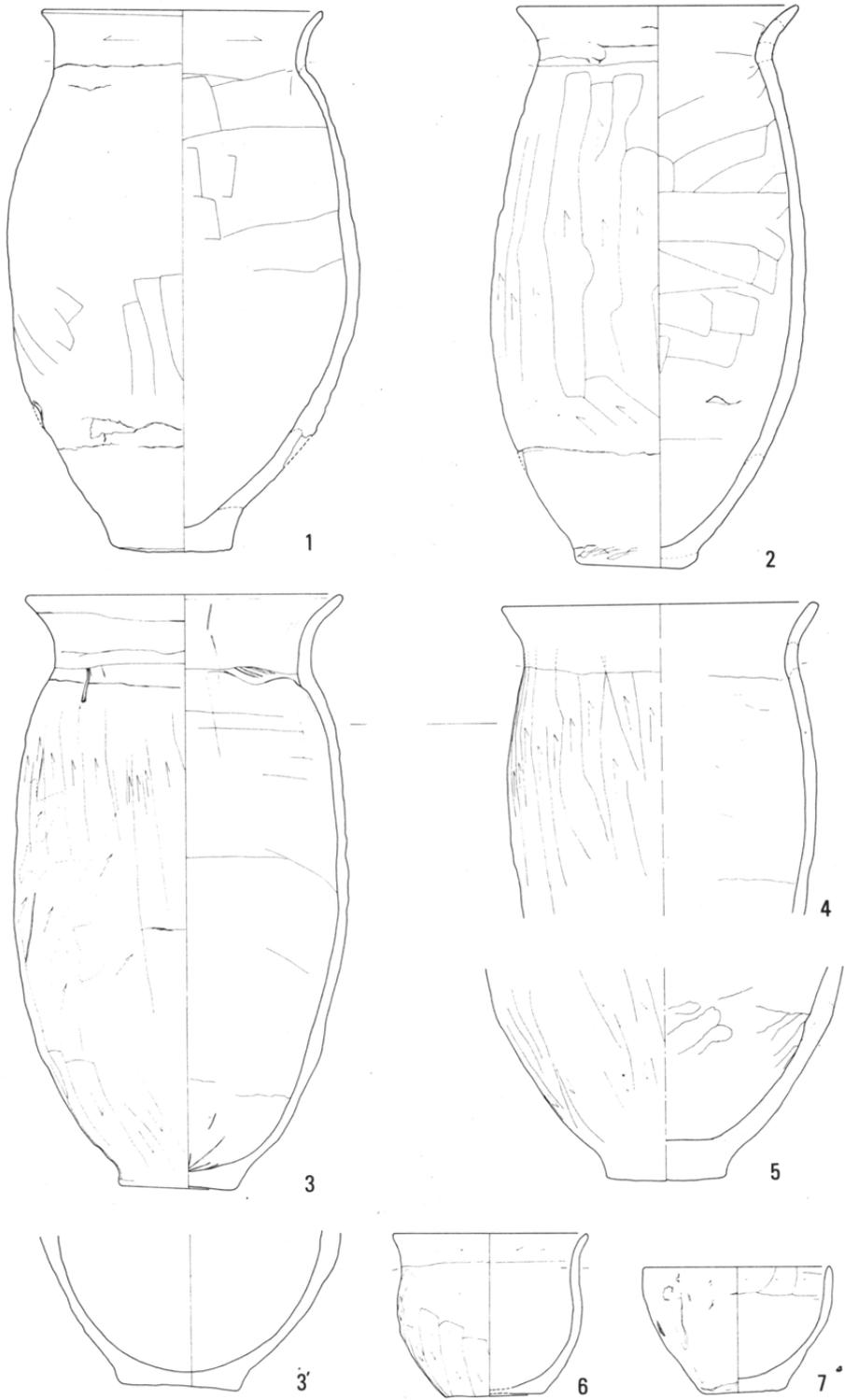
坏	2 2	口径 12.8 器高 4.5	内 甕南 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 胎・砂粒多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 口縁部 ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・ ほぼ完形（口縁部一部欠損）
坏	2 3	口径 14.6 器高 5.9	胎・精 成・底部と口縁部接合？ 整・内外面風化不明瞭 焼・普 色・ 橙褐色 使・内外面風化 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	2 4	口径 12.0 器高 4.4	胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 口縁部ヨコ ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・ほぼ完形（口縁部一部欠損）
坏	2 5		胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 口縁部ヨコ ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 使・底部摩滅風化 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$

## 社具路 1 0 3 号住居址出土遺物（第54図）

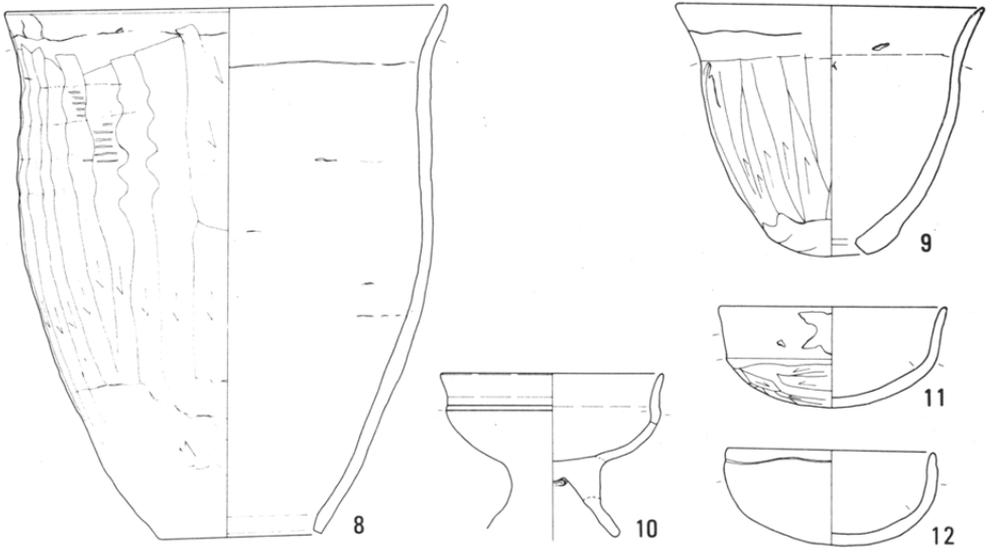
器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1		胎・精 白色粒子 角閃石 成・胴部と口縁部接合？ 整・外面 胴部↔ ヘラケズリ 口縁部風化不明瞭 内面風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・内外面風化 残・口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	2		胎・精 成・不明 整・外面ヘラケズリ 内面ナデ ヘラオサエ 焼・良 色・橙褐色 残・底部 胴部一部
高坏	3		胎・粗砂粒多 白色粒子 石英 角閃石 成・脚部と坏底部接合 整・内 外面風化摩滅不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・風化摩滅 残・脚部 坏 底部一部
坏	4	口径 8.7 器高 3.5	胎・精 成・不明 底部指頭押さえ 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部 →ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部←ヨコナデ 焼・良 色・ 黄褐色 残・ほぼ完形（底部及び口縁部一部欠損）
坏	5		胎・粗砂粒多 石英 褐鉄粒子 成・不明 整・内外面風化不明瞭 焼・ 良 色・橙褐色 使・風化摩滅 残・ $\frac{1}{2}$
坏	6	口径 12.7 器高 3.0	胎・やや精 成・不明 整・底部内外面風化不明 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・風化著しい 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	7	口径 12.3	胎・精 成・不明 整・口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残 ・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$

## 社具路104号住居址出土遺物 (第55図)

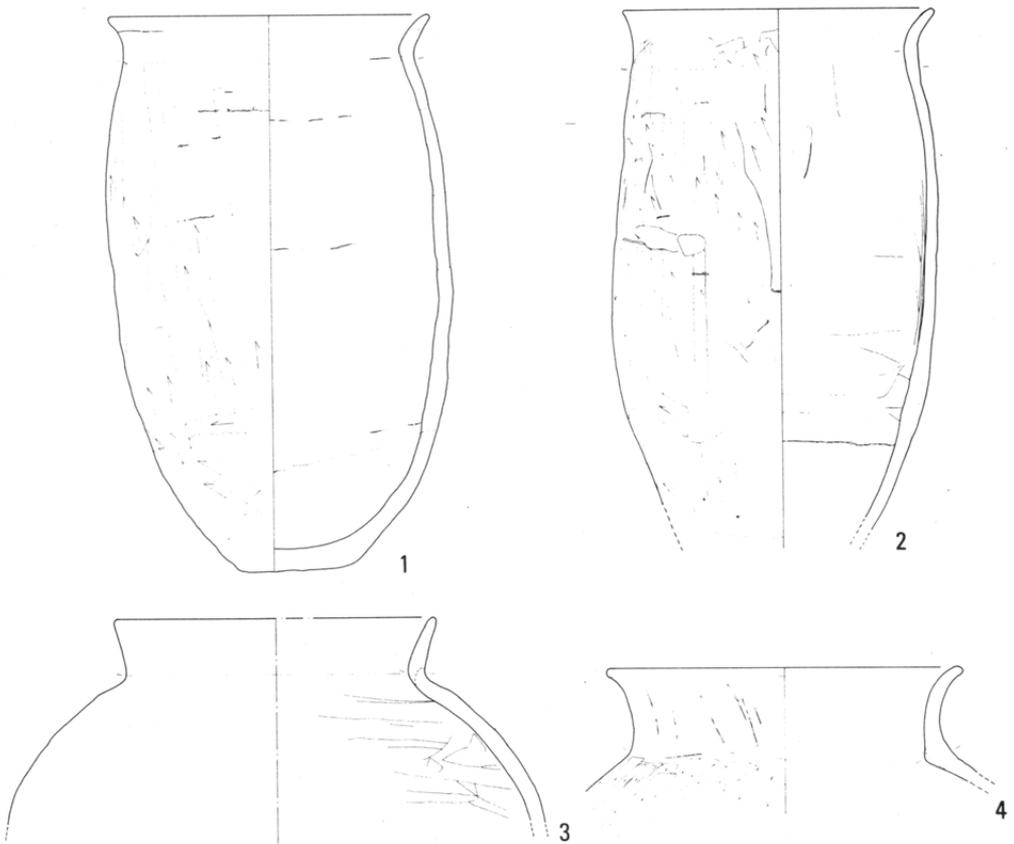
器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1		胎・精砂粒多 成・不明 整・内外面風化摩滅不明瞭 焼・良 色・橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$
高環	2		胎・精 白色粒子 褐鉄粒 成・裾部と脚部 脚部と環底部接合 整・外面 裾部ヨコナデ 脚部 $\downarrow$ ヘラケズリ 内面 裾部ヨコナデ 脚部 $\leftarrow$ ヘラケズリ 焼・良 外面炭素付着 火襷 色・橙褐色 残・裾部 $\frac{1}{2}$ 脚部
環	3		胎・精 黒色粒子少 成・不明 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
環	4		胎・精 成・不明 整・底部外面風化不明瞭 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・底部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	5	口径 12.0 器高 3.1	胎・精 成・不明 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・底部摩滅 残・底部 口縁部 $\frac{3}{4}$
環	6	口径 12.8	胎・精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・風化 残・底部 (下半欠損) 口縁部



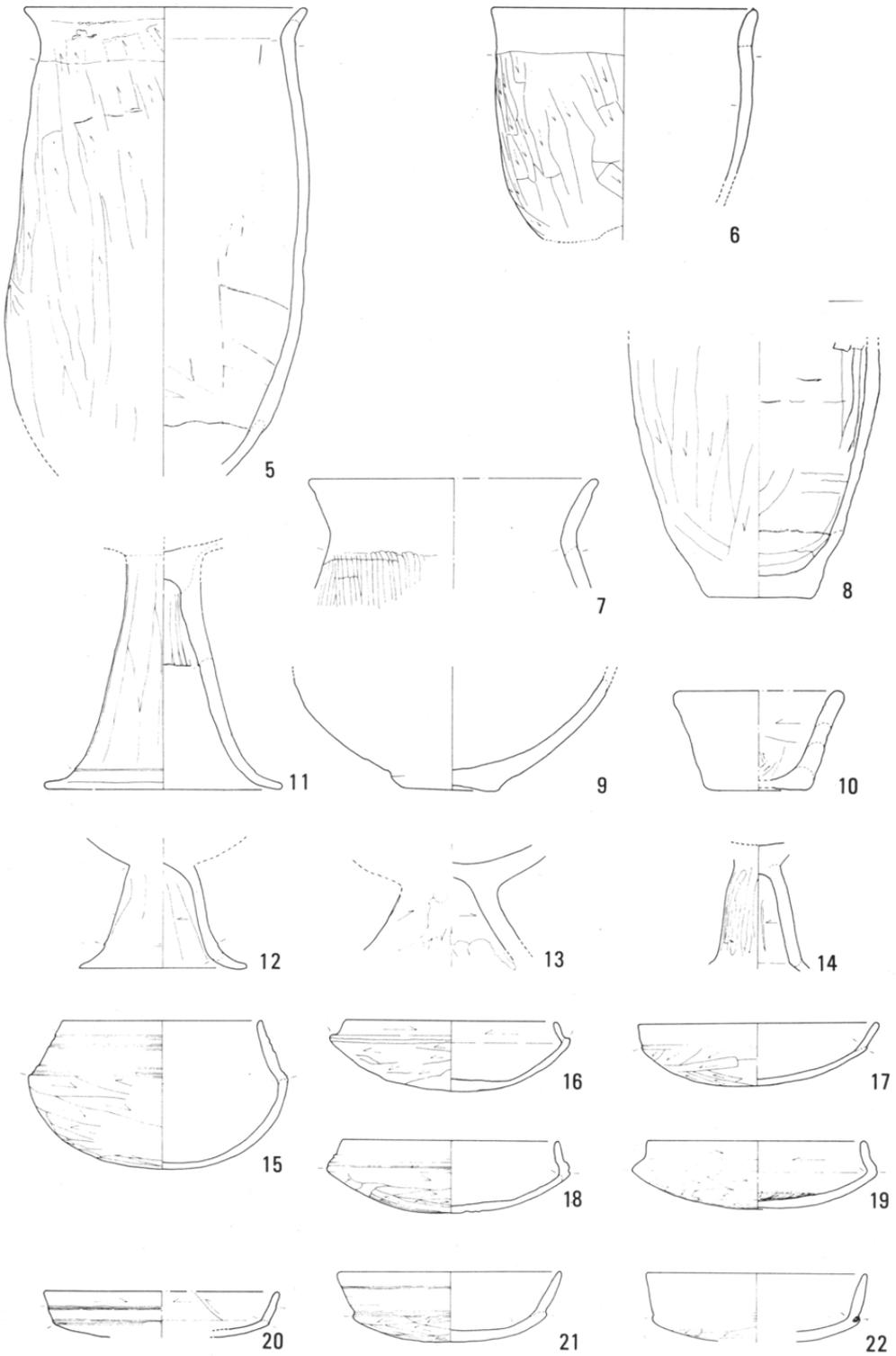
第25図 社具路遺跡90号住居址出土遺物(1)



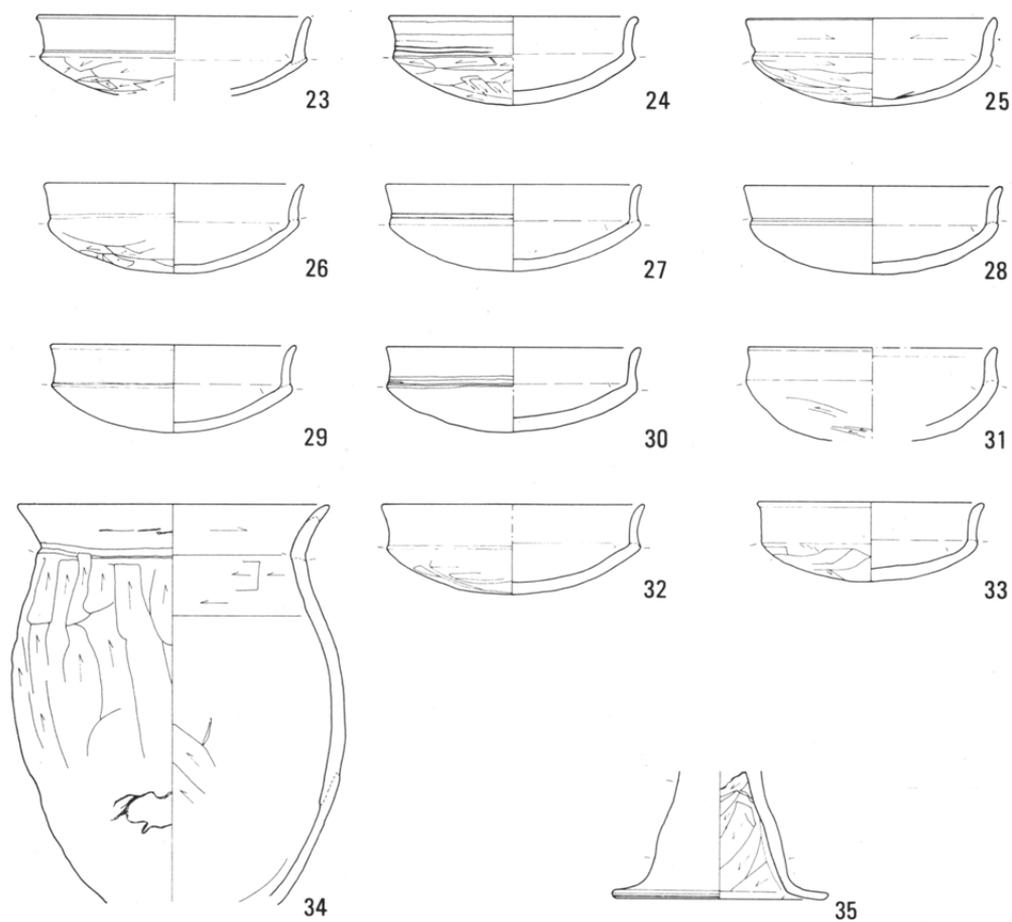
第26図 社具路遺跡90号住居址出土遺物(2)



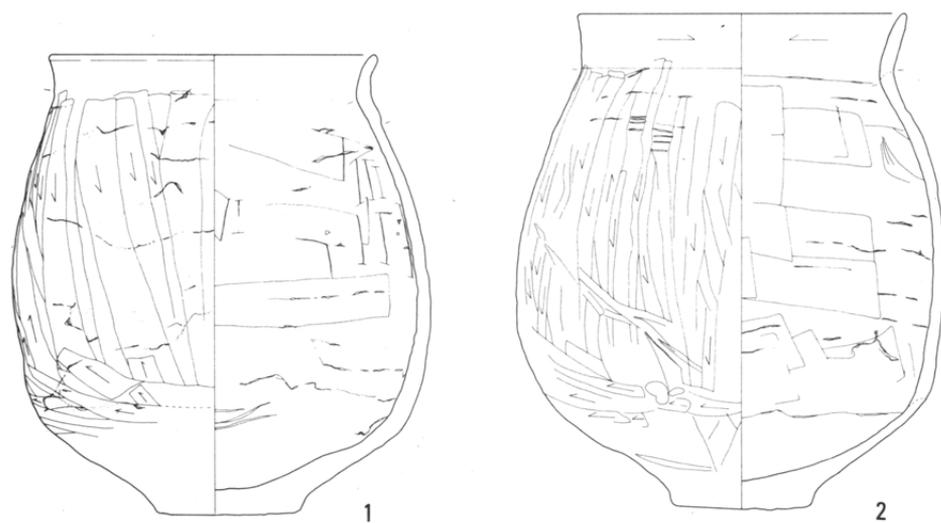
第27図 社具路遺跡91号住居址出土遺物(1)



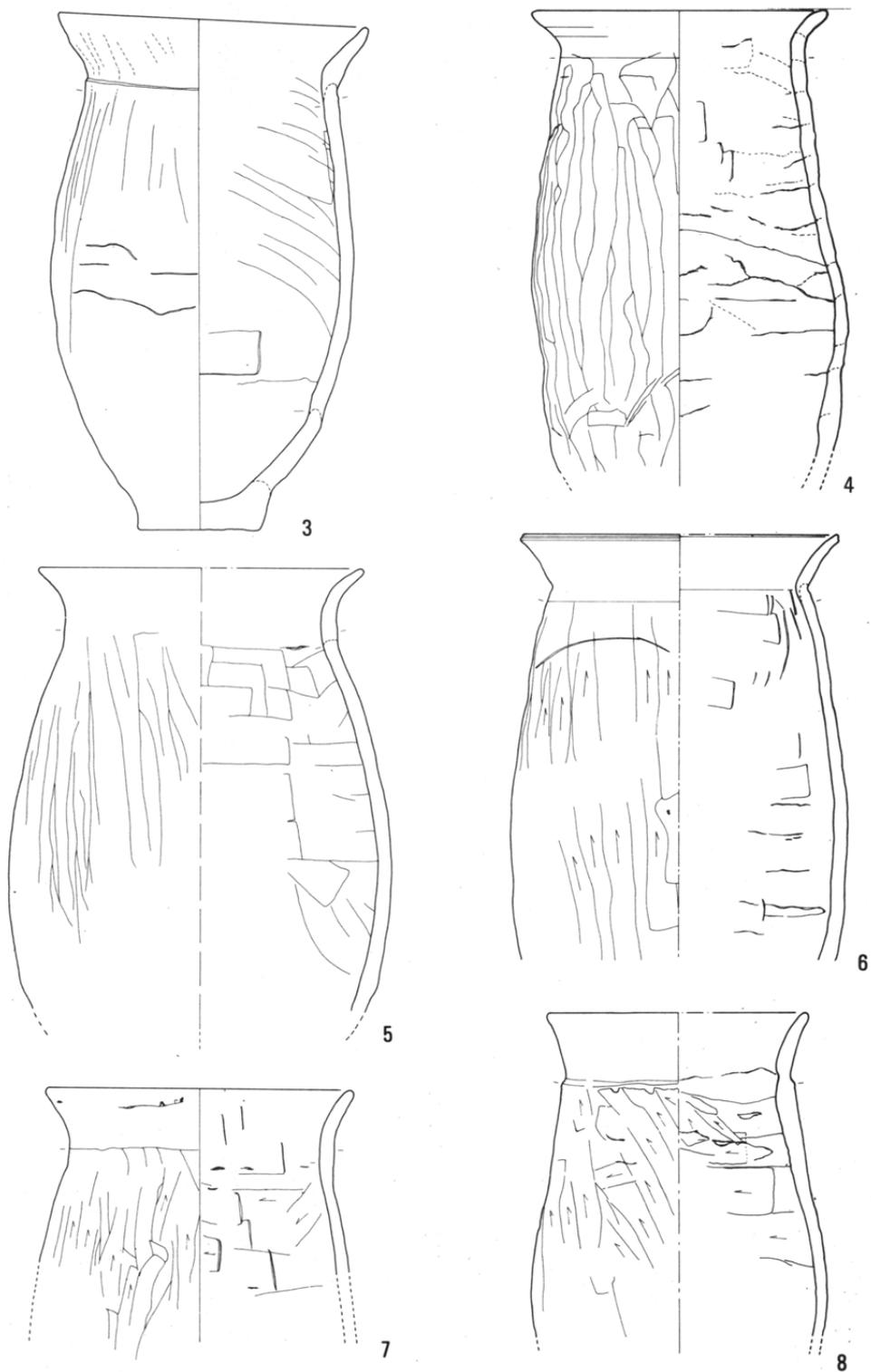
第28図 社具路遺跡91号住居址出土遺物(2)



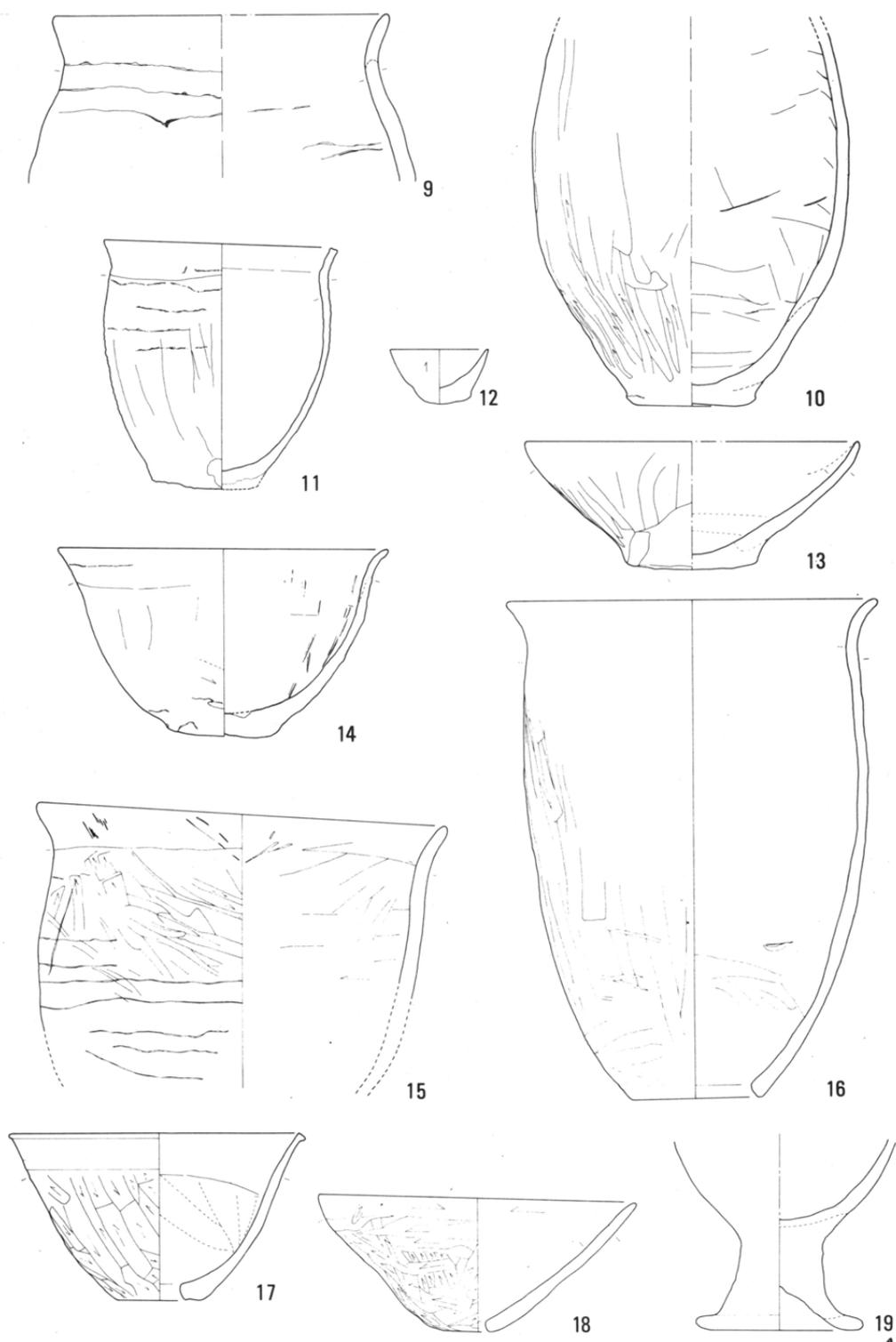
第29図 社具路遺跡91号・92号・93号住居址出土遺物



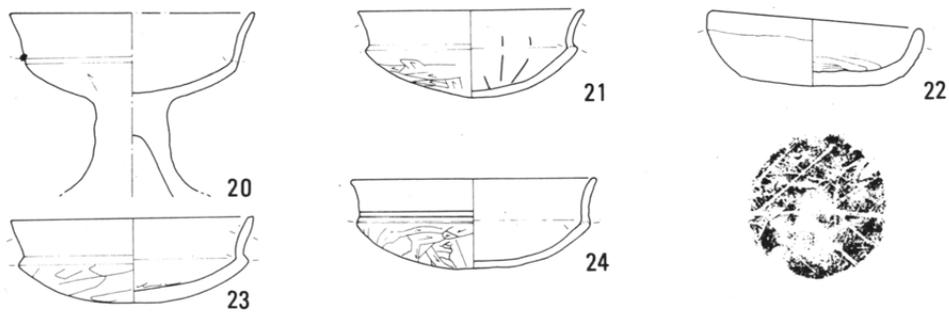
第30図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(1)



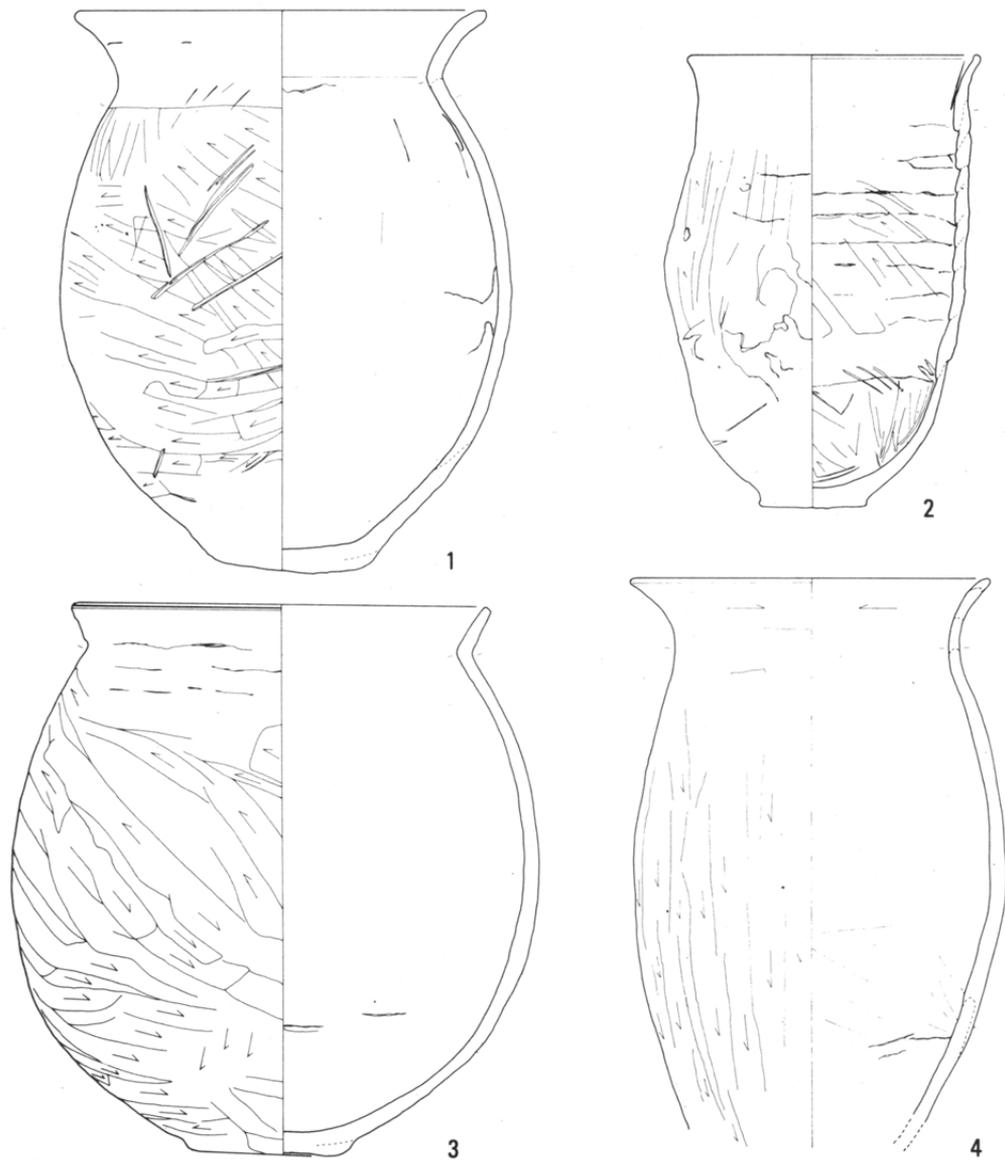
第31図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(2)



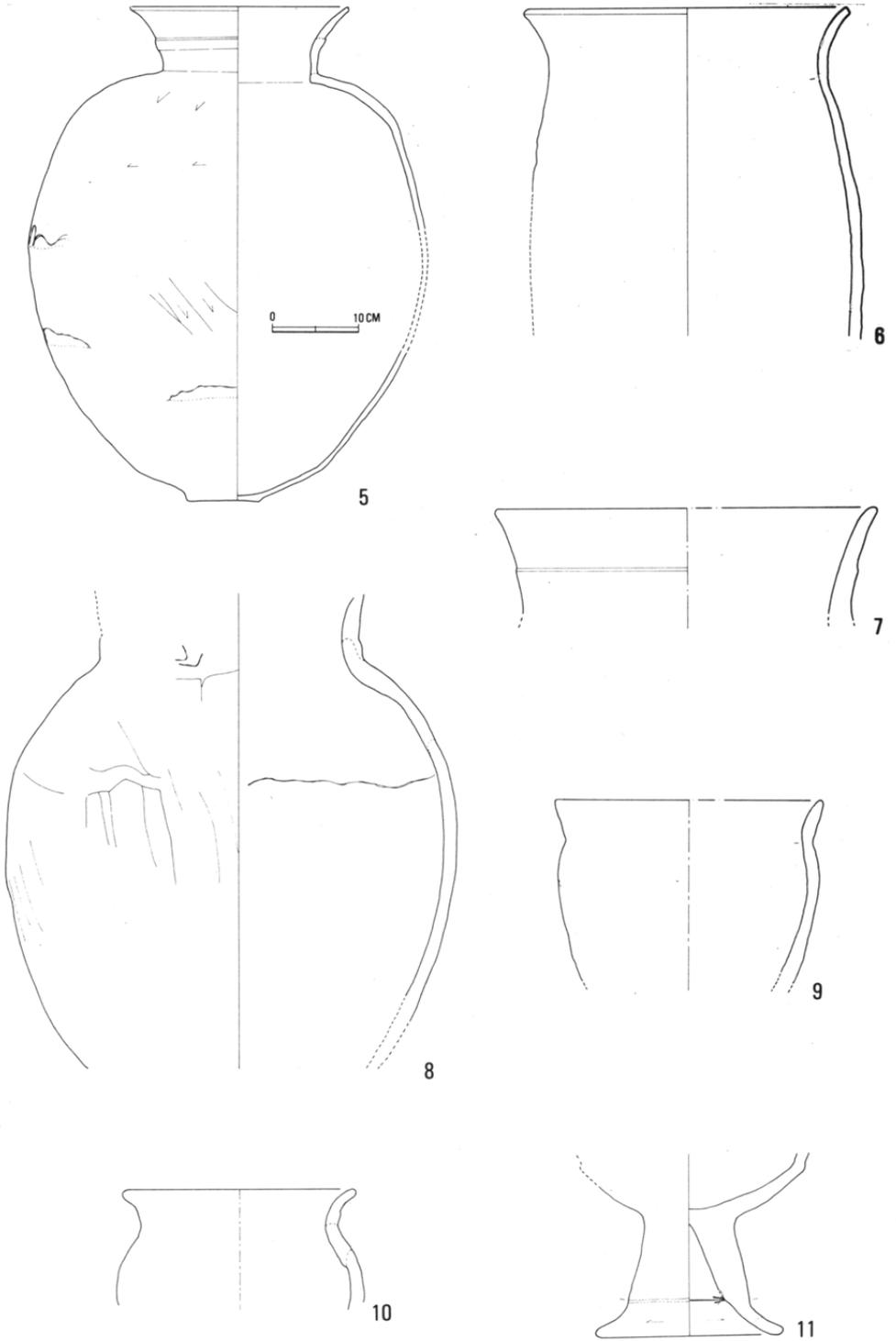
第32図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(3)



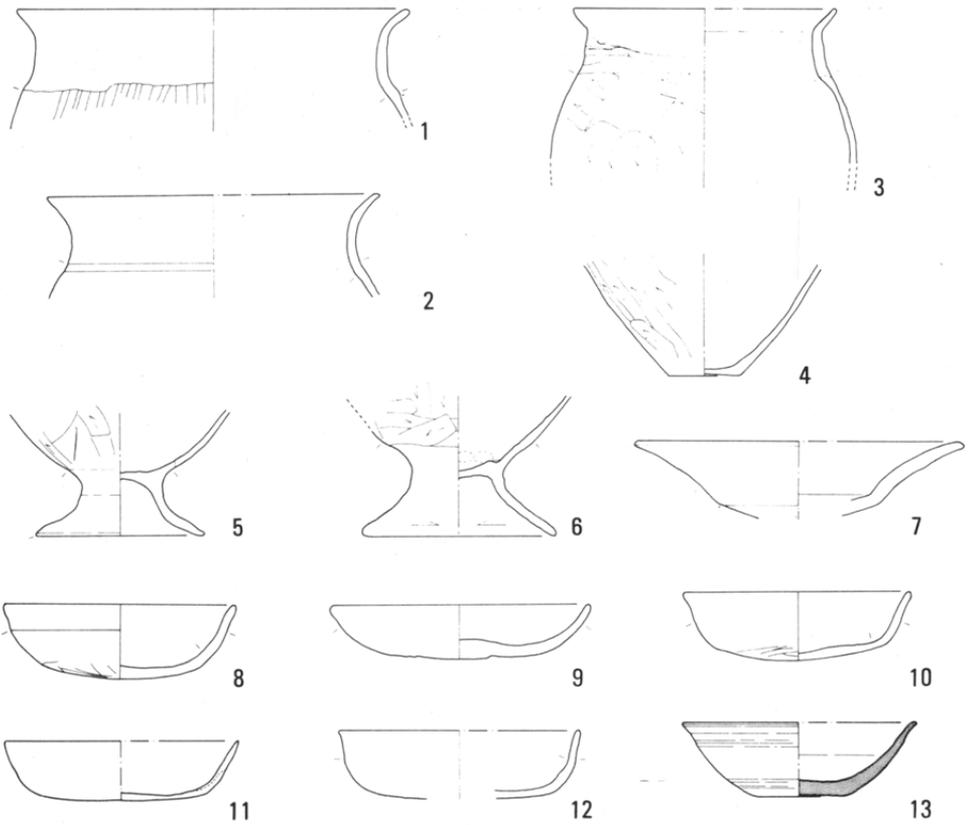
第33図 社具路遺跡94号住居址出土遺物(4)



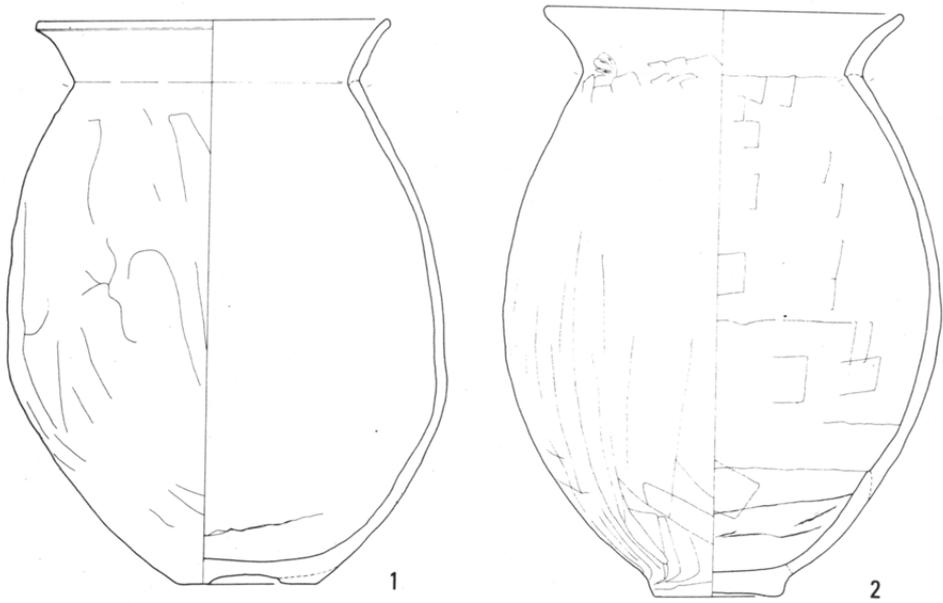
第34図 社具路遺跡95号住居址出土遺物(1)



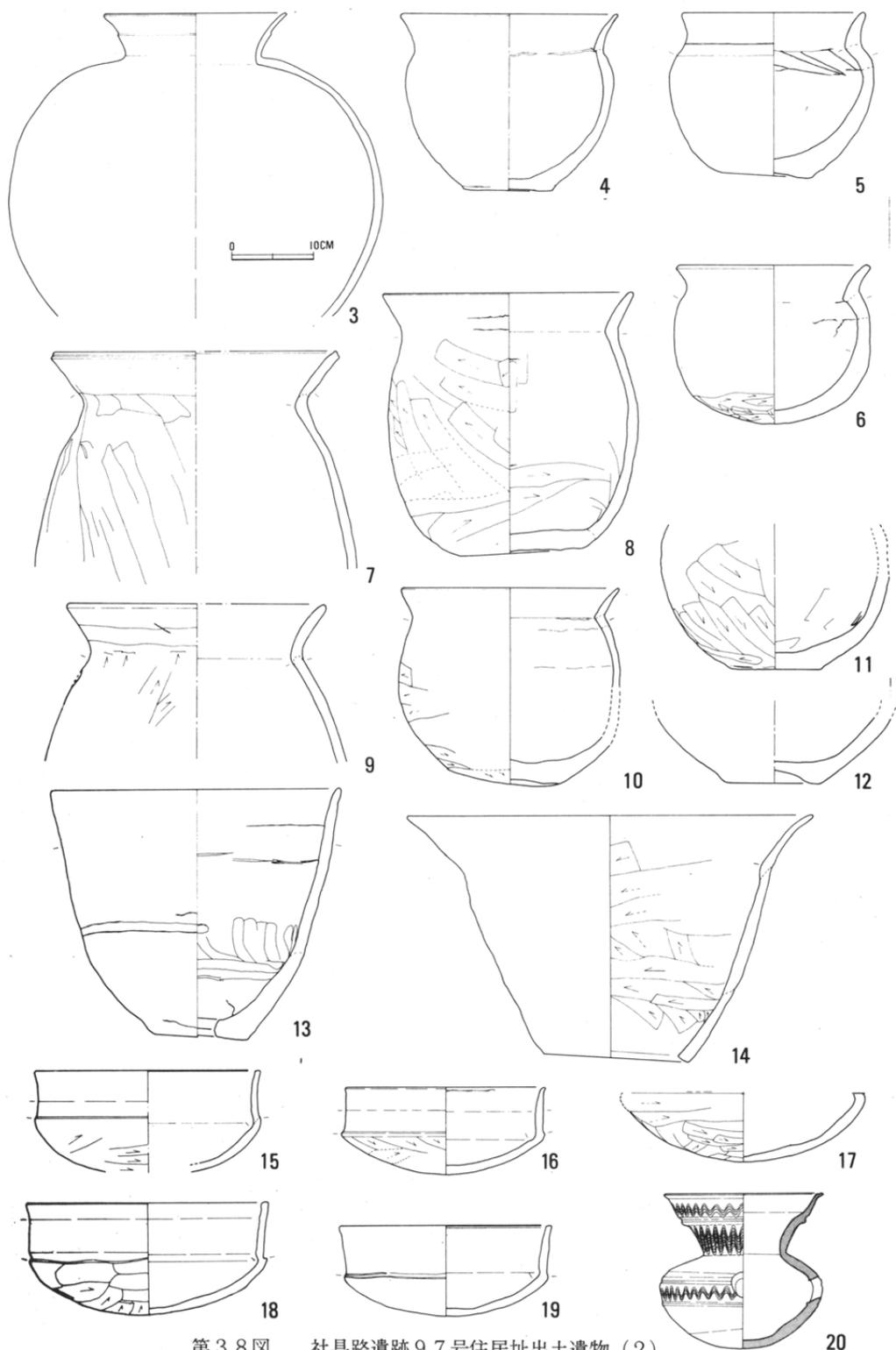
第35図 社具路遺跡95号住居址出土遺物(2)



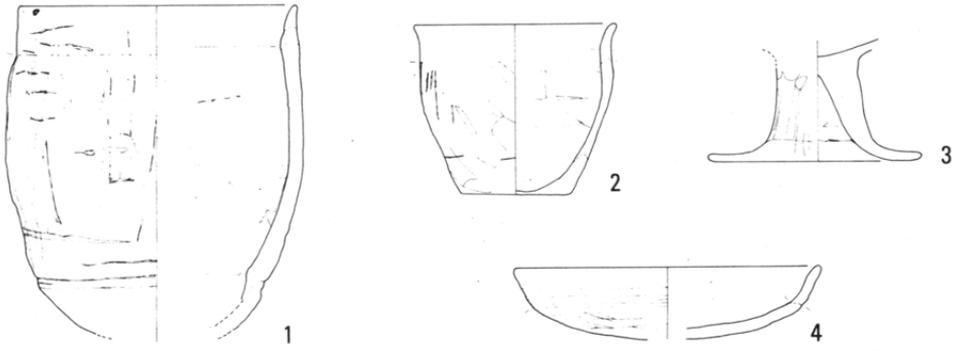
第36图 社具路遺跡96号住居址出土遺物



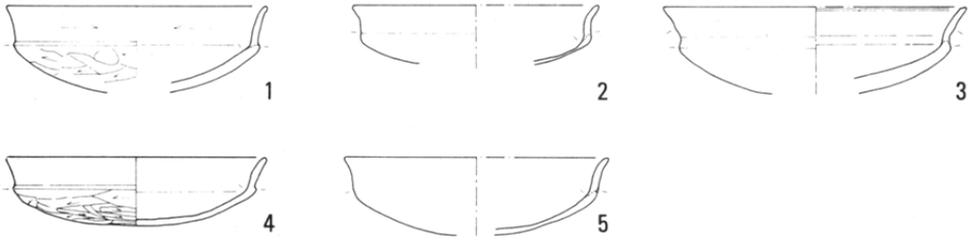
第37图 社具路遺跡97号住居址出土遺物(1)



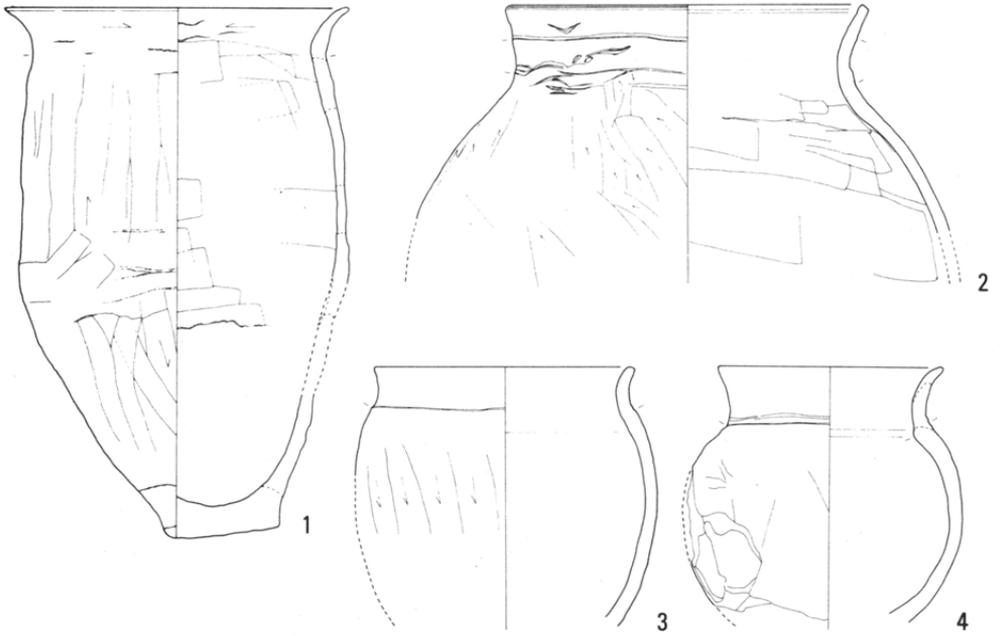
第38图 社具路遺跡97号住居址出土遺物(2)



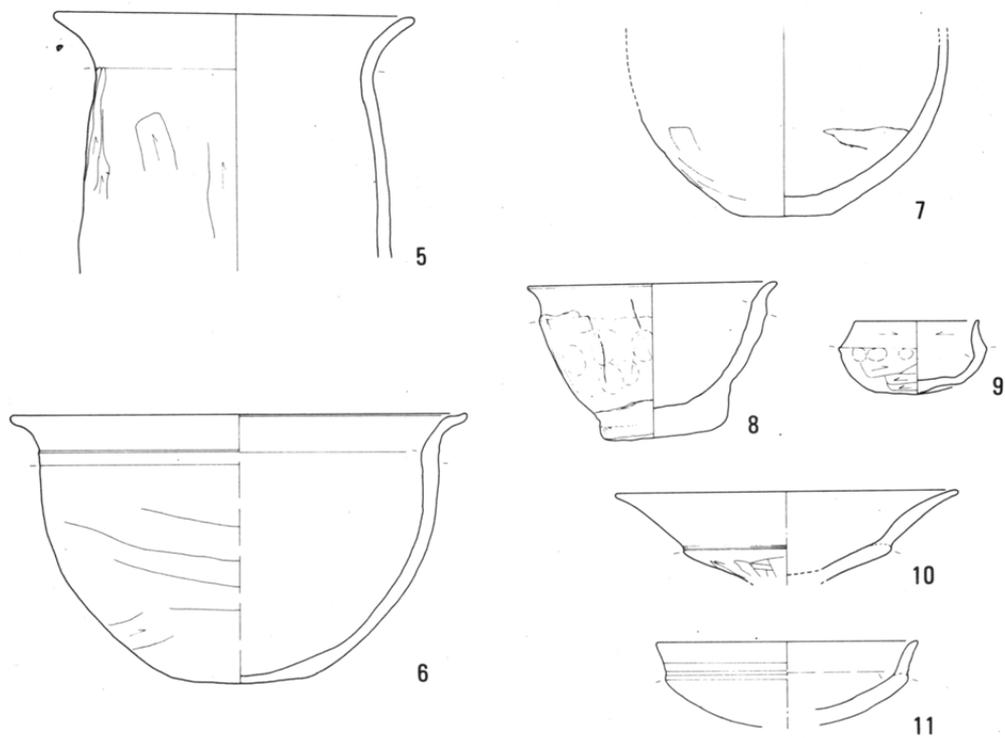
第39図 社具路遺跡98号住居址出土遺物



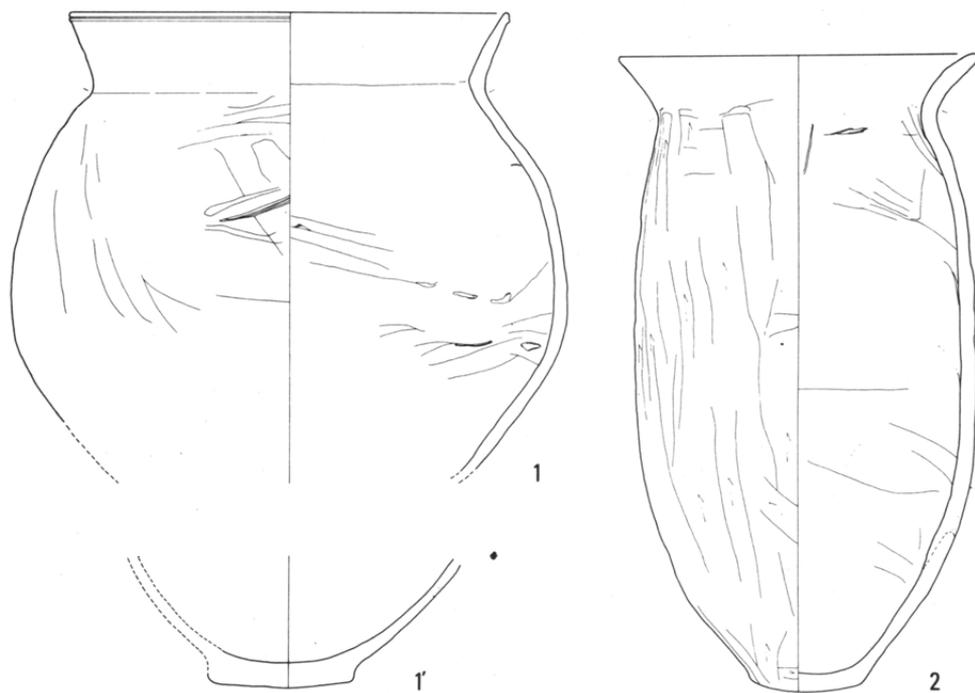
第40図 社具路遺跡99号住居址出土遺物



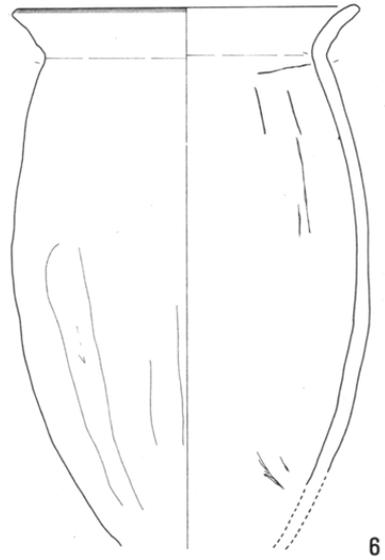
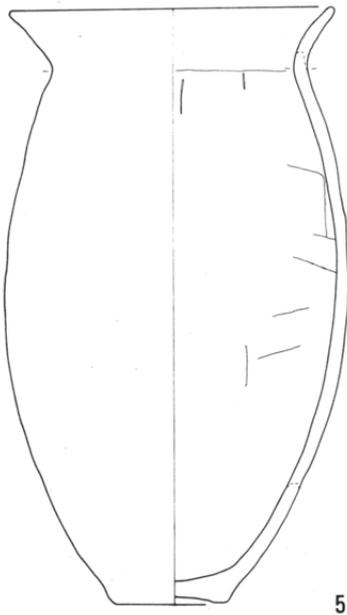
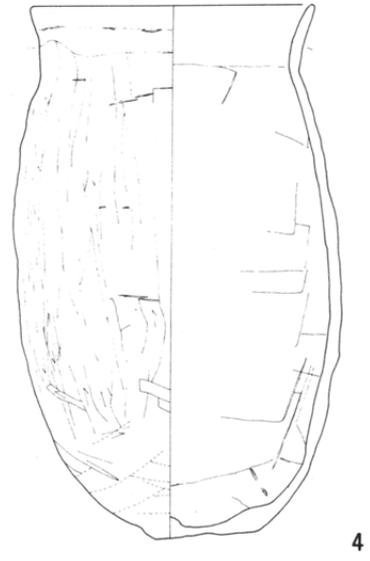
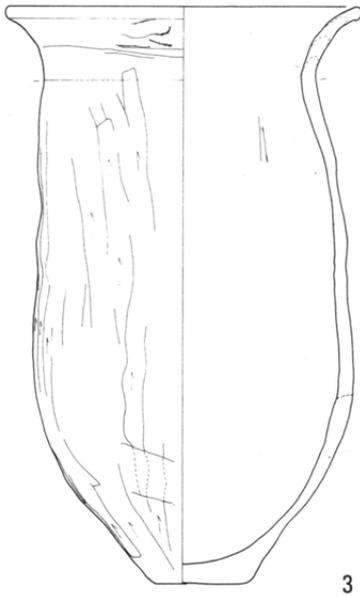
第41図 社具路遺跡100号住居址出土遺物(1)



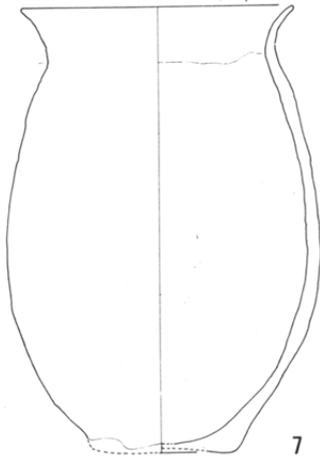
第42図 社具路遺跡100号住居址出土遺物(2)



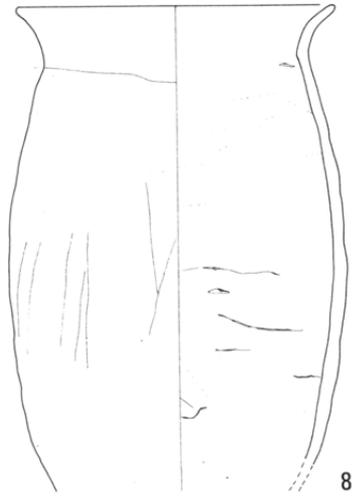
第43図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(1)



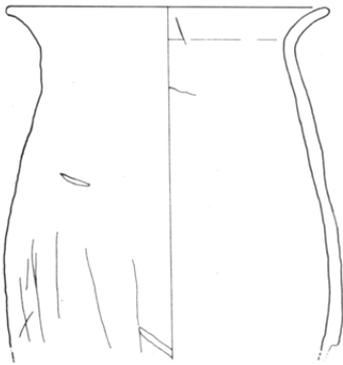
第44図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(2)



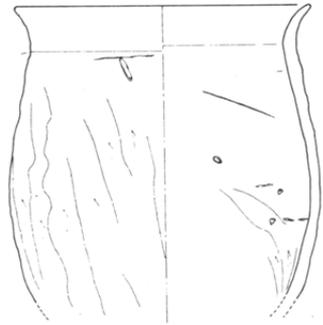
7



8



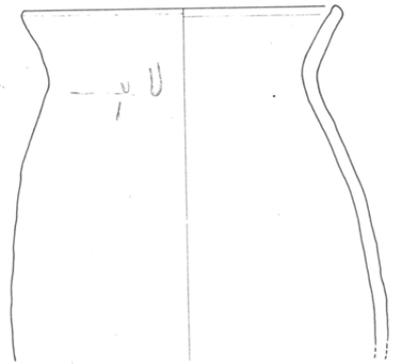
9



10

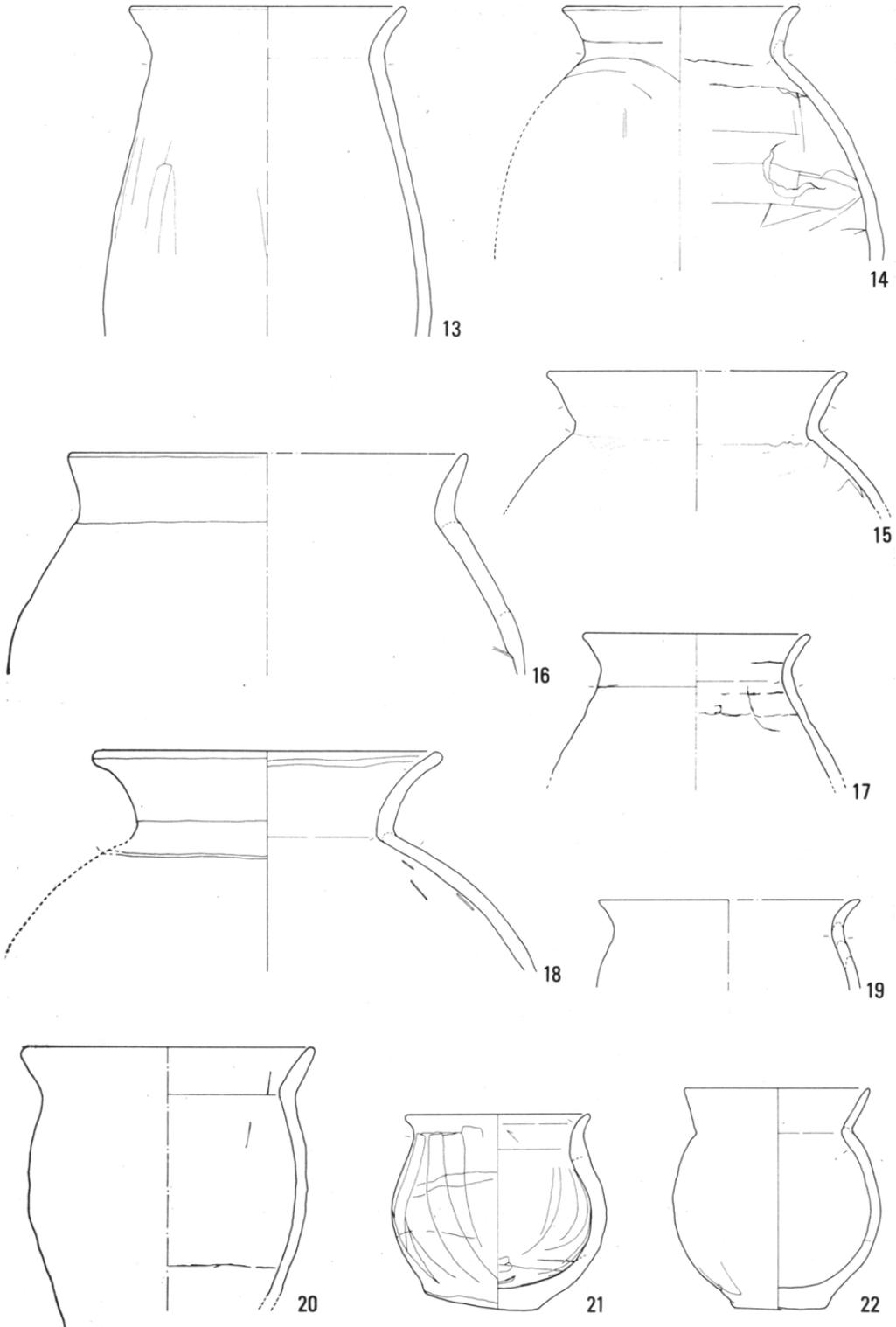


11

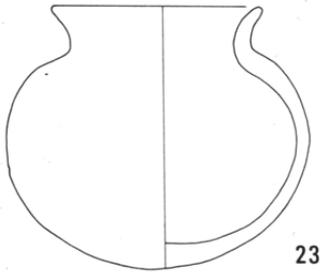


12

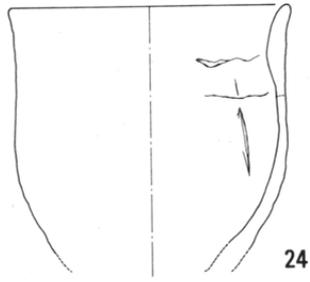
第45図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(3)



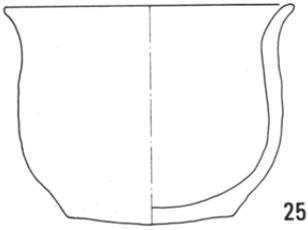
第46図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(4)



23



24



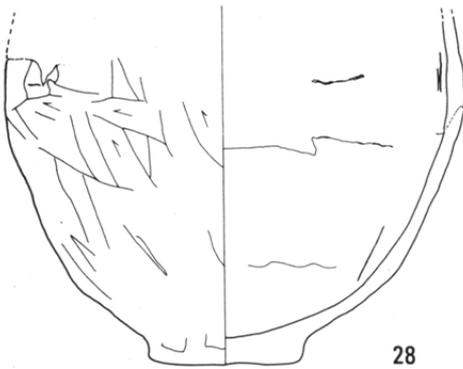
25



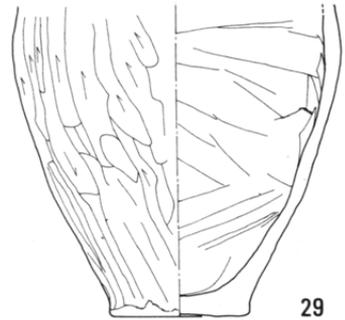
26



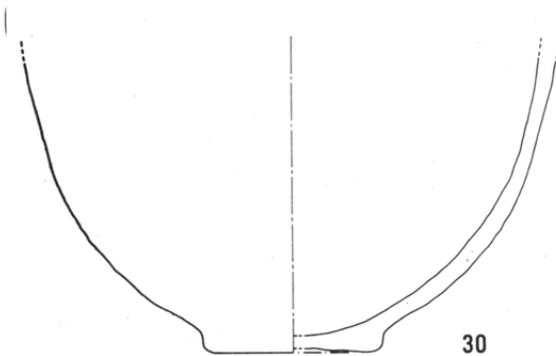
27



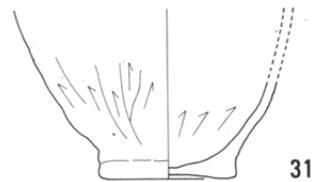
28



29

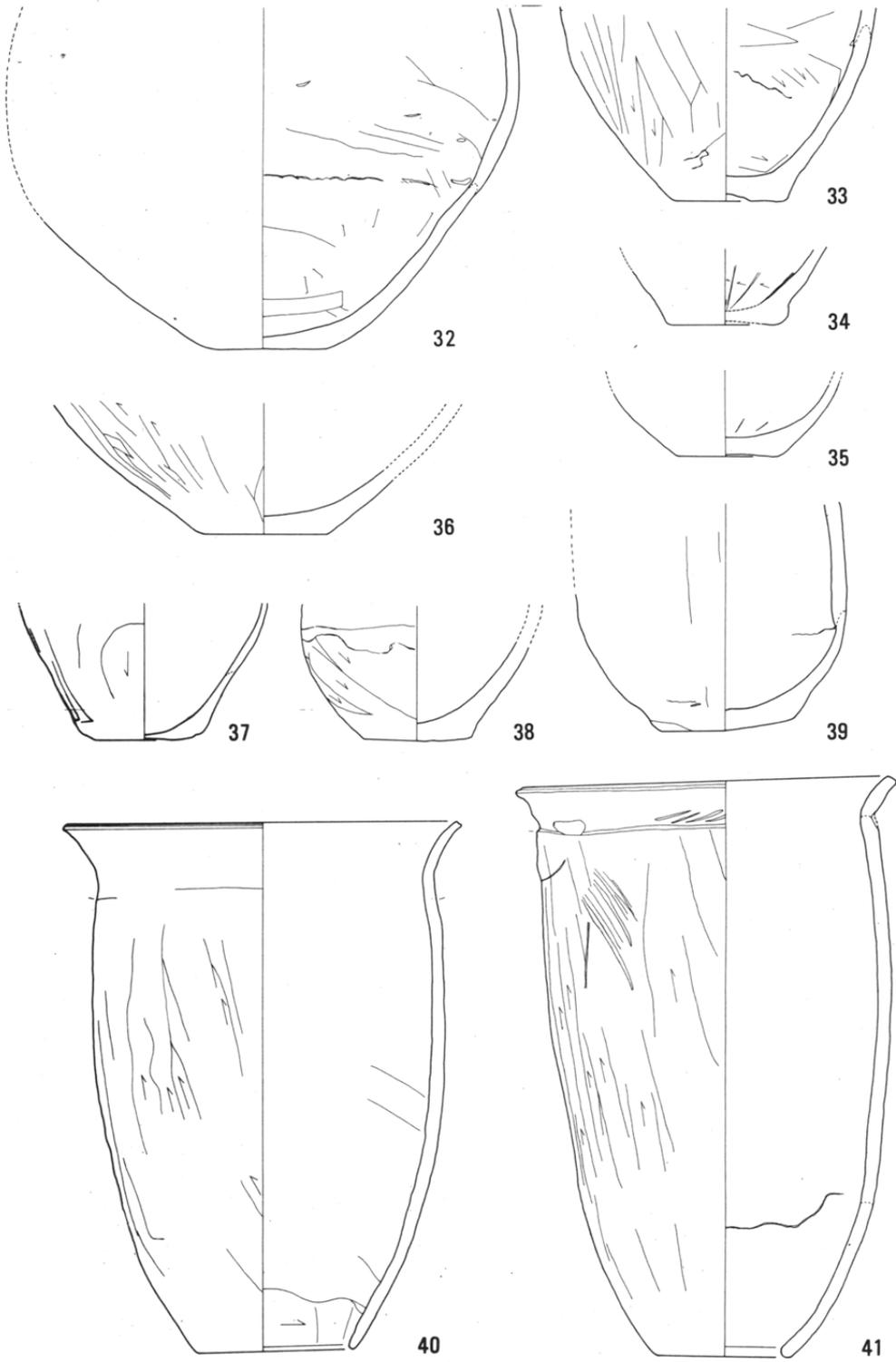


30

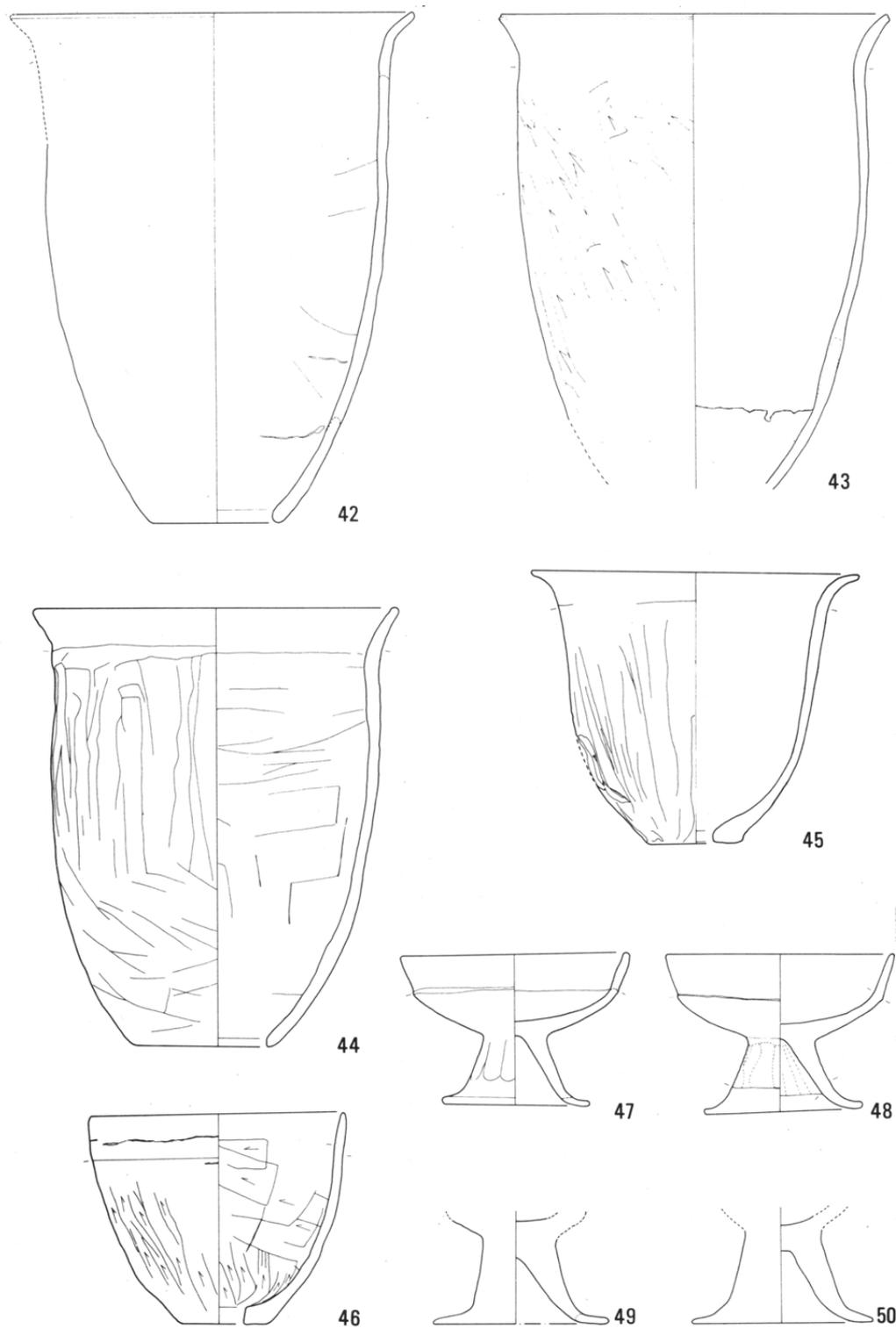


31

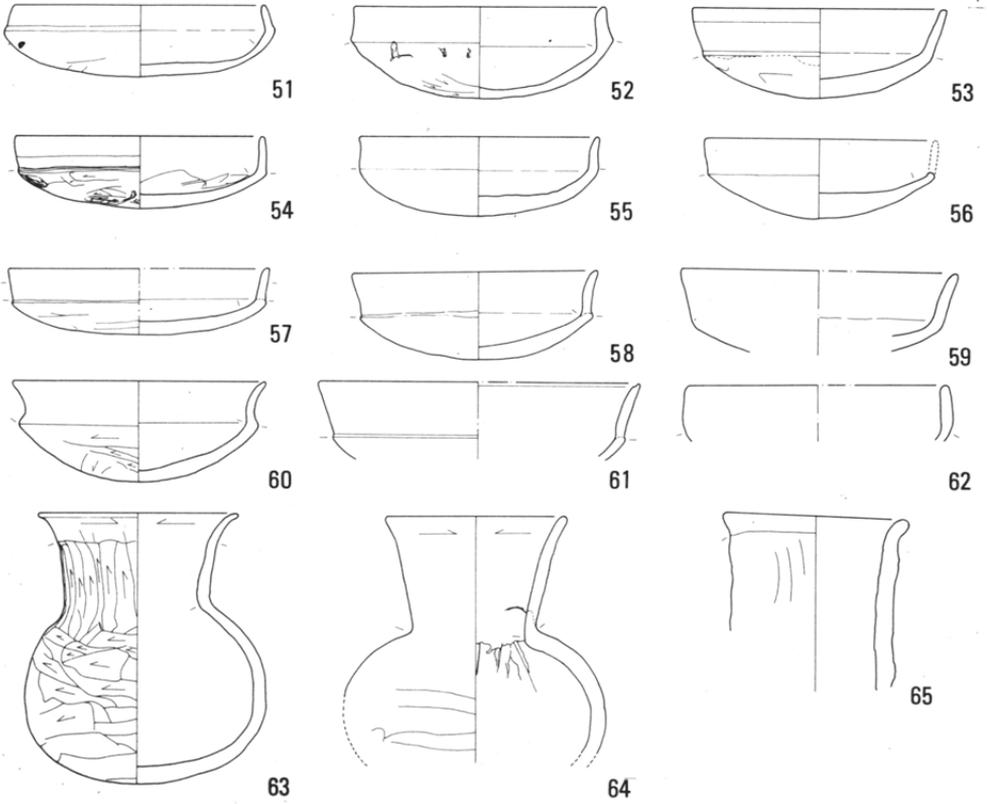
第47図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(5)



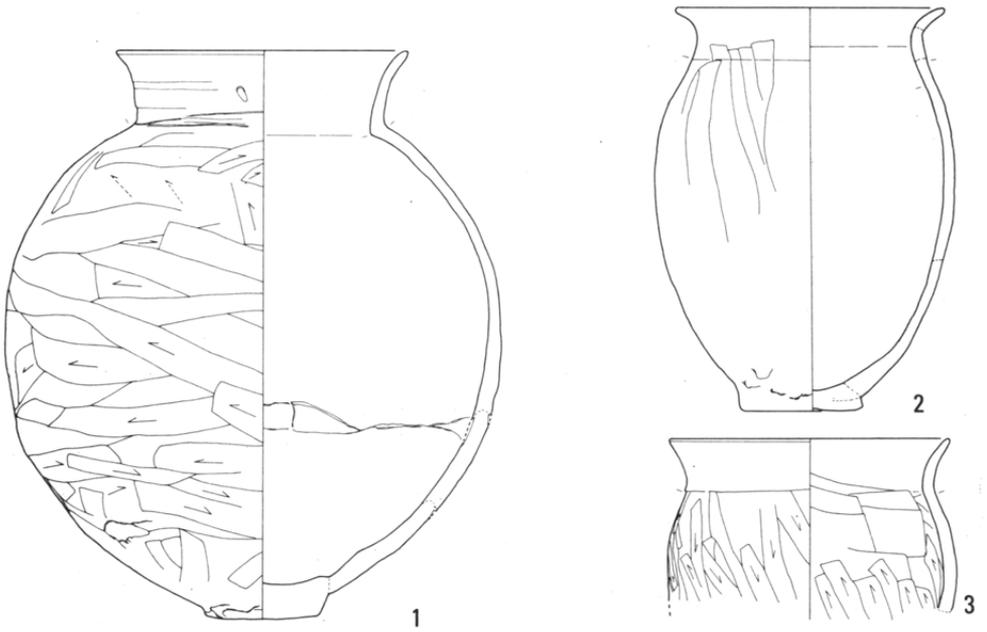
第48図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(6)



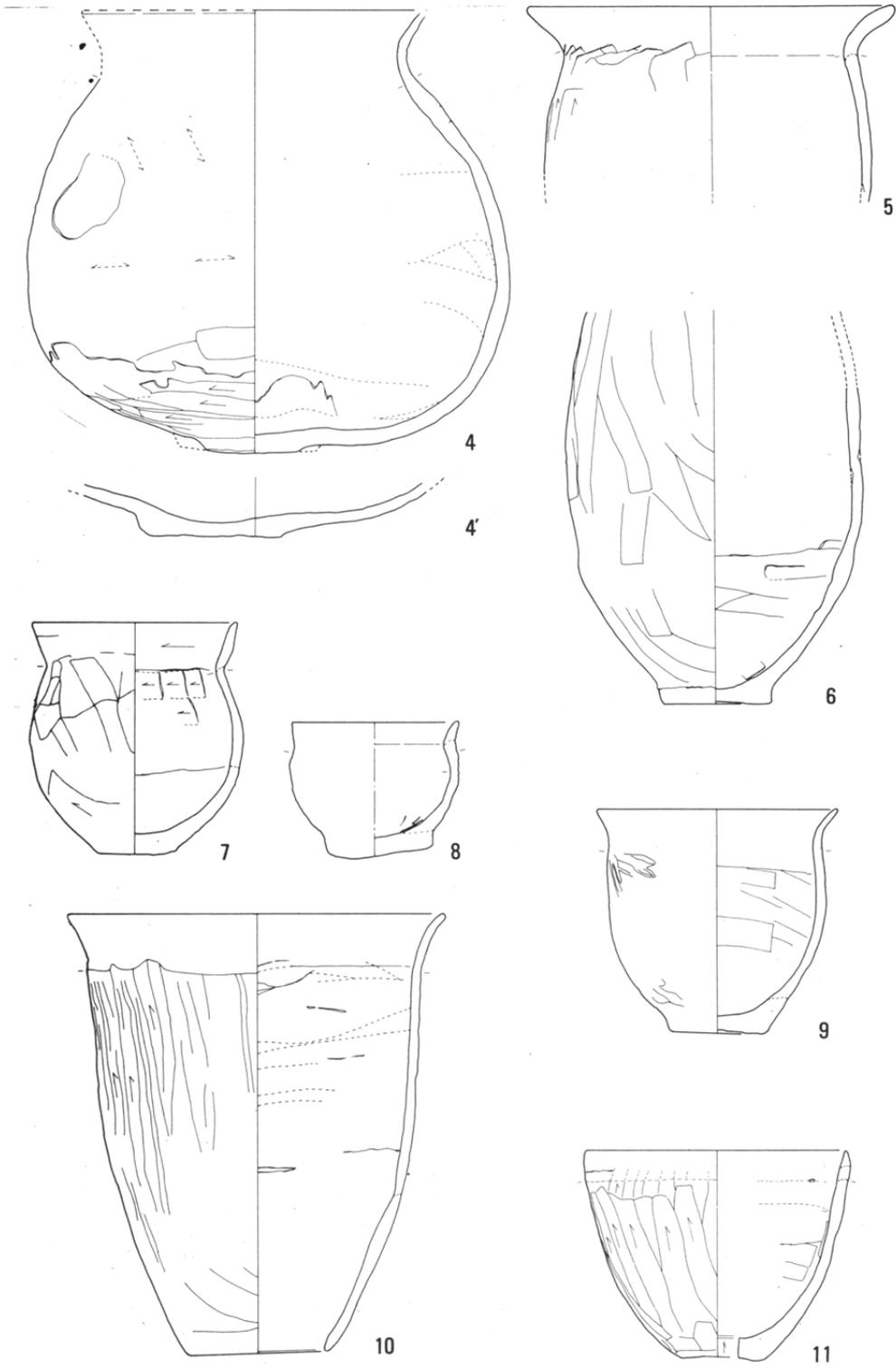
第49図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(7)



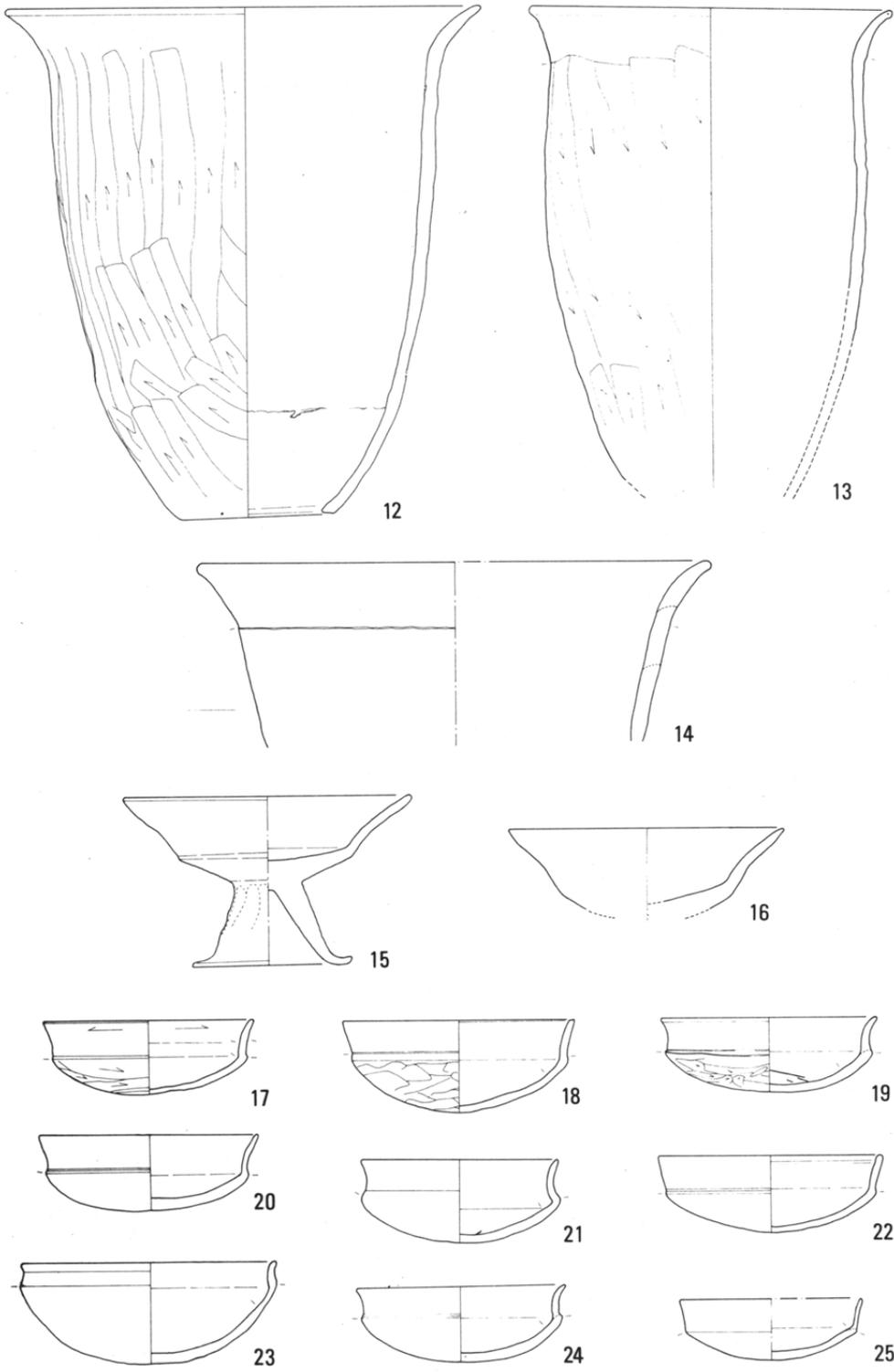
第50図 社具路遺跡101号住居址出土遺物(8)



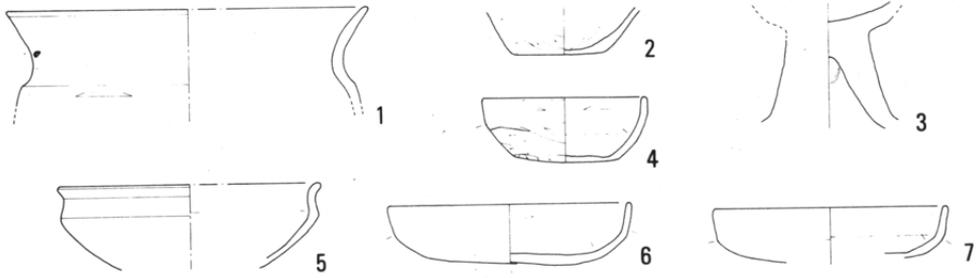
第51図 社具路遺跡102号住居址出土遺物(1)



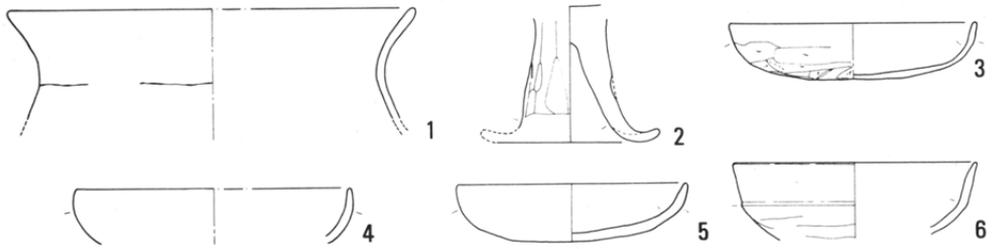
第52図 社具路遺跡102号住居址出土遺物(2)



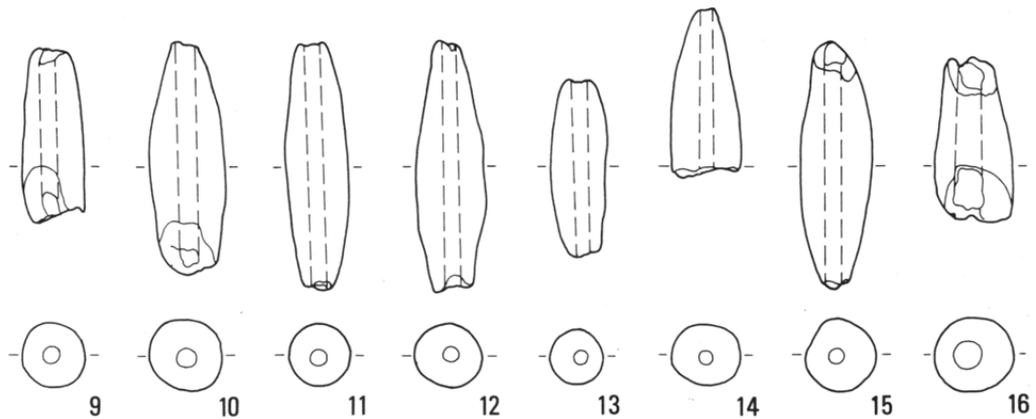
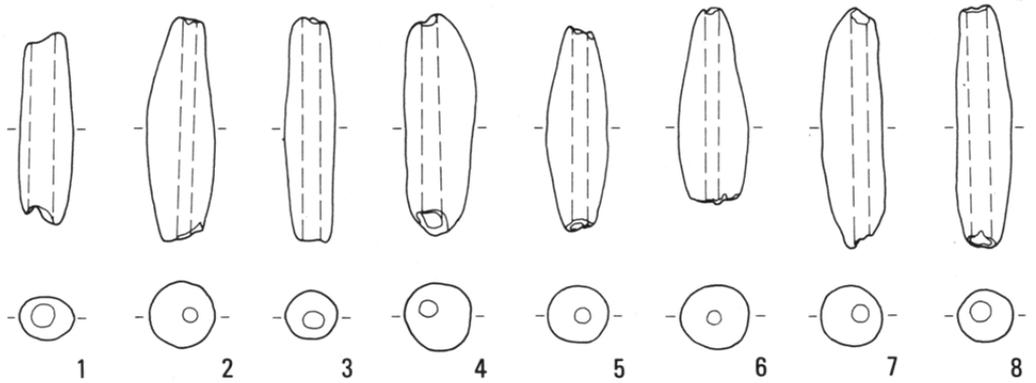
第53図 社具路遺跡102号住居址出土遺物(3)



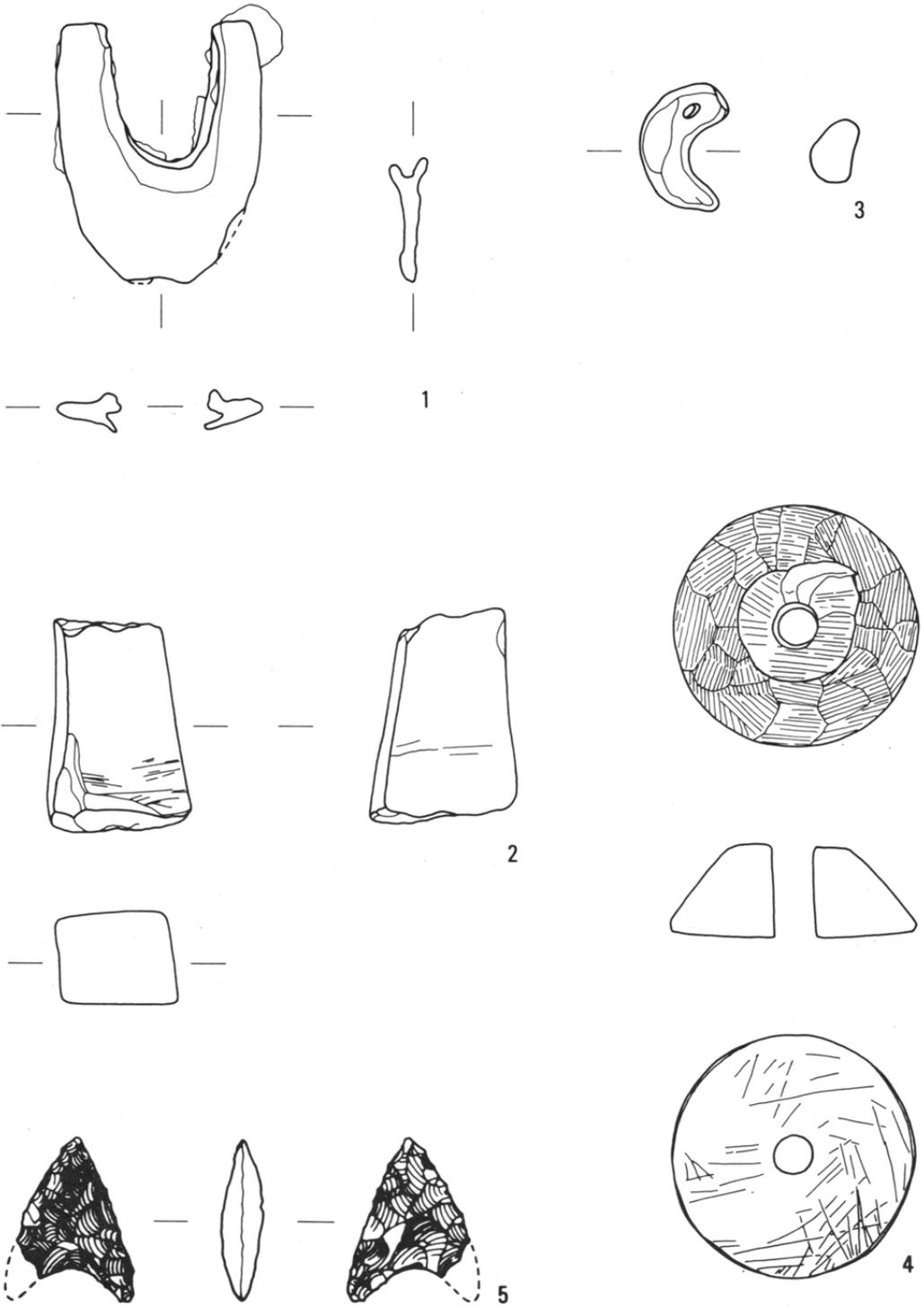
第54図 社具路遺跡103号住居址出土遺物



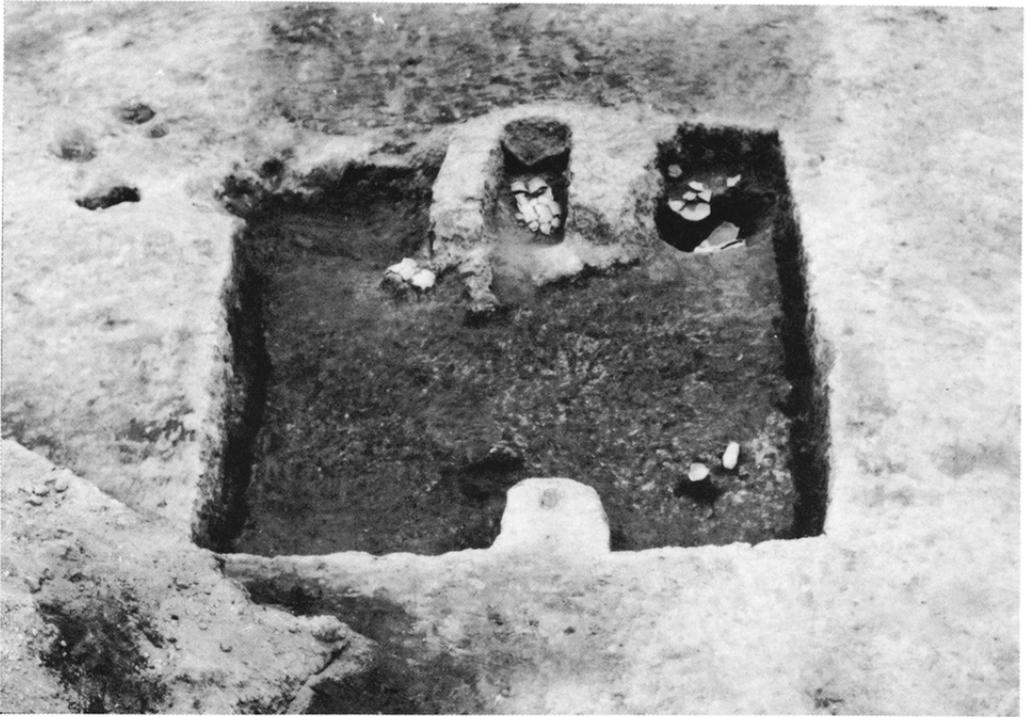
第55図 社具路遺跡104号住居址出土遺物



第56図 社具路遺跡出土土錘 (縮尺 $\frac{1}{2}$ )



第57图 社具路遺跡出土鍬・砥石・勾玉・紡錘車・石鏃 (縮尺1・2 1/2 3~5 実物大)



1 社具路遺跡 90号住居址 (西から)



2 社具路遺跡 90号住居址カマド



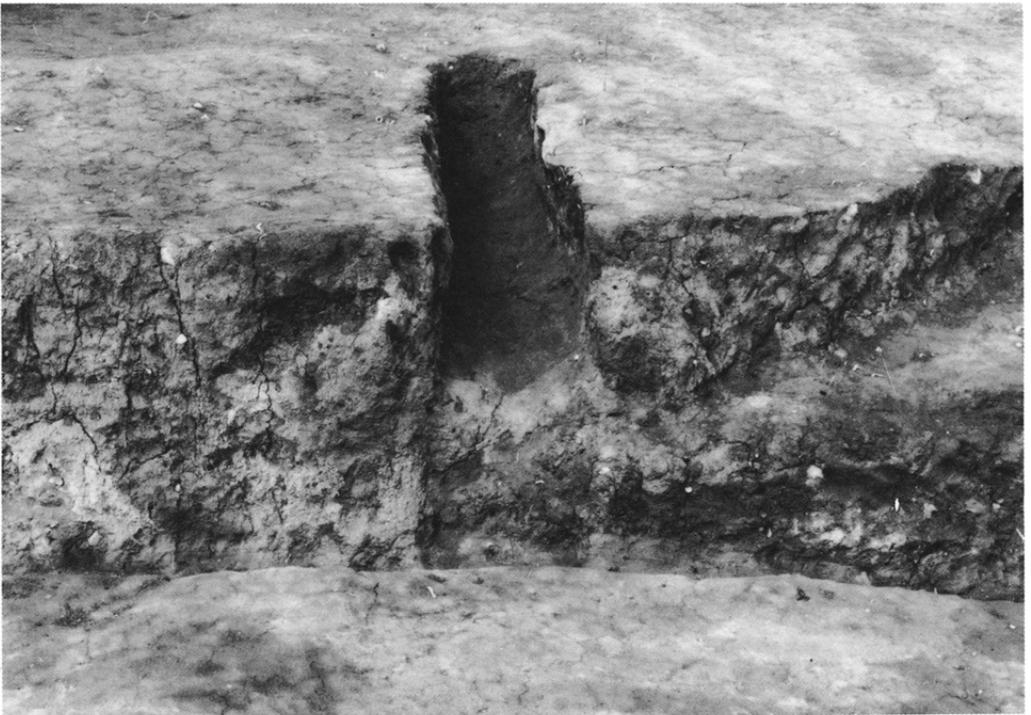
1 社具路遺跡91号・92号住居址（西から）



2 社具路遺跡91号・92号住居址



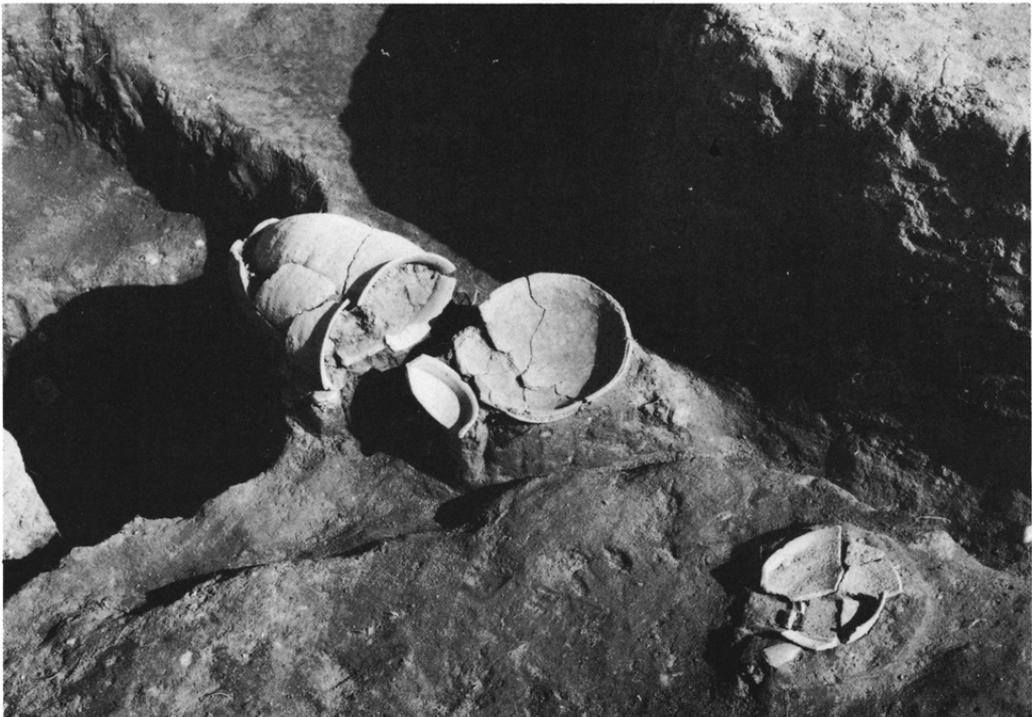
1 社具路遺跡91号住居址カマド(1)



2 社具路遺跡91号住居址カマド(2)



1 社具路遺跡91号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡91号住居址遺物出土状況



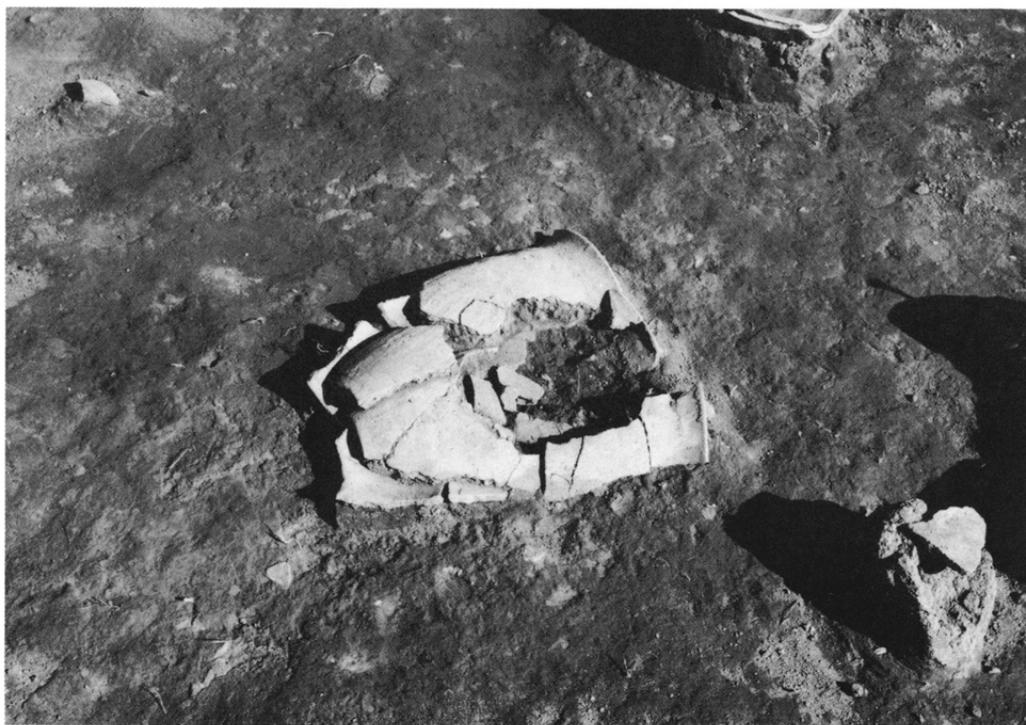
1 社具路遺跡 93号・94号住居址（西から）



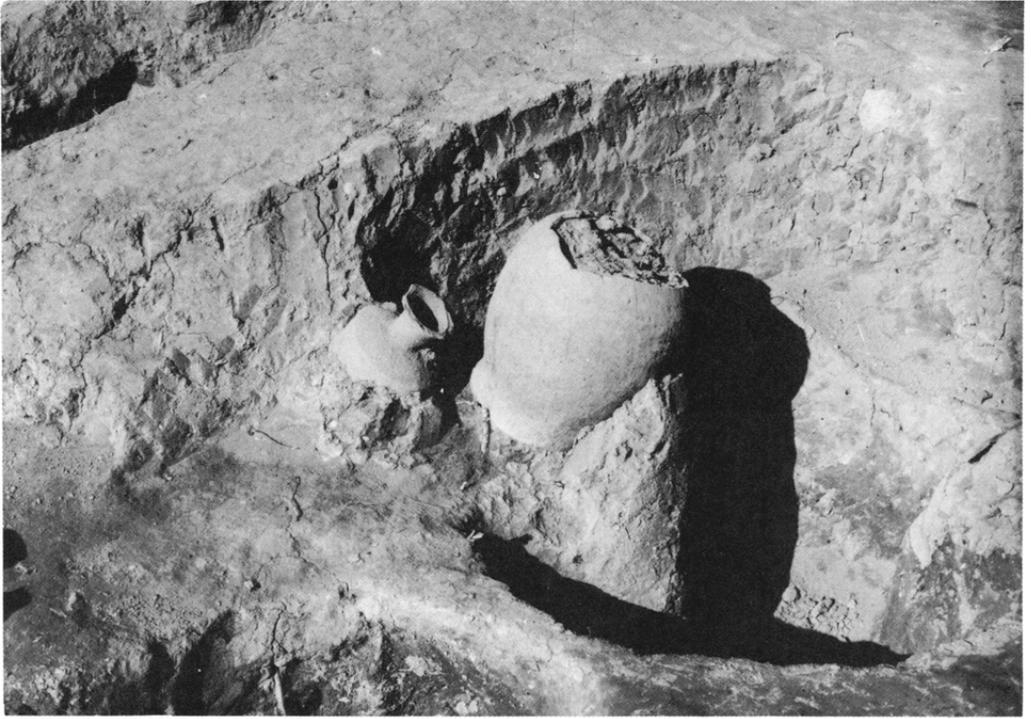
2 社具路遺跡 93号住居址遺物出土状況（鋤）



1 社具路遺跡94号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡94号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡94号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡94号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡95号(左)・97号住居址(西から)



2 社具路遺跡95号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡 95号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡 97号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡97号住居址遺物出土状況



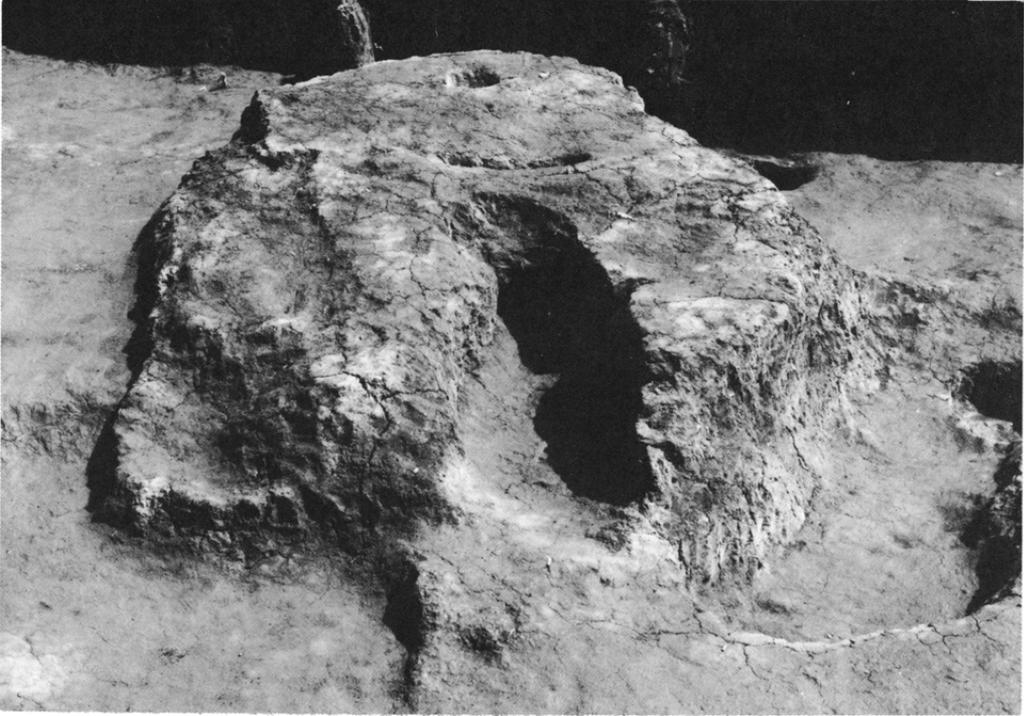
2 社具路遺跡97号住居址カマド



1 社具路遺跡97号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡96号・98号住居址（西から）



1 社具路遺跡96号住居址カマド



2 社具路遺跡96号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡99号・105号(奥)住居址(東から)



2 社具路遺跡99号住居址遺物出土状況



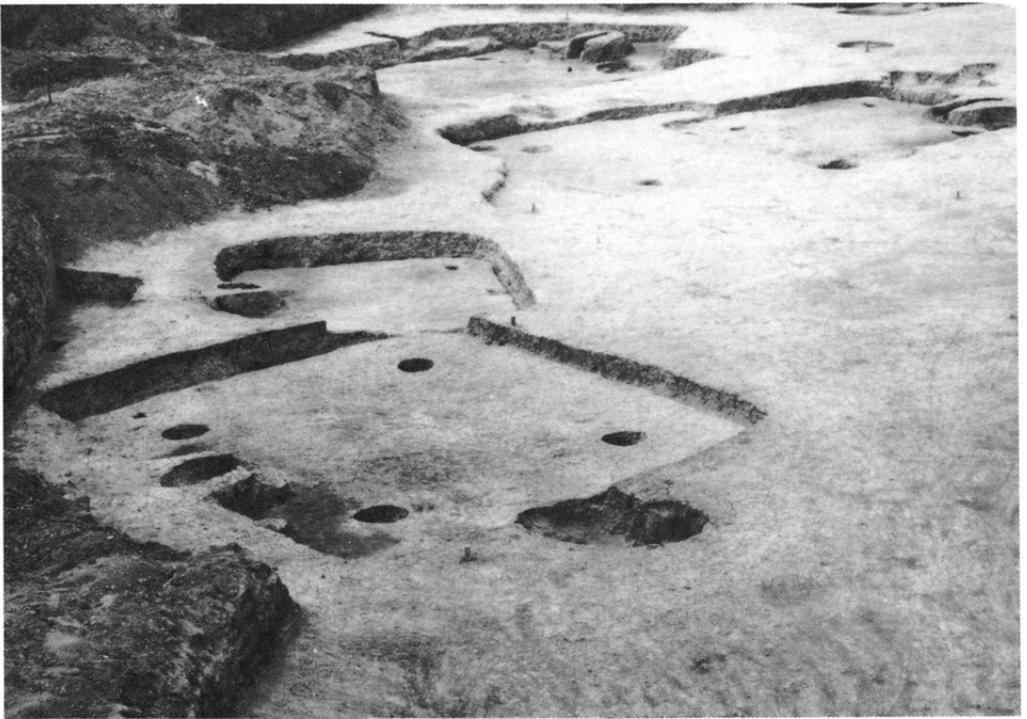
1 社具路遺跡100号住居址（東から）



2 社具路遺跡100号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡100号住居址遺物出土状況



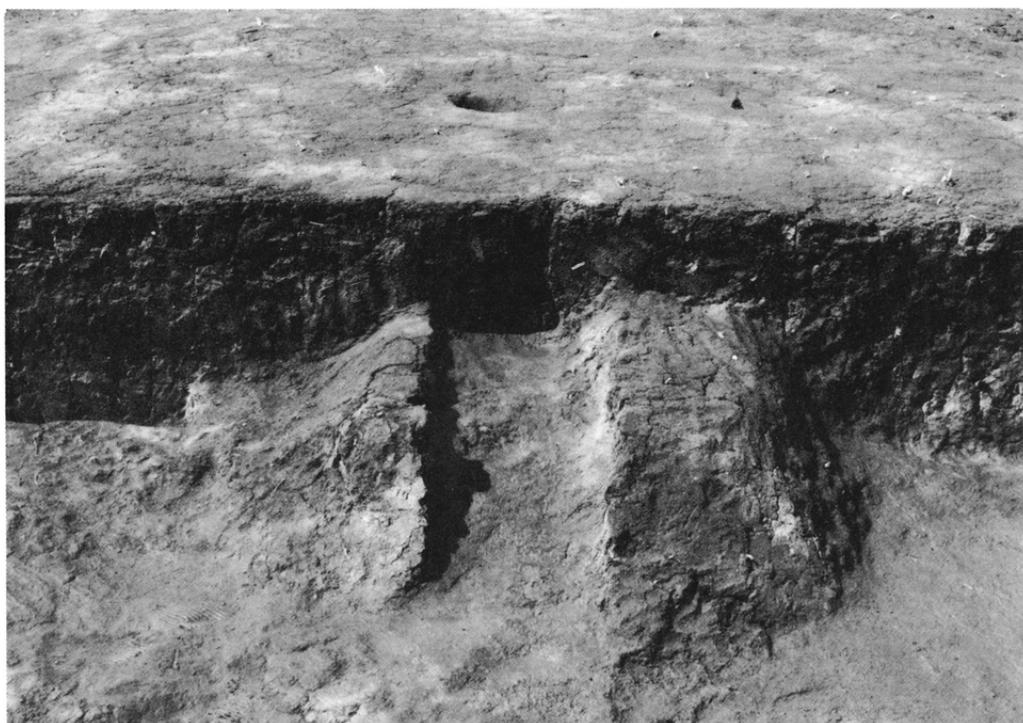
2 社具路遺跡100号(手前)・99号住居址(南から)



1 社具路遺跡 101号住居址 (南から)



2 社具路遺跡 101号住居址 (南から)



1 社具路遺跡101号住居址カマド



2 社具路遺跡101号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡 101号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡 101号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡 101号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡 102号(左)・103号住居址 (西から)



1 社具路遺跡102号(左)・103号住居址(西から)



2 社具路遺跡102号住居址カマド



1 社具路遺跡 102号住居址遺物出土状況



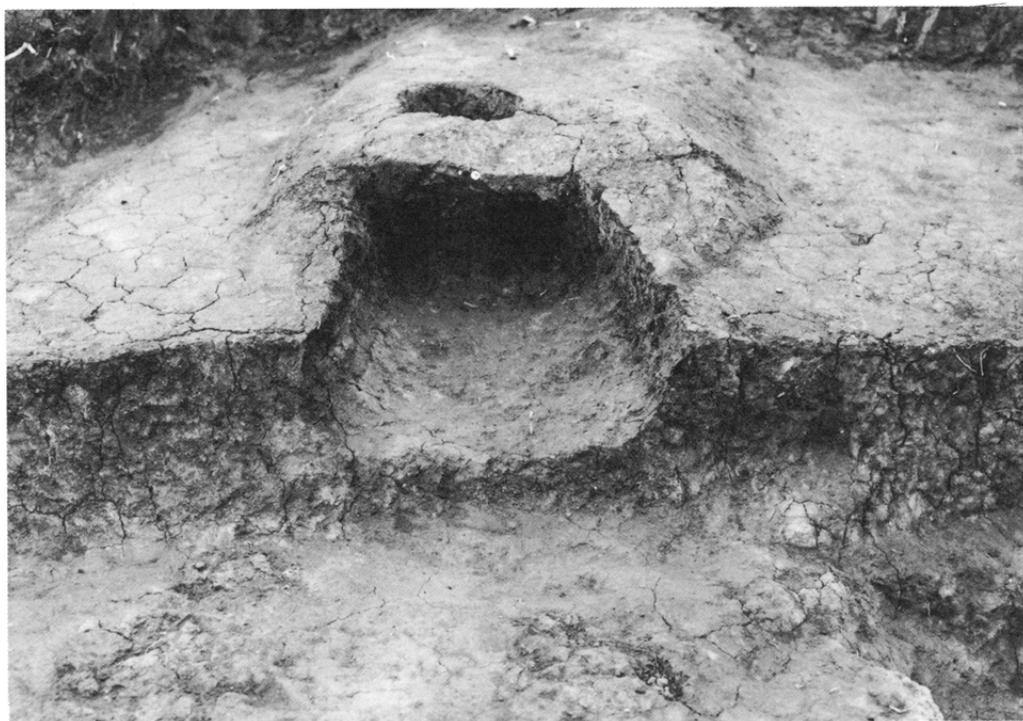
2 社具路遺跡 102号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡102号住居址遺物出土状況



2 社具路遺跡102号住居址遺物出土状況



1 社具路遺跡103号住居址カマド



2 社具路遺跡104号(右)住居址(西から)



1 社具路遺跡住居址（南から）

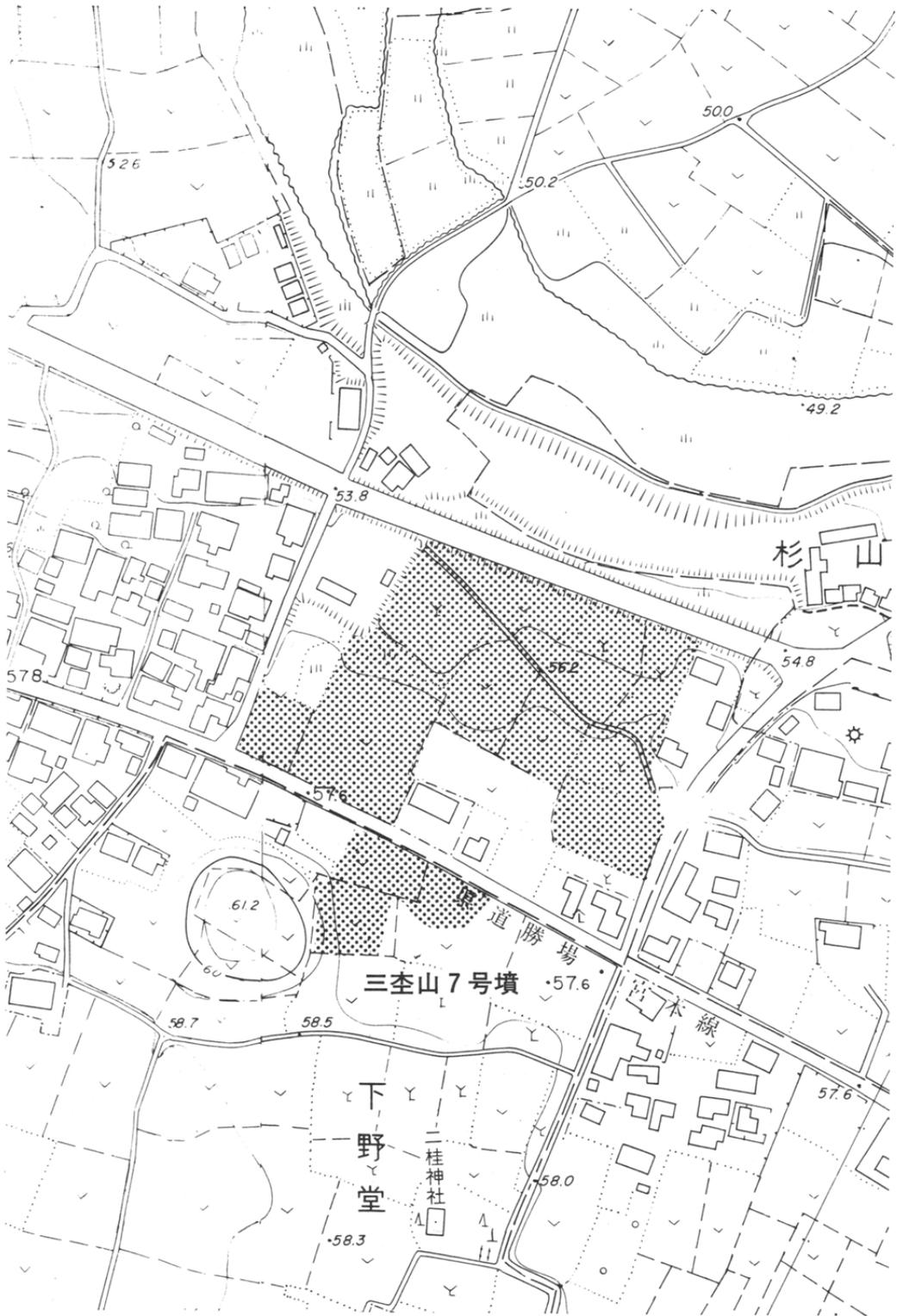


2 社具路遺跡調査風景（北から）

三杳山 1 号墳～6 号墳

発掘調査報告書





第1図 三空山1号～6号墳位置図

## 例 言

1. 本報告書は、(株)いせやの依頼を受けて、本庄市教育委員会が調査主体となって実施した発掘調査の報告書である。発掘調査及び整理に係る費用は(株)いせやが負担し、報告書刊行の費用は本庄市教育委員会が負担した。
2. 発掘調査は、昭和54年9月25日から11月10日にかけて、長谷川勇が担当した。但し現地作業は担当者の指示に従い反町光弘がこれに当った。
3. 出土品の整理は担当者がこれにあたり、本庄市埋蔵文化財センターの諸氏の協力があった。
4. 本書の執筆分担は、遺構については石橋桂一、埴輪については佐藤好司、その他は担当者である。
5. 本報告書に使用した遺構の実測図は、平面図300分の1、周堀断面実測図60分の1、遺物の実測図は4分の1に統一している。例外の場合のみスケールを付している。
6. 本報告書は埴輪研究の現状に顧みて、遺構と埴輪についてのみ触れている。中世～近世の墓壇や土壇、溝については割愛し、後日に譲った。

## 特殊遺物

### 1. 土鍵 (第56図)

住居址からの発見が14点、表土から2点の計16点が検出されている。いずれも紡錘形の土製品で造りは雑である。91号住居址からは12点検出され、特異なあり方を示している。

番号	現存長	太さ	備考	番号	現存長	太さ	備考
1	5.1	1.4	91号住居址 完	9	4.7	1.7	91号住居址
2	6.0	1.8	"	10	6.2	2.0	"
3	6.0	1.3	" 完	11	6.6	1.7	" 指紋付着完
4	5.9	1.9	"	12	6.7	1.9	" "
5	5.5	1.6	" 指紋付着	13	4.8	1.5	94号住居址カマド完
6	5.2	1.8	"	14	4.5	1.9	"
7	6.4	1.7	" 完	15	6.6	1.9	表土
8	6.4	1.5	"	16	4.4	2.1	表土

### 2. 鉄製 鋏 (第57図1)

93号住居址の床面から検出された鉄製の鋏で全長7.7cm、最大幅は上部にあり6cmである。全体がU字状となる丸刃で基部の内側断面はY字状となり、本質を支えたものであろう。内厚は3mm前後であったと考えられる。錆ぶくれが著しい。

### 3. 土製 勾玉 (第57図3)

全長1.9cm、91号住居址の床面直上より検出された土製の勾玉で、胎土は精製されているが造りは雑である。全体が黒色、尾の一部が褐色を呈している。

### 4. 砥石 (第57図2)

半分ほど残存する砥石で、101号住居址から検出され、現存長6.3cm、4面とも磨かれ、内2面は凹レンズ状にすり減っている。2面に条痕状の傷が残り下端は自然面が残っている。細かな褐鉄粒を含む凝灰岩質である。

### 5. 紡錘車 (第57図4)

直径3.6cm、厚さ1.4cmのずんぐりした形の紡錘車で、91号住居址から検出されている。上面は粗い擦痕が面として残り、陵を削り出して断面台形となる。上端は一方向の擦痕、その他は斜方向の擦痕である。孔は上面が若干大きく、下面が小さい。下面にも粗い擦痕が残り、金属によると思われる傷が認められる。茶褐色の片岩質の石材を使用し、片理方向に沿って金雲母質の物質が含まれている。

### 6. 石 鋏 (第57図5)

調査中耕作土の残土から表採したもので、半透明の黒曜石製の石鋏である。尾の先端を欠いているが全長2.4cm、厚さ6mmと肉厚な石鋏である。一部に剝離痕がみられるが丁寧な造りである。

## 小 結

今回調査の行われた住居址群は、昭和55～56年の「県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う発掘調査」において検出された「社具路遺跡」のすぐ東側に隣接し、「社具路遺跡」で調査された住居址群と同一の集落である。前回及び今回調査された住居址群は、時期的に大差はなく、古墳時代鬼高期から奈良時代真間期にかけての集落で、主体は鬼高期である。今回は、幅2.5mで南北にトレンチを入れるような形で調査が行われ、集落を部分的に検出したにすぎなかったが、今回の調査で、集落がさらに東へ拡がることが確認され、社具路遺跡は大規模な集落を形成し、比較的長い期間にわたって存続していたことが明らかになったと考えられる。

今回の調査では住居址が16軒検出されたが、この住居址群のみで遺跡及び遺物の考察を行なうよりは、前回調査された住居址群と同一の集落を形成することから、両者をあわせて遺跡を面的に検討したほうが、より有益かつ総合的な結果が得られると考えられる。ここでは、発掘調査と整理の段階における知見を述べるにとどめ、遺構及び遺物の詳細な考察は「社具路遺跡Ⅰ」に予定している。

今回調査が行なわれたのは店舗の建設される範囲のみで、面積約930㎡である。住居址は全て基盤層のロームを掘り込んで構築されているが、ロームの質は、調査範囲の北側と南側とでは非常に異なっている。北側部分は粘質があまりなく、黄褐色を呈しているが、南側部分は非常に粘質が強く、乾燥するとかなり硬くなり、色調は褐色ないし黒褐色を呈している。南側のロームは水成堆積によるものと考えられる。また、住居址内の覆土も、北側と南側とでは質が異なっている。90～94号住居址の覆土は粘質はないが、95号～10号住居址の覆土は強い粘質をもっている。このような状況は、西側の道路部分の調査でも確認されており、所謂野水の流れる方向と密接な関係があるものと考えられる。

住居址は103号住居址を除いて、全体の形態の判明している住居址はほぼ正方形に近い形を呈しており、柱穴は対角線上に4ヵ所つくられるのが標準のようである。103号住居址は、形態が他の住居址と異なるのみでなく、竈の構築法も異なっている。この住居址の竈は袖をもたず、壁を掘り込んで作っている。また、この住居址からは図示しうる遺物の出土は皆無であったが、覆土中より多量の焼土粒と土器片が検出されている。覆土の堆積状況から、徐々に住居址が埋められていったとは考えられず、一度に覆土が流入し埋められたようである。土器片の観察より、この住居址群出土の土器の中では最も時代が下る土器のようである。このことは、先述した野水と何等かの関係があるものと思われる。

住居址の時期的な変遷では、重複しているものではその新旧関係は明らかであるが、遺物から判明したものもある。94号住居址と95号住居址からそれぞれ出土した甕の破片が接合したことから、両住居址は同時期に構築、廃棄された可能性が大きい。

検出された竈は10基であるが、竈の位置は北壁、東壁、西壁とまちまちである。これは時期的な差異と集落内での住居址の位置関係の両方によるものと考えられる。前回調査の住居址ともあわせて検討すべき点である。

## I. 調査の契機と経過

昭和54年8月、本庄市大字小島字三杵山17番地ほか14筆、11801㎡に店舗と駐車場の建設が計画され、埋蔵文化財の事前協議が本庄市教育委員会になされた。

この開発行為は(株)いせやが土地所有者から土地の賃借を受け、整地のうえ建物を建築する計画であったが、当該地域は本庄7号遺跡として、奈良・平安時代の集落址とされ、埼玉県遺跡地図、地名表に登載されていた。このことから事業者宛に、その旨を通知し現状保存が望ましいことを加えた。

しかし土地所有者、事業者と本庄市教育委員会との協議が重ねられた結果、土地所有者が、市街地から離れた地域での活性化を計りたい等の希望が強く、とりあえず試掘調査を実施し、その調査結果によって今後の協議を進めることになった。

試掘調査は事業者から提供された重機によって南北にトレンチを設定して9月25日に開始され、開始初日に古墳址の存在が確認されたのである。本庄市教育委員会では既に年度当初からの発掘調査予定が組まれ、新たな調査は実施し難いものがあつたが、地域住民の強い要望もあり、墳丘を失った古墳址の調査でもあり、最終的には6基であることなどから、本庄市教育委員会を調査主体とすること、調査の実施にあたって、作業員は事業者が直接雇用すること、消耗機材については市教育委員会で指示する物品を調達することなどが協議され、市教委側の事務軽減などが計られた。

試掘調査は、その後発掘調査に切り変えられて、9月25日から11月10日までの予定で文化庁長官宛通知がなされ、本格的な現地調査に入った。なお文化庁通知番号は54委保記第22-1901号、昭和54年12月12日付、発掘主体者 本庄市教育委員会、発掘担当者 長谷川勇である。

遺構の検出は10月1日から、位置の確認してある6基の古墳址部分のみ、重機によって耕土を除去することから始められ、同時に周堀の検出に着手した。

土層断面の実測、セクションベルト取り外しなど能率的な作業工程を組み、写真撮影、実測、遺物の取りあげなどの現地調査は11月7日までの実働37日を費して、全て終了した。

調査終了後は即日建設工事に着手、現在はその痕跡さえうかがうことはできない。

## II. 遺跡の概要

三杵山1号～6号墳は、旭小島古墳群の分布範囲のほぼ中央部、本庄台地崖線に接し、北を崖線と併行する17号国道、南を中山道にかこまれた南北約100m、東西約120mの範囲内にあり、北に傾斜した台地上で、調査区域内で約2mの比高差がみられる。1号墳、2号墳はローム層上に立地しているが、3～6号墳は強い粘質をもったロームと黒褐色土の堆積物に覆われている。

中山道を距てた南側には、高さ3.2m、墳丘東西6.4mの三杵山古墳(134号遺跡)、その西300mには箱式石棺をもつ八幡山古墳(131号遺跡)、400mには古墳時代の方形周溝墓が調査された下野堂遺跡が存在し、旭小島古墳群のなかでも比較的古い時期に属する古墳や遺跡がみられる地域でもある。

### Ⅲ．遺構について

#### 1．1号墳（第2図・第3図）

調査区の西端で6基のうち最も高い位置から検出され、北側4分の1は未掘部分である。確認面の標高は58.5～58.25mとほぼ一定で、東西の周堀内径1.9m、周堀外径2.4.8m、周堀幅は南側で狭く2m、北西部で2.8m、深さは確認面から1.3mとほぼ一定であるが、南側は一部30cmほど浅くなり、その部分は周堀幅も狭くなっている。

周堀北東断面（発掘区境界）の五層に青みがかった灰白色のこまかな粒子が、大きなもので指頭大のかたまりとして斑点状に検出されている。

主体部は礫と粘土によって構築され、主軸は東西にあり幾分南に片寄っている。全長2.58m、幅1.4mの規模で黒褐色土の上に粘土を舟底形に配し、その上を小豆大～大豆大の小さな礫や平らな礫で粘土を充填しつつ棺床をつくり、上部を亜円礫で覆ったものと考えられる。

棺床と考えられる5層上面の礫及び粘土上には朱の付着が著しかったが遺物の出土は認められなかった。

主体部上の礫は長さ20～30cmほどの亜円礫で、これらを外し粘土によって接着された礫を残すと南側では不明瞭であるが、北側では二列にめぐる礫列がみられ、上端で長さ2.1m、幅1mの粘土層となる。棺床は西側が幾分深いようである。

主体部西方に長さ5.5m、3.5m、1.2m、0.8mの土坑が四ヶ所に認められているが、そのうちの1.2mの土坑は幅50cmあり、膝を屈曲した近世人の骨が葬られていた。また、このあたりには、径20～50cmほどの土坑が20数余検出されているが、遺物を伴わず、時期不明であり図示していない。

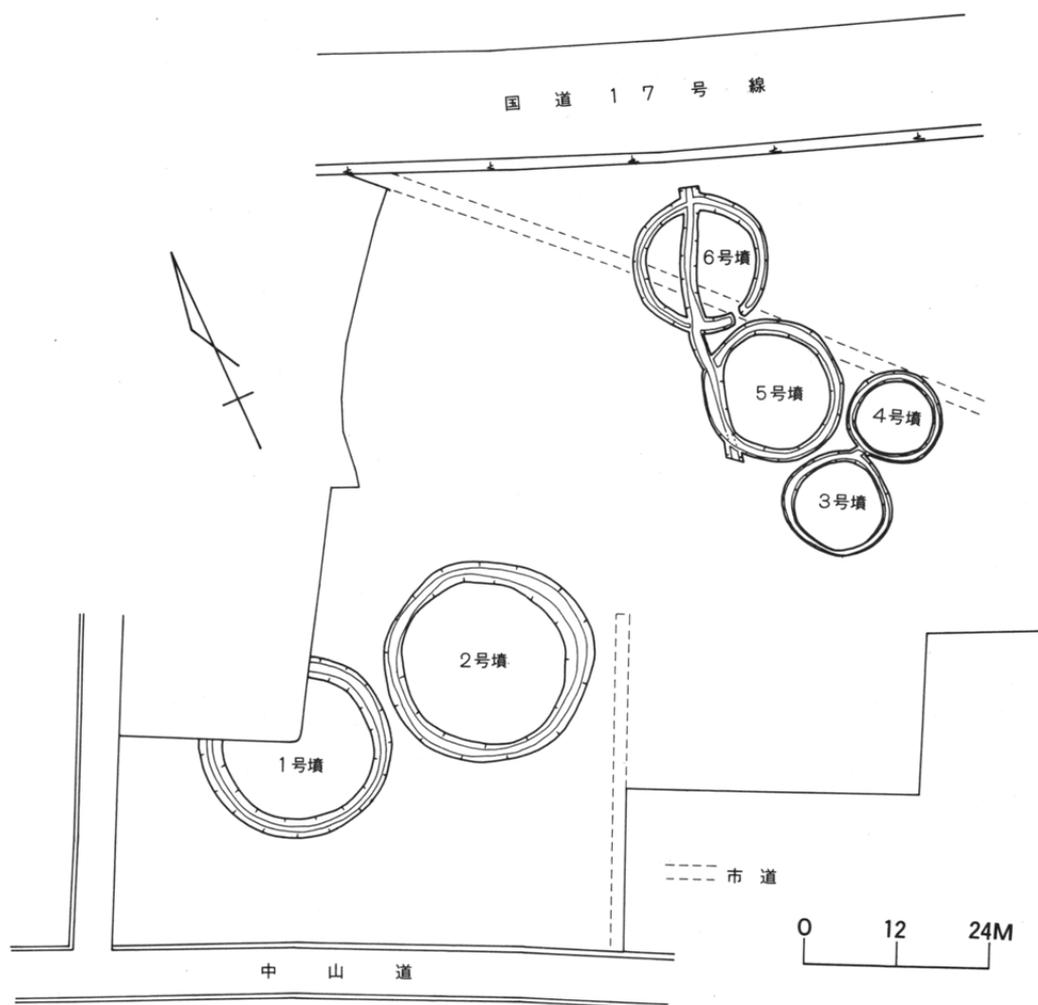
遺物は周堀内の東部分と西部分に出土しているが、東部分の遺物は周堀覆土の中位からであり、西部分の遺物は周堀に接した墳丘上であり、B種横ハケをもつ円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、小形土器がみられる。

#### 2．2号墳（第4図）

1号墳の東に周堀外周間1.4mに接した古墳址で、周堀内径は東西で2.1m、南北で2.2m、外径は東西2.7.5m、南北2.6.5mである。確認面での標高差は南側と北側では約40cmあり、南側が高く北側が低い。

周堀幅は北西で狭く1.8m、東で広く3.8mであるが、南側は2mで、このあたりの周堀の深さも確認面から約50cmと浅く、1号墳同様比較的浅く狭い。

主体部あるいはその痕跡は検出されなかったが、周堀内からB種横ハケをもつ円筒埴輪、埴が覆土中位から検出されている。



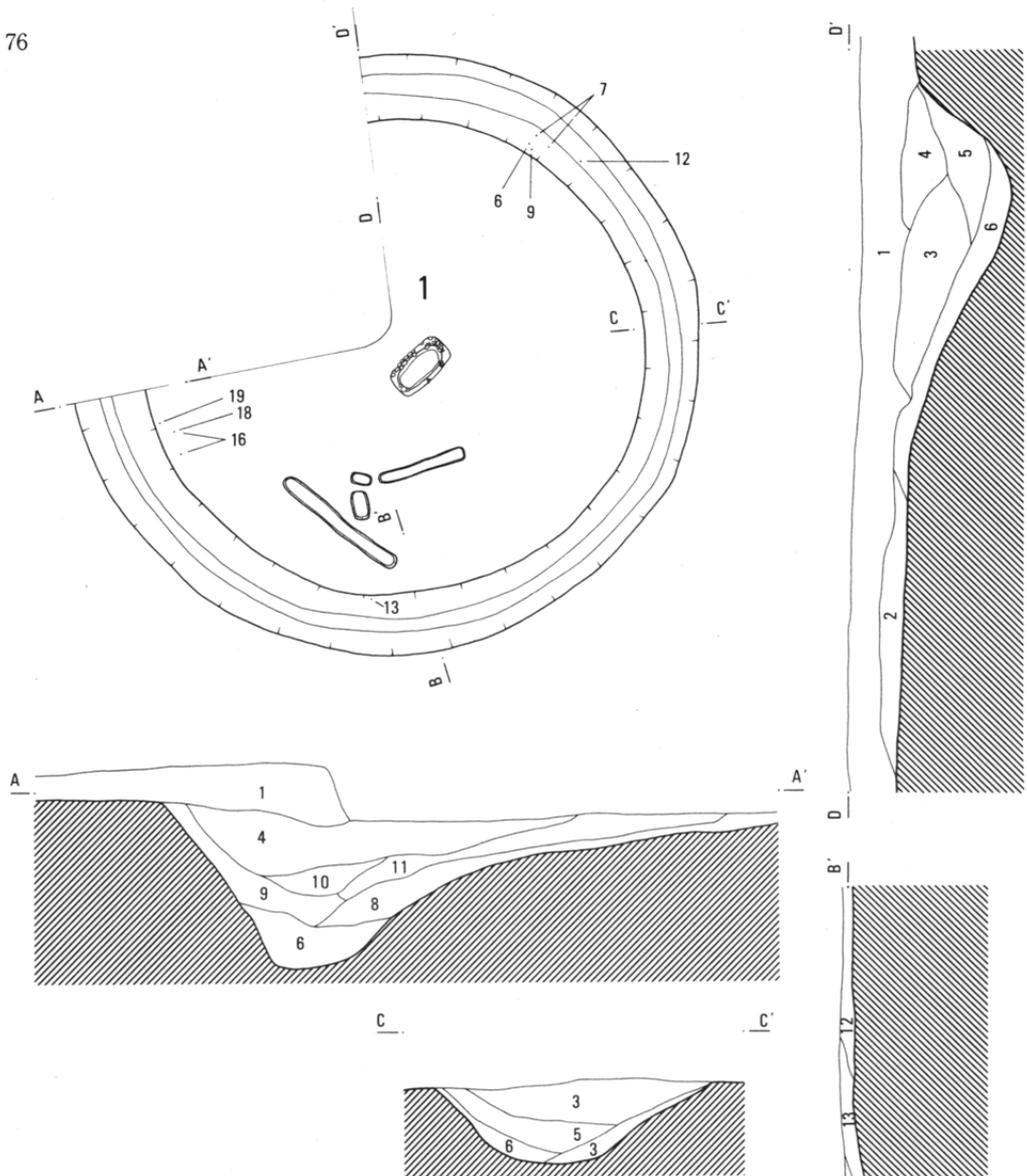
第2図 三奈山1号墳～6号墳全測図

### 3. 3号墳 (第4図)

6基のうちでは規模の小さい部類に属し、周堀内径は東西で11.5m、南北で11m、外径は東西で13.5m、南北で約14mのいびつな円形である。周堀幅も0.6m～1.6mと一定ではなく、周堀底も約40cmの差がある。確認面からの深さも15～40cmで、北側が若干深く残存している。4号墳に接し、北西部で周堀がつき出し接続させている。主体部及び痕跡は発見されず周堀内の西側から土師器碗、埴輪片が検出された程度である。

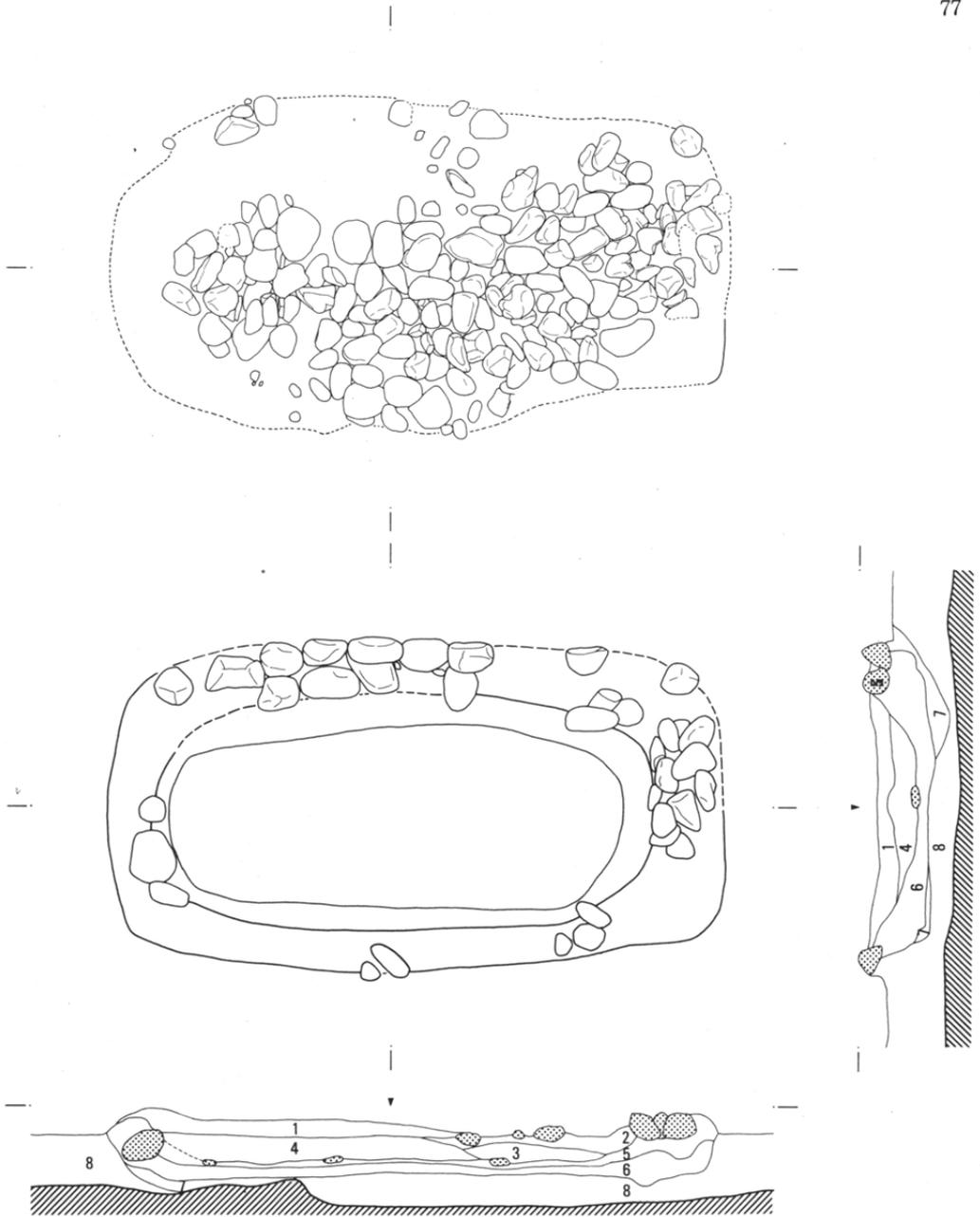
### 4. 4号墳 (第5図)

調査区内で最も規模の小さな古墳で、周堀の内径は東西で10.5m、南北で9.5m、外径は東



- 1号墳周堀断面土層 L=57.5M
- 1 耕作土 パミス含む
  - 2 褐色土 ロームブロック斑状に含む
  - 3 暗褐色土 ローム粒子少量含む
  - 4 黒褐色土 粘土質土斑状に含む
  - 5 黒褐色土 白い砂状土、ロームブロック斑状に含む
  - 6 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む
  - 7 黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量含む
  - 8 黄褐色土 7層と類似 白い砂状土少量含む
  - 9 黒褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量含む
  - 10 黒褐色土 ローム粒子少量含む
  - 11 黄褐色土 ローム粒子多量含む
  - 12 ソフトローム
  - 13 暗褐色土 ロームブロック多量含む
  - 14 暗褐色土 ローム粒子多量含む

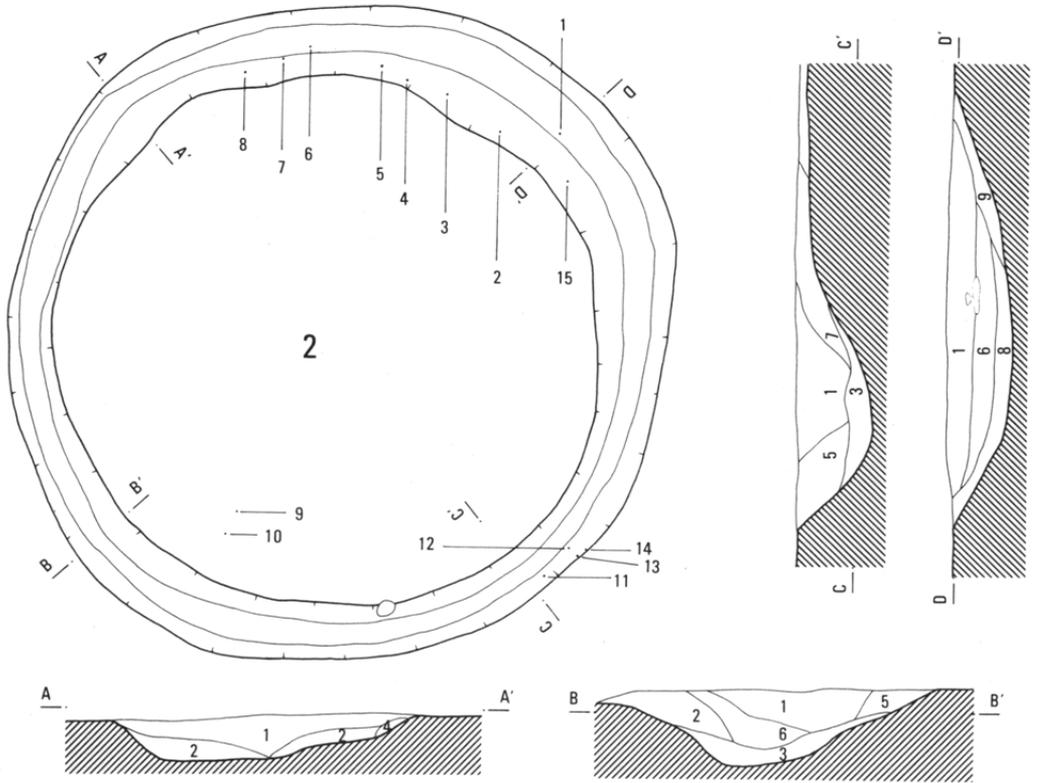
第3図 三空山1号墳



1号墳主体部土層 L=57.6M

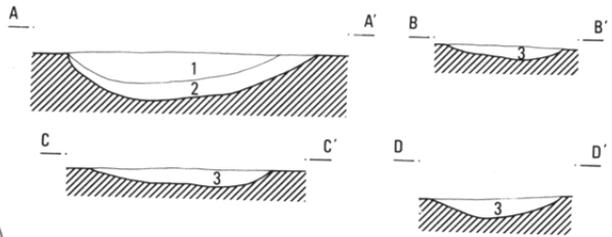
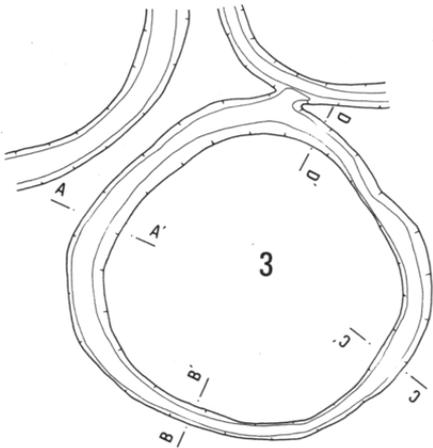
- 1 礫まじり粘土 粘土多量、指頭大～こぶし大礫含む
- 2 黒色土 粘土、指頭大礫含む
- 3 粘土
- 4 礫 指頭大～手の平大礫、粘土少量含む
- 5 小豆大～大豆大、手の平大礫、粘土少量含む 西表面上に朱がみられる
- 6 純粘土 褐鉄銹色部分的に入る
- 7 黒土色
- 8 黒褐色土
- 9 ハードローム
- 7 黒色土

第4図 三奈山1号墳主体部(30分の1)



2号墳周堀断面土層 L=57.0M.

- 1 暗褐色土 褐色土を斑点状に含む
- 2 黒褐色土 ロームブロックを斑点状に含みローム粒子を少量含む
- 3 黄褐色土 ロームブロックを斑点状に含みローム粒子を多量に含む
- 4 ロームブロック 黒色土を斑点状に含む
- 5 褐色土 ロームブロックを含む
- 6 暗褐色土 ローム粒子を少量含む

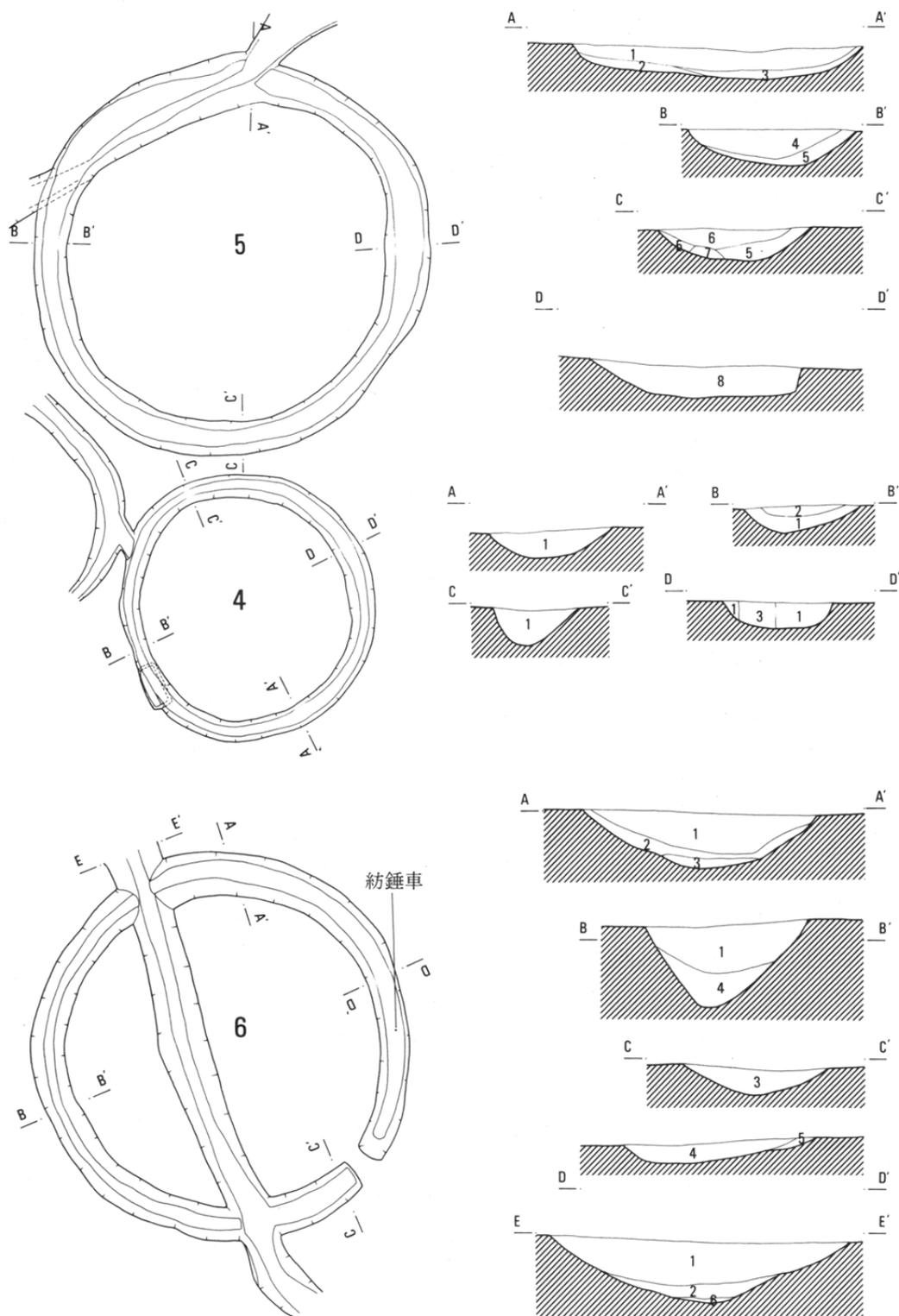


- 7 褐色土 パミスを含む
- 8 暗褐色土 ロームブロックを斑点状に含みローム粒子を少量含む
- 9 黄褐色土 ローム粒子を多量に含む

3号墳周堀断面土層 L=56.85M

- 1 暗褐色土 ローム粒子とパミスを少量含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックを斑点状に含みローム粒子を少量含む
- 3 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量に含む

第5図 三奈山2号墳・3号墳



第6图 三垄山4号墳・5号墳・6号墳

- |           |                     |           |                     |
|-----------|---------------------|-----------|---------------------|
| 4号墳周堀断面土層 | L=56.5M             | 6 暗褐色土    | ローム粒子とパミスを少量含む      |
| 1 黄褐色土    | ロームブロック、ローム粒子を多量に含む | 7 黒褐色土    | ローム粒子少量含む           |
| 2 暗褐色土    | ローム粒子を少量含む          | 8 暗褐色土    | ロームブロックを斑点状に含む      |
| 3 攪乱      |                     | 6号墳周堀断面土層 | L=55.5M             |
| 5号墳周堀断面土層 | L=56.5M             | 1 暗褐色土    | パミスと小さなロームブロックを少量含む |
| 1 暗褐色土    | パミスを少量含む            | 2 暗褐色土    | ローム粒子を少量含む          |
| 2 暗褐色土    | 小豆大礫、中礫とローム粒子を少量含む  | 3 黄褐色土    | ロームブロックとローム粒子を多量に含む |
| 3 ソフトローム  |                     | 4 暗褐色土    | ロームブロックを斑点状に含む      |
| 4 暗褐色土    | パミスとロームブロックを少量含む    | 5 ソフトローム  |                     |
| 5 黄褐色土    | ロームブロックとローム粒子を多量に含む | 6 砂礫      |                     |

西で12.5m、南北で11.5mと若干東西にのびた円形である。南西部で3号墳の周堀と接続しているが、周堀底は接続部で約30cm程深い。周堀幅は1~1.2m、周堀底も比高差約20cmとほぼ一定し、北西は5号墳に1mと近接している。

周堀南側は中世と考えられる土塚によって一部切られている。遺物はハケ目をもつ甕の破片が周堀覆土から発見されている程度である。

## 5. 5号墳 (第5図)

5号墳は、3号墳、4号墳の北に位置し、更に北に6号墳が存在する。西側の周堀内側を溝によって切れ、周堀の内径は東西で推定14.5m、南北15.5m、外径は東西18m、南北18.8mと多少南北に長い円形である。周堀幅は1.4m~2mで、周堀底は南側と北側で約50cmの比高差があり北側が低い。西を横切る溝は、1.8m~2mの幅をもち、中世の溝と考えられ、陶器片がみられる。古墳本来の遺物は少なく、若干の円筒埴輪と南西周堀内から小型甕の破片が検出されている程度である。

## 6. 6号墳 (第5図)

5号墳の北で調査区最北端に位置し、3m余で国道17号線の切り通しとなる。周堀内径14.5m、外径17.5mとほぼ円形であるが、南側は1mほど切れて塊状となる。周堀幅は1.2~2.2mであるが、確認面からの深さは南と東では浅く15~20cm、北側は50cm、西側は75cmとまちまちで、周堀底の標高差も1m以上ある。ほぼ、中央を南北に5号墳から続く溝が切っている。主体部およびその痕跡は認められず、周堀からの遺物は東の底から紡錘車1点の他埴輪片若干、溝からは陶器片や埴輪片が検出されている程度である。

## IV. 出土遺物について

### 1. 1号墳出土遺物 (第7図・第8図)

#### 朝顔形円筒埴輪

1、2、10は肩部の破片である。1は外面が断面台形の突帯をはさんで上部が7本/2cmのタテハケ、下部がB種横ハケによって二次調整される。内面は上方向にユビナデされ、肩部は、やや内弯気味に立ちあがり、その先は欠損するが、外面はヨコナデされ突帯になるものと考えられる。胎土に砂をよく含む他に雲母、酸化鉄粒、白色軽石粒なども含む。色調黄橙色。

2は外面が7本/2cmのタテハケ、内面が斜方向にユビナデされ、突帯は2本残存するが、いずれもヨコナデによって丁寧に貼付している。肩部の突帯は断面台形を呈し、頸部の突帯は断面三角形を呈している。色調、胎土とも1と同様である。

10は肩部から頸部にかけての破片であり、外面が8本/2cmのナナメハケ調整で、内面が上方向にユビナデされ、一部ナナメハケが施される。突帯は断面台形を呈し、ヨコナデによって器面に貼付する。色調は赤褐色、胎土は1と同様である。

#### 円筒埴輪

3～4は胴部の破片である。3は透孔の位置から考えて第1突帯の部分と推定され、外面は6本/2cmのタテハケ、内面は上方向にユビナデされる。透孔は円形を呈すると推定されるが、時計回り方向に穿孔される。突帯は断面三角形に近い形状を呈し、しっかりとした作りである。色調は黄橙色、胎土に砂を多く含んでいる。

4はほぼ直立気味の器形を呈すが、透孔の位置から考えて第2突帯の部分と推定される。外面は8本/2cmのタテハケ調整で、内面は上方向のユビナデが施され、突帯の裏側にあたる部分是指頭による押えがみられる。透孔は円形を呈し、突帯は突出の低い断面三角形を呈している。また外面には「一」状のヘラ描きが施され、色調は赤褐色、胎土は3と同様である。

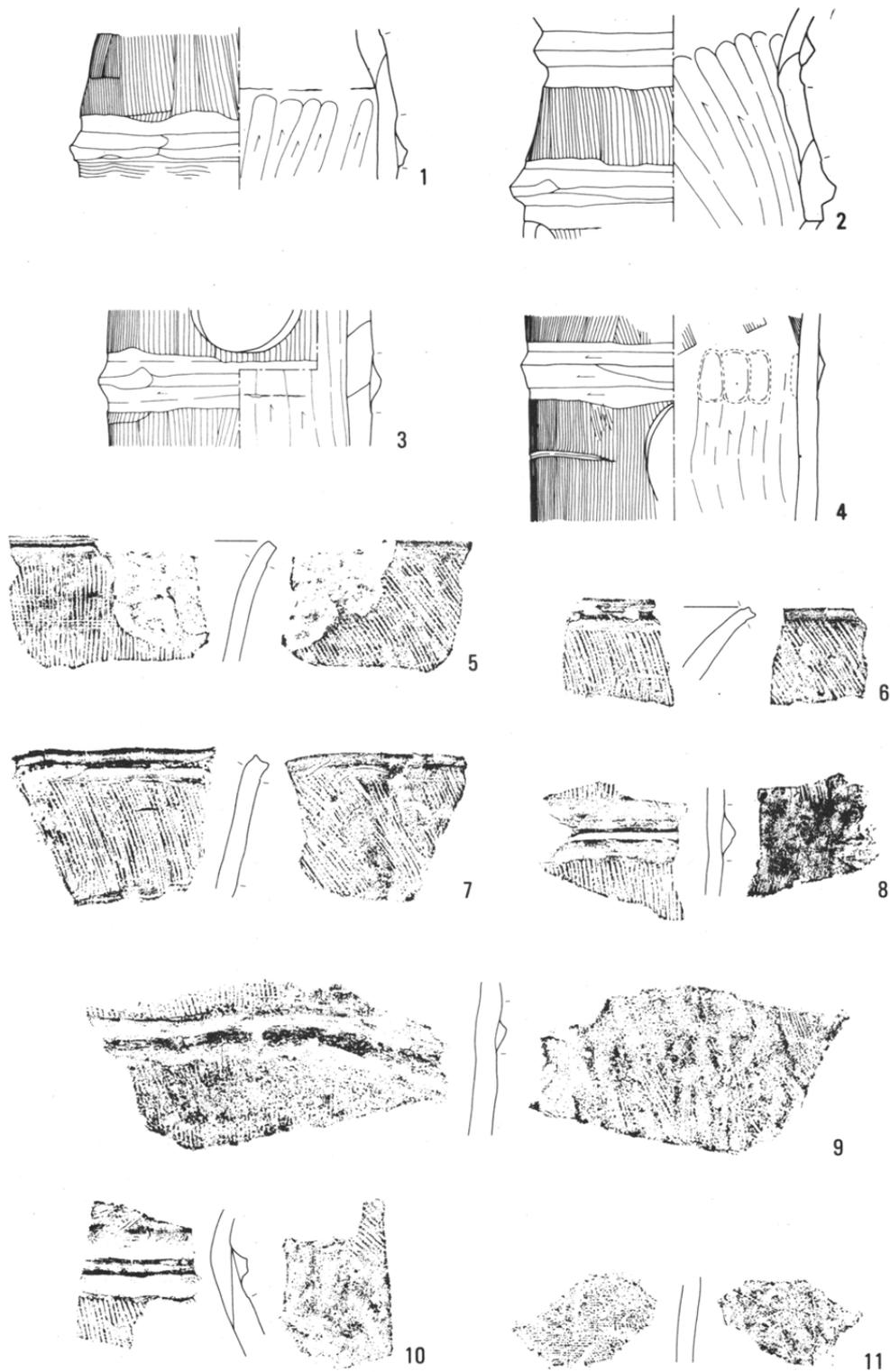
5～7は口縁部の破片である。5は口縁先端をヨコナデし、外面8本/2cmのタテハケ調整、内面は7本/2cmのナナメハケ調整である。

6は外面が8本/2cmのナナメハケ調整で、内面が8本/2cmのナナメハケ調整である。

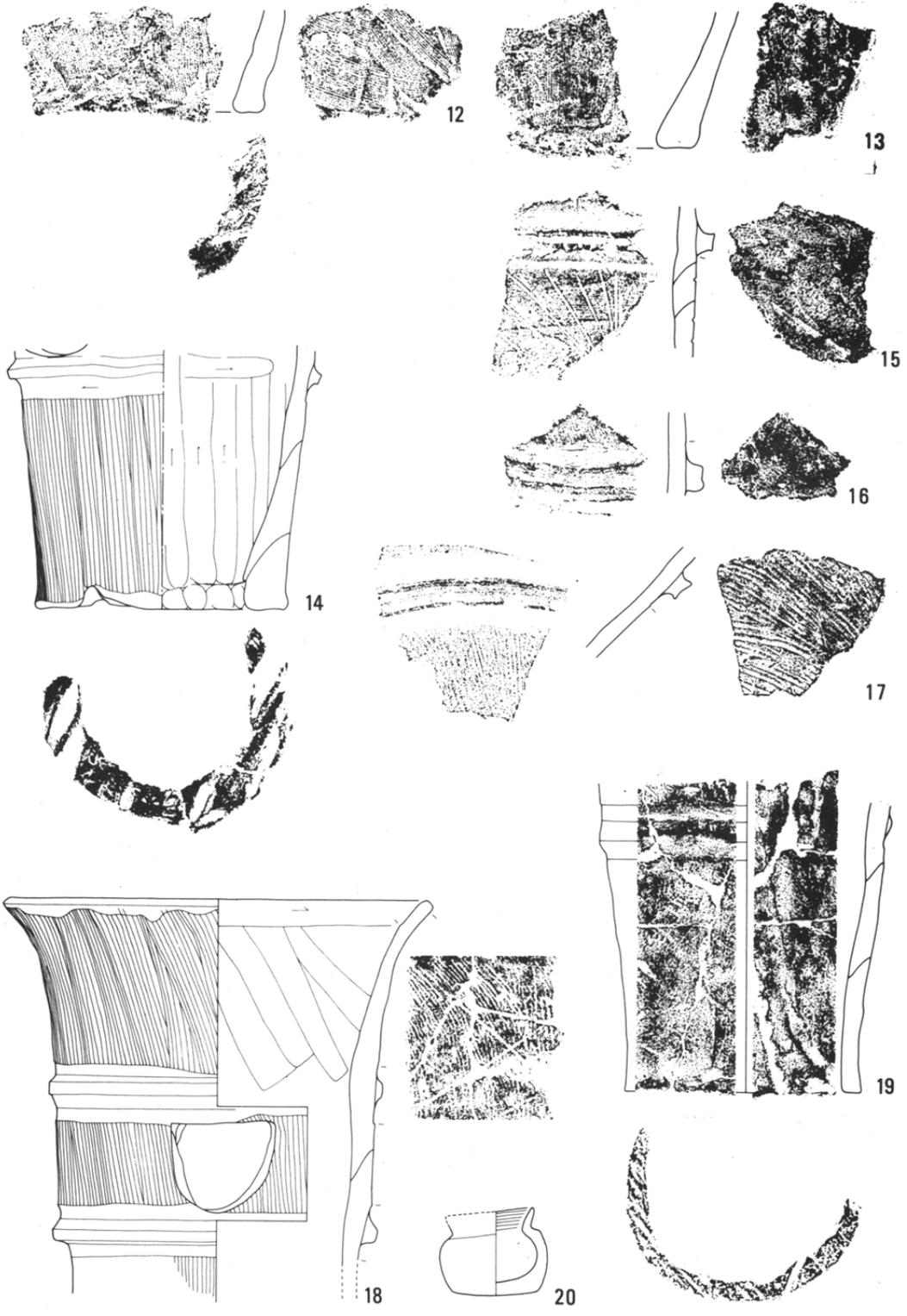
7は外面が8本/2cmのナナメハケ調整で、内面は10本/2cmのナナメハケ調整である。外面下端部には、わずかにヨコナデされた部分が残し、突帯部分になると推定される。色調は5、6が黄橙色、7は赤褐色、胎土はいずれも砂を多く含んでいる。

8、9は胴部の破片である。いずれも外面がタテハケで内面がユビナデされ、突帯は突出の低い断面三角形を呈し、ヨコナデによって貼付されている。

14は底部で底径15.5cmを計り、開き気味に立ち上がる。外面は7本/2cmのタテハケで調整され、突帯は断面台形を呈し、ユビナデによって器面に貼付されている。内面は上方向のユビナデで基底部是指頭による押えがみられ、透孔は突帯直上に僅かに残るが、円形もしくは半円形を呈すると



第7图 三桤山1号墳出土遺物(1)



第8図 三奈山1号墳出土遺物(2)・遺構外出土遺物

考えられる。底部には棒状圧痕がみられ、色調は暗灰色、胎土に砂を多く含んでいる。

11～13はいずれも1号墳の周溝より出土したものであるが、色調、焼成、整形などの特徴から本来2号墳に帰属する遺物であろうと推定される。11は胴部の破片で外面はタテハケによる調整の後に、2次調整として14本/2cmのB種ヨコハケが施され、内面はユビナデされている。

12、13は底部の破片で、12は外面が13本/2cmのタテハケ調整で、内面は13本/2cmのナナメハケが施され、底部に棒状圧痕がみられる。

13は外面に14本/2cmのタテハケ調整を施し、内面は上方向へのユビナデが成される。色調はいずれも黄白色を呈し、焼成も良く胎土に砂を多く含んでいる。

#### 小形土器 (第7図20)

器高5.4～4.8cm、最大径が胴部にある6.6cmの小形の土器で、底部はヘラケズリにより平滑に仕上げられ、胴部外面に胎土の水分不足による製作時のヒビ割れがそのまま残っている。口縁部は水引き状のヨコナデが反時計回りにみられ、胴部内面はナデが施されているが、凸凹しておりユビオサエ状である。色調は黄褐色、胎土に細かな砂を含んでいる。

## 2. 2号墳出土遺物 (第9図・第10図)

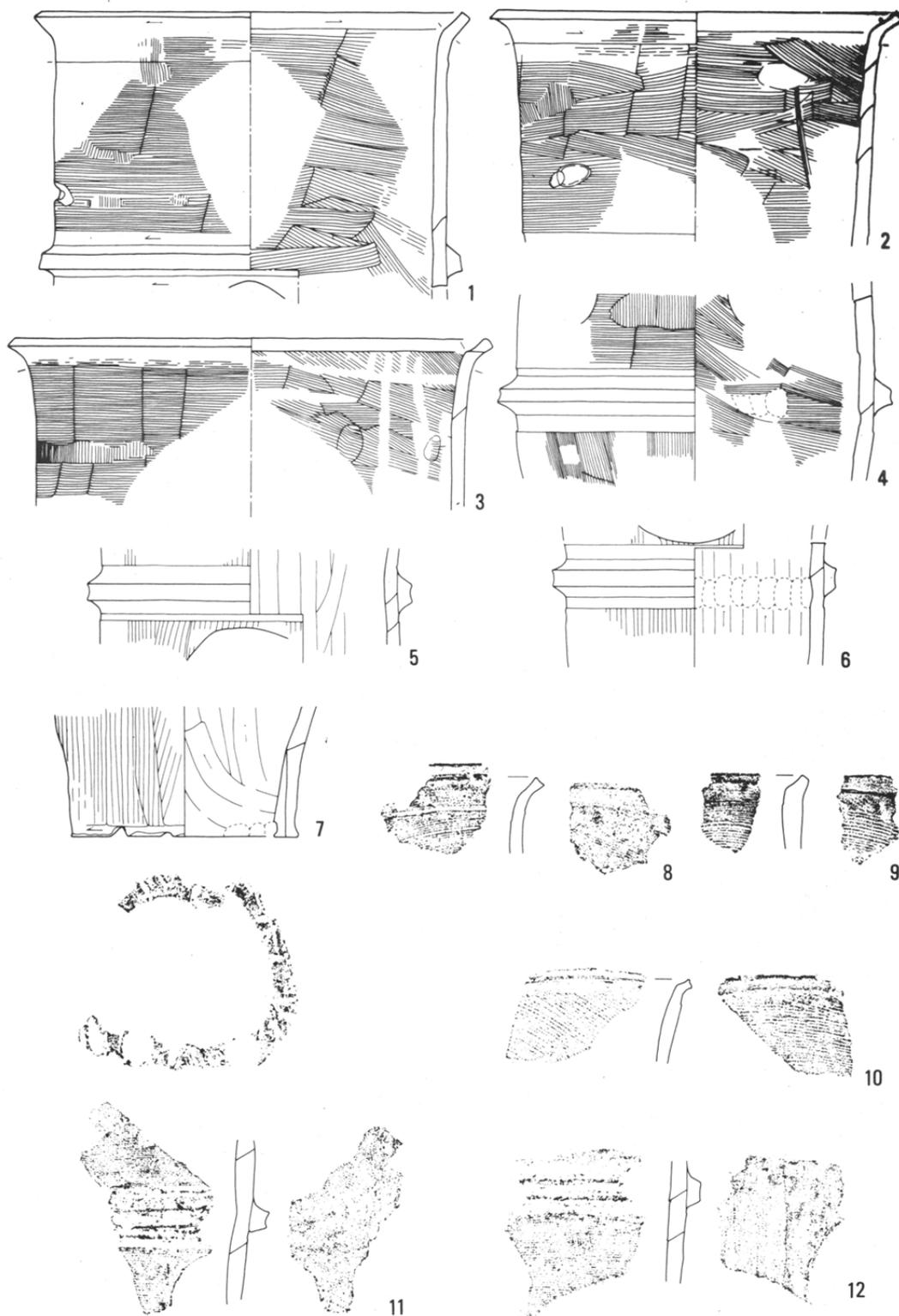
### 円筒埴輪

1～3はいずれも胴下半部を欠損した口縁部である。1は口径25.6cmを測り、口縁部が外反して開く他はほぼ直立気味に立ち上がる。口縁部は内、外面ともヨコナデが施される。突帯は1段のみ残っており、断面台形を呈するしっかりとしたもので、ヨコナデによって器面に丁寧に貼りつけられている。突帯直下には透孔がわずかに残存しており、復原すると円形をなすものと考えられる。外面はタテハケによる調整の後2次調整として14本/2cmのB種ヨコハケが施されている。器壁には指による刺突が施されている。この刺突は他の破片にもいくつか見られるものであり、偶然の所産とするよりは、ある意図のもとに行なわれたものと考えたい。内面は概してナナメハケによって調整されている。胎土には砂をよく含み、雲母、酸化鉄粒、白色軽石粒なども含まれている。色調は黄白色を呈す。

2は口径24.4cmを測り、外形はほぼ1と同じであるが突帯部は欠失しており、ヨコナデされた部分がわずかに残存している。外面はタテハケによる調整の後、2次調整として14本/2cmのB種ヨコハケが施されている。しかし、2次調整は雑であり、最低3回のハケの使用が看取される。内面は概してヨコハケ調整で、一部に輪積み痕を残し、その幅は3cm弱である。胎土、色調とも1と同様である。

3は口径28.8cmと他のものに比べやや大きい。外形はほぼ2と同じである。外面はタテハケ調整の後、13本/2cmのB種ヨコハケで調整され、その後上方向にナデが行なわれている。胎土、色調とも2と同様である。

4～6は突帯部である。4は第1段の突帯部で突出の高い、しっかりとした突帯をもつが、中央部が強クナデられているため断面はややM字状を呈する。外面は突帯を境に上半分がタテハケ調整の後、2次調整としてB種ヨコハケが施されているが、下半部は1次調整のままである。内面はナナメハケ



第9图 三桠山2号墳出土遺物(1)



第10图 三李山2号填出土遗物(2)

によって調整され、突帯の裏側にあたる部分是指による押えが看取できる。胎土、色調は他のものと同じであり、2と同一個体であると考えられる。

5は第2段突帯部で、断面M字状のしっかりとした突帯をもつ。外面は6本/2cmのタテハケ調整で、内面は上方向にユビナデされている。突帯の下部には透孔が残っており、残存部から推定する限りでは円形を呈すると考えられる。色調、胎土は他のものと同じである。

6は第1段の突帯部で、高い突帯の上部に透孔がわずかながら残存している。外面は6本/2cmのタテハケで調整され、内面は上方向にユビナデされており、突帯の裏側にあたる部分是指頭で押えられている。突帯の剝離部分には浅い沈線が回っており、突帯貼付の際の目安にしたと考えられる。胎土、色調は他のものと同様であり、7と同一個体であると考えられる。

7は底部である。底径13.8cmを測り、大きく外反しながら立ち上がる。外面は6本/2cmのタテハケで調整され、基底部分はヨコナデが施されている。内面は概して上方向にユビナデされ、基底部分是指頭による押えがある。底部には棒状圧痕が認められ、胎土、色調は他と同様で6と同一個体をなすものと考えられる。

8～10は口縁部の破片である。8は口唇部をヨコナデされ、外面は2次調整としてB種ヨコハケが施され、内面はナナメハケによって調整されている。胎土、色調は他のものと同様である。

9は他の口縁部とやや異なり厚手のもので、外面はB種ヨコハケによって2次調整され、内面はヨコハケである。胎土、色調とも他のものと同様である。

10はやや外反しながら立ち上がり、口縁部で大きく開く。口唇部はヨコナデされ、外面は11本/2cmのナナメハケで調整され、指頭による刺突が1ヶ所認められる。内面はヨコハケ調整で、胎土、色調とも他のものと同様である。

11～20は突帯部の破片である。11～15はいずれも外面調整にB種ヨコハケを持つもので、11、12は突帯下部に円形の透孔を残しており、13は外面に赤彩を施している。15は突帯が剝落しているが剝離部分に浅い沈線が回っている。いずれも色調は黄白色をなし、胎土には砂を多く含んでいる。

16～20は外面調整にタテハケを用いるもので、18は外面に赤彩を施し、20は透孔をわずかに残している。色調は18と20がそれぞれ暗褐色、赤褐色を呈する他は、他と同じく黄白色をなす。

21、22は胴部の破片である。21は外面がB種ヨコハケの2次調整で、内面がナナメハケの後一部が上方向にナデが施されている。

22は外面が6本/2cmのタテハケ調整で、ヘラ書きが施されている。内面はヨコハケの後上方向にナデられ、色調は21、22ともに黄白色、胎土に砂を多く含む。

23は底部の破片で、推定底径15.6cmを測るもので、外面が10本/2cmのタテハケ調整、内面がナナメ方向のナデで、底部は押えられている。須恵質に焼成されており色調は暗灰色であるが、胎土は他のものと変わらない。

#### 朝顔形円筒埴輪

24～27は口縁部の破片である。24は内、外面とも7本/2cmのヨコハケ調整で、口唇部のみヨコナデされている。色調は暗赤褐色。

25は内、外面ともヨコナデされ、口唇部は外側に折り返されている。色調は黄白色。

26は外面が5本/2cmのナナメハケ調整で、内面はヨコハケ調整である。色調は黄白色。

27は外面が4本/2cmのタテハケ調整で、内面は6本/2cmのヨコハケ調整である。色調は外面が黄白色を呈するが、内面は赤褐色である。

### 碗形土器

28は口径13.8~14.6cmと多少ゆがみ、器高は6.3cm、胎土は緻密で雲母、白色粒子、赤色粒子を含んでいる。口縁部は内、外面ミズビキ状ヨコナデ、体部外面ヘラケズリであるがヘラミガキ状に光沢あり。内面の底部は水引き状のナデ、体部上半に右上がりの条痕が認められ、口縁部の一部が欠損、焼成は良好、外面赤褐色、一部黒色、内面黄褐色で、全体として作りは丁寧である。

29は口径12.9~13.1cm、器高6.3cm、胎土は緻密で雲母、赤色粒子を含む。口縁部は内外面ミズビキ状ヨコナデ、体部外面はヘラケズリであるがヘラミガキ状に光沢がある。内面底部ナデ、体部上半弧状ヘラ痕が2~2.5cmごとに縦に10本みられ、それ以下は斜めに残る。口縁部一部欠損、焼成は良好、外面赤褐色であるが口縁部は黒褐色、内面は黄褐色で口縁部のみ赤褐色。底部内面に円形剝離風化がみられる。作りは丁寧である。

## 3. 4~6号墳出土遺物 (第9図・第10図)

### 甕 (第10図30)

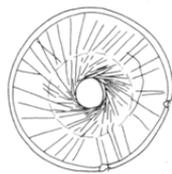
4号墳から発見された小さな破片で接合できない5点があり、従って器高や形態は不明である。厚さ4~7mm、外面にハケ目が施され、内面は幅の狭い板状工具によると考えられるナデが施される。色調は黄白色、胎土に細かな砂を含んでいる。

### 碗 (第10図31)

5号墳から発見された4点の破片で、口径の約半分弱が残存し推定口径12.2cm、最大径は胴部にあり、13.4cmである。外面胴部下半に製作時の胎土の水分不足によるヒビ割れが残るが、ヘラミガキ状のナデによって消された部分も多い。内面はナデが施され、口縁部は内、外面時計回りのヨコナデが行なわれている。色調は赤褐色、一部灰褐色、胎土に細かな砂を含む。

### 紡錘車 (第11図)

6号墳から発見されたもので直径4.3cm、厚さ1.3cm、孔径0.8cmであるが、上下でわずかに孔の位置がずれている。滑石製と考えられるが表面は丁寧に研磨され光沢をもっている。孔の周囲の稜は不明瞭で上面、下面とも微細な擦痕が残り、更に細い刻線が放射状に施されている。重さ約32gである。



第11図

三空山6号墳出土遺物  
( $\frac{1}{2}$ )

## 4. 遺構外出土遺物 (第7図)

試掘調査時、あるいは表土層削除中に発見された遺物も多く、そのなかから5点の埴輪を図示してある。

15～17は色調、焼成、整形などの諸特徴から、本来は2号墳に帰属するものと推定されるものである。15、16は突帯部の破片で、15は外面がタテハケによる調整の後にB種ヨコハケで2次調整され、内面もヨコハケ調整である。突帯は断面台形を呈し、ヨコナデによって器面に丁寧に貼付され、突帯表面にはヨコナデ後にハケ工具の木端による刻みがみられ、また器壁外面には放射状のヘラ描きが施されている。16は外面が10本/2cmのタテハケ調整で、内面はナメハケが施された後ナデによって調整される。共に色調は黄白色で、胎土に砂を多く含んでいる。

17は朝顔形円筒埴輪の口縁部の破片で、外面は5本/2cmのタテハケ調整、内面は5本/2cmのナメハケで調整される。突帯は断面M字状を呈し、ヨコナデによって器面に貼付され、色調黄褐色で胎土に砂を多く含む。

18は基部を欠失する円筒埴輪で、口径25.2cm、ゆるやかに開きながら立ちあがり口縁部が、大きく外反する。口縁部は内外面ともヨコナデされ、突帯は二段が残存し、断面台形、ヨコナデによって器面に丁寧に貼付されている。突帯間には半円形の透孔が二孔、相對して穿たれ、外面は8本/2cmのタテハケ調整である。内面は口縁部のみナメハケが施され、他は上方向へユビナデされる。色調は赤褐色で胎土に砂を多く含み、雲母、酸化鉄粒、白色軽石なども含んでいる。

19は底部で、底径14.8cm、やや開き気味に立ちあがる。外面は板状工具によってナデられ、内面は上方向へユビナデされる。突帯は断面三角形の突出の低いもので色調は赤褐色、胎土は18と同様である。

## V. 調査のまとめ

### 1. 遺構について

三奈山1号墳～6号墳は、当初集落址と予想されて調査に着手したものであったが、墳丘を失った周堀のみの調査であり、周堀内に転落した埴輪や土師器類が検出されたにすぎず、遺構の面からの積極的な年代決定の根拠に欠けている。1号墳からは、礫を比較的多く利用した粘土槨が検出されているとは言え、棺床面に朱が認められたのみで遺物は全く認められていない。埼玉県北西部地域での粘土槨は5世紀代前半代に位置づけられている例が多いが、これらの粘土槨は前山2号墳のような狭長な場合が多く、1号墳で検出された粘土槨は全長2.58m、幅1.4mと短かく、しかも幅が広い。しかも上部を礫で覆うという純然たる粘土槨とは呼び難いものがあり、後出的でむしろ礫槨に近いものと言えよう。このような類例も少なく遺構の面からは5世紀の後半代もかなり下った時期以降のみ考えておきたい。

1号墳以外の5基については、遺構から年代を推定できる根拠は全くなく遺物の検討を待つ他はな

い。

この6基の古墳の墳丘破壊については、かなり古い時期に行なわれたと考えられる。1号墳には、人骨を出土した墓拡を含む4つの土拡が認められ、寛永通宝、キセル、かわらけなどから江戸期の墓拡と考えられ、5号墳、6号墳では中世～近世の溝が切っており、しかも4号墳、6号墳には農道(市道)が通っており少なくとも江戸期には全ての墳丘が削平されていたと考えられる。

## 2. 1号墳出土の埴輪

1号墳の埴輪は普通円筒、朝顔形のみで色調は赤褐色を主体とするもので窖窯焼成を想定することができる。

外面調整は、タテハケ調整のもの、ナナメハケ調整のもの、わずかではあるが2次調整にB種ヨコハケをもつものがみられる。内面調整は、ナナメハケ、タテハケ調整のものとなデを加えるものがある。ハケメは7本/2cm前後の比較的粗いものであり、2号墳のB種ヨコハケ調整に使用される14本/2cm前後の細かいハケメとは明確に異っている。これは1号墳の周堀内に混入し、本来は2号墳に伴っていたと推定される埴輪とを区別する根拠ともなっている。底部調整のなされている個体は確認できず施されなかったものと推定される。突帯は断面三角形を呈するものも存在するが断面台形のものもある。ただし2号墳の埴輪ほど突出は高くなく偏平化の傾向にある。

透孔は円形で半円形ものは存在しなかったか、あるいは極めて少数であったと考えられ、赤彩の埴輪も確認できなかった。埴輪の全形をうかがえるものはなかったが、突帯と透孔の位置関係から推定し、普通円筒は2条の突帯をもった3段になると考えられる。1点のみ存在したB種ヨコハケの埴輪は朝顔形の肩部の突帯下の段に施されたもので、普通円筒には確認できず熊谷市横塚山古墳(文献15、17)と同様のあり方を示している。

## 3. 2号墳出土の埴輪

2号墳の埴輪は1号墳同様、普通円筒、朝顔形のみで形象埴輪の類は確認できなかった。焼成は総じて良好で堅緻なものが多く、黒斑を有するものも無く全て窖窯焼成によるものと考えられ、色調もほぼ黄白色に統一される特徴がある。外面調整はタテハケ調整のみのもの、2次調整にB種ヨコハケをもつもの、ナナメハケのものなどがみられ、内面調整はナナメハケもしくはヨコハケ調整で、ナデを加えているものも存在する。

ハケメは14本/2cm前後の細かいものと6本/2cm前後の粗いものがあり、前者はB種ヨコハケ調整に、後者はタテハケ調整にのみみられ、底部調整を加えたものはないようである。

突帯はいずれも突出の高い断面台形をなすもので、突帯の位置割り付けのためと考えられる沈線を描きその上に貼付し、また突帯にハケ工具による刻みを有するものもある。このようなハケ工具の木端やヘラによって刻みを施す例は奈良県桜井市メスリ山古墳(文献19)、群馬県伊勢崎市お富士山古墳(文献20、25)、前橋市大小路山古墳(文献20)などにみられ、いずれも5世紀後半を下らないものである。

透孔は半円形を想定させるような破片はなく、円形を呈するものと考えられる。色調は黄白色を基

調とするもので赤褐色のものはわずかである。赤彩が残存した破片はわずかであるが認められ、基本的には全てに赤彩が施されていたと考えられる。1個体に復元し得るもの、あるいは全体をうかがえる埴輪は存在しなかったが、破片から類推する限りでは、2条3段の余り外反しないズン胴に近い形態を示すものと考えられる。

#### 4. 1号墳・2号墳の編年的位置

1号墳、2号墳は近接して築造され、規模も1号墳がやや小さいものの、ほぼ同規模である。しかし、それぞれから出土した埴輪は色調、焼成、整形など明確に差異が認められる。2号墳の埴輪は、B種ヨコハケが主体的であり、時期的な築造順序は2号墳→1号墳へと推移することが考えられる。川西宏幸氏の円筒埴輪の編年観（文献1）によれば、2号墳の埴輪はⅣ期の、1号墳の埴輪はⅤ期の範疇にあるといえよう。2号墳からは、埴形土器2点が出土し年代比定の好資料であるといえるが、1号墳は年代比定の根拠とする資料に欠けている。ここで2号墳出土の埴形土器の時期的な位置を考慮して、2号墳を5世紀後半から末葉に位置づけ、1号墳がそれに続くとなれば6世紀初頭に位置づけておきたい。

#### 5. 埼玉県域におけるB種ヨコハケの出現と消滅

埼玉県内でB種ヨコハケで2次調整された円筒埴輪を出土する古墳は、発掘調査が行なわれた例、表面採集された例などを含めて21例が確認されている。そのうちの14例が本庄市及び周辺の児玉町、美里町に集中して検出されている。

美里町志戸川古墳（文献22）の例は断面が所謂サンドイッチ状に焼成され、野焼き焼成を想定させるものであり、伴出した土師器の中で和泉式のなかでも比較的古いと考えられる埴形土器があり、県内のB種ヨコハケをもつ埴輪のなかではやや先行的である。

他に黒斑をもつB種ヨコハケの2次調整が認められる円筒埴輪は、本庄市公卿塚古墳（文献2、22）において確認されており、昭和60年に行なわれた県史編さん室による調査によれば、格子目タタキをもつ埴輪に混って少量のB種ヨコハケをもつ埴輪が確認されている。格子目タタキをもつ埴輪の年代観（文献4）に従うならば、5世紀第2四半期を上限とすることができるが、公卿塚古墳出土の石製模造品（文献2）を白石稲荷山古墳出土のものより新しいとする見解（文献21）もあり、児玉町金鑽神社古墳出土（文献6）の格子目タタキをもつ埴輪との比較から、公卿塚古墳の築造を5世紀中葉でもやや新しい時期に位置づけておくのが妥当であろう。ただ金鑽神社古墳ではB種ヨコハケの埴輪は確認されておらず注意しておきたい。

B種ヨコハケをもつ埴輪がピークをむかえるのは5世紀第3四半期から第4四半期にかけてであり、いずれも須恵質、黄白色あるいは赤褐色に焼成されて窖窯焼成を予想させるものであり、金鑽神社古墳、公卿塚古墳などの格子目タタキをもつ埴輪が出現する5世紀中葉を画期とし、あたかもB種ヨコハケ技法の普遍化と呼応するかのごとく野焼き焼成から窖窯焼成へと移行していくようである。窖窯焼成への変化をもって須恵器の影響とするのであれば、遅くとも生野山9号墳（文献22）の造営された5世紀第3四半期（TK208型式段階）までには児玉地方で須恵器生産が開始されていたこと

	名 称	所 在 地	墳 形	規 模	主体部	孔
1	生野山9号墳	児玉町児玉字下生野	円	4.2	礫槨	∩
2	生野山10号墳	児玉町児玉字下生野	円	2.1	木棺直葬	
3	生野山14号墳	児玉町児玉字下生野	円	1.7	竪穴式石室	
4	長沖14号墳	児玉町長沖字南57-1	円	3.4		∩?
5	熊谷後5号墳	美里町下児玉字熊谷後111	円	1.5		∩
6	志渡川古墳	美里町古郡	円	4.0	箱式石棺?	○
7	塚本山73号墳	美里町中山	円	1.2		∩
8	塚本山77号墳	美里町中山	円	1.4		
9	諏訪山古墳	美里町古郡字向田	帆	3.9	箱式石棺	
10	三杓山2号墳	本庄市小島字三杓山	円	2.2		○
11	三杓山1号墳	本庄市小島字三杓山	円	1.9		○
12	公卿塚古墳	本庄市北堀字久下塚1678	円	5.0	粘土槨	○
13	東小学校1号墳	本庄市日の出1-2	円	1.9		∩
14	本庄NO143号	本庄市日の出1-1	円			
15	伊奈利塚古墳	岡部町山河	円			∩
16	諏訪山33号墳	東松山市西本宿	円	2.9		○
17	横塚山古墳	熊谷市中奈良	前	5.0		○
18	とやま古墳	南河原村犬塚北	前	6.8	土壇	○
19	埼玉稲荷山古墳	行田市埼玉	前	12.0	礫槨 粘土槨	○ ∩
20	大日塚古墳	行田市佐間	円	2.2	粘土槨 箱式石棺	
21	馬室埴輪窯址群	鴻巣市原馬室字赤台	窯			○

墳形 円—円墳 帆—帆立貝式 前—前方後円墳

規模 単位メートル

孔 ∩—半円 ○—円形

孔数	突帯数	ハ ケ メ				焼成	伴出遺物	備考(文献)
		1 段	2 段	3 段	4 段			
2	2	1 縦	2 B横	2 B横		窯	高坏・碧玉製管 玉・鉄鏝	(文献22)
2	2	1 縦	2 B横			窯	壺・坏	(文献22)
2	2					窯	壺・須恵器 珷	
2	2	1 縦	2 B横	2 B横		窯		一部調査 (文献8)
2	2	1 縦	2 B横	2 B横		窯		一部調査 (文献22)
						野?	高坏・手捏・埴	断面サンドイッチ状 (文献22)
2	2		2 B横	2 B横		窯		表採 (文献13, 22)
2						窯		表採 (文献13)
						窯		表採 (文献21)
2	2	1 縦	2 B横	2 B横		窯	埴	(本書)
2		朝顔のみ				野	滑石製模造品・ 格子目叩き埴輪	(本書) 一部調査
						窯		(本書)
						窯		表採
2	2	2 C横	2 C横	1 縦		窯		伝承、C種?(文献11, 22)
2	3	2 B横	2 B横	2 B横	2 B横	窯	須恵器・土師器	(文献22)
		朝顔のみ				窯		表採 (文献17)
2	3?			2 B横	2 B横	窯	鉄鈴	(文献16)
2	5	最上段孔部のみ 2 B横				窯	須恵器・画文帯 神獸鏡・鈴杏葉 剣・鉄鏝他多数	(文献9)
	6					窯		(文献18)
						窯		(文献10)

ハケメ 1 縦—1 次縦ハケ 2 B横—2 次B種横ハケ

孔 数 1 突帯間の数

焼 成 野—野焼 窯—窖窯

を物語るものであり、児玉町ミカド遺跡での須恵器のあり方とあわせ興味深いところである。

B種ヨコハケをもつ埴輪で終末の様相を示すものに埼玉稲荷山古墳出土(文献9)のものがある。稲荷山古墳出土の埴輪は半円形の透孔をもち黄白色を呈し赤彩が施される1群と、赤褐色を呈し赤彩の施されない1群との2タイプに大別することが可能とされ(文献14)、B種ヨコハケをもつものは前者に含まれている。しかしその絶体量は少なく、1次タテハケ調整のみの埴輪に較べて客体的であり、施文箇所も透孔の存在する段のみと限定されている。また三笠山1号墳や横塚山古墳出土の埴輪は、いずれも朝顔形埴輪の肩部突帯直下の段にのみB種ヨコハケが施されているものの、普通円筒は1次タテハケに統一されている。

これらの古墳の直後の時期に比定される行田市大稲荷1号墳(文献23)、熊谷市鎧塚古墳(文献24)などの埴輪にはB種ヨコハケによる2次調整を欠き、1次タテハケ調整に統一されている。大稲荷1号墳ではTK47型式に比定できる隙や、鬼高I式の高坏が、鎧塚古墳からは墓前祭に使用された鬼高I式の土器や須恵器が多量に出土している。したがって稲荷山古墳の須恵器がTK23型式に比定されていることと合せ、5世紀末葉にB種ヨコハケ消滅の一端を求めることができ、少なくとも6世紀第1四半期には、ほぼ消滅するものと考えられる。

## 参 考 文 献

- 文献1 「円筒埴輪総論」 川西宏幸 『考古学雑誌64巻2号』 日本考古学会 昭54
- 文献2 『本庄市史 資料編』 本庄市 昭51
- 文献3 『辛亥銘鉄剣と金石文』 埼玉県 昭58
- 文献4 「埼玉県の前期古墳概観」 坂本和俊 『第5回三県シンポジウム資料 古墳出現期の地域性』 北武蔵古代文化研究会他 昭59
- 文献5 『金屋遺跡群』 児玉町教育委員会 昭56
- 文献6 「児玉町金鑽神社古墳の調査」 佐藤好司 『第18回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉考古学会他 昭60
- 文献7 『新編埼玉県史 資料編2』 埼玉県 昭57
- 文献8 『長沖古墳群』 児玉町教育委員会 昭55
- 文献9 『埼玉稲荷山古墳』 埼玉県教育委員会 昭55
- 文献10 『馬室埴輪窯跡群』 埼玉県教育委員会 昭53
- 文献11 『埼玉県立博物館展示解説 歴史1』 埼玉県立博物館 昭52
- 文献12 『いぶき 8・9合併号』 本庄高校考古学部 昭50
- 文献13 『いぶき 12号』 本庄高校考古学部 昭56
- 文献14 「同一古墳における円筒埴輪の多様性の分析 一古墳における複数回の埴輪樹立について」 若松良一 『法政考古学第7号』 法政考古学会 昭57
- 文献15 『北武蔵における古式古墳の成立』 児玉町教育委員会 昭59
- 文献16 『とやま古墳』 埼玉県教育委員会 昭42
- 文献17 『横塚山古墳』 埼玉県遺跡調査会 昭46
- 文献18 『大日種子板石塔婆および古墳の調査』 行田市教育委員会 昭53
- 文献19 『メスリ古墳』 伊達宗泰他 榎原考古学研究所 昭52
- 文献20 『相川考古館特別展 群馬の円筒埴輪』 相川考古館 昭54
- 文献21 「関東における古墳出土の滑石製模造品について」 稲村繁 『国学院大学大学院紀要 文学研究科 第14輯』 昭58
- 文献22 『第6回三県シンポジウム資料 埴輪の変遷—普遍性と地域性—』 北武蔵古代文化研究会他 昭60
- 文献23 「行田市須加大稲荷古墳群について」 栗原文蔵 小林重義 『埼玉考古第12号』 埼玉考古学会 昭49
- 文献24 『鍛塚古墳』 熊谷市教育委員会 昭56
- 文献25 「群馬県お富士山古墳所在の長持形石棺」 白石太一郎他 『国立歴史民俗博物館研究報告 第3集』 昭59

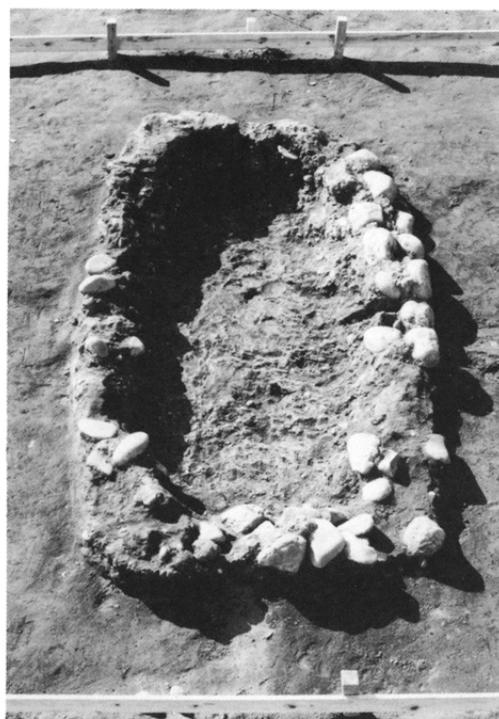




1 三柰山1号墳（南から）



2 三柰山1号墳主体部上面礫の状況



1 三板山1号墳主体部検出中(左)・主体部棺床(右)



2 三板山1号墳主体部断面(東側)



1 三杵山1号墳周堀（東側）



2 三杵山1号墳土壇・周堀（西側）



1 三笠山2号墳（南から）



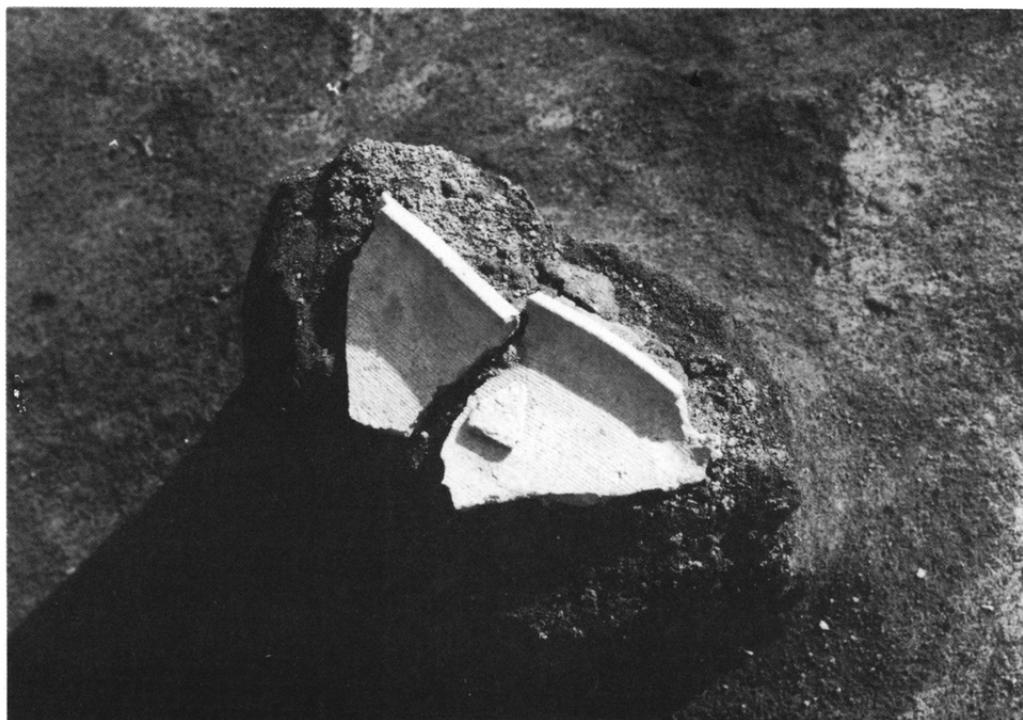
2 三笠山2号墳周堀（東側）



1 三柰山2号墳壙出土状況



2 三柰山2号墳壙出土状況



1 三奈山2号墳埴輪出土状況



2 三奈山1号墳(手前)・2号墳(西から)



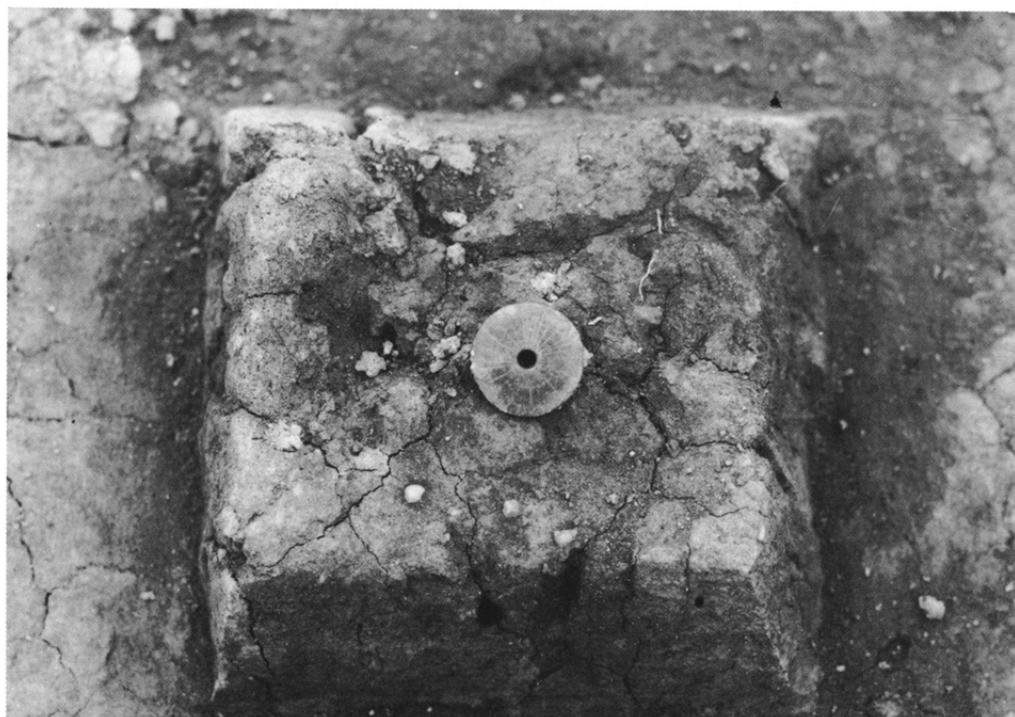
1 三奈山3号～6号墳（西から）



2 三奈山3号墳～6号墳（南から）



1 三空山6号墳・溝（南から）



2 三空山6号墳紡錘車出土状況

埼玉県本庄市

本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ

昭和61年3月20日印刷

昭和61年3月25日発行

発行 本庄市教育委員会

本庄市銀座1-1-1

印刷 大屋印刷株式会社

深谷市上野台498



